茨城県教育財団文化財調査報告第440集

須賀下東遺跡

東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

令　和　2　年　3　月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第440集

須賀下東遺跡

公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第440集

須賀下東遺跡

東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

令　和　2　年　3　月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は，国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として，昭和52年に調査課が設置されて以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所による東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）建設事業に伴って実施した，茨城県鉾田市に所在する須賀下東遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって，古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴建物跡や鍛冶工房跡が多数確認でき，当時の集落の様相が明らかになりました。本書が，歴史研究の学術資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から本書の刊行に至るまで，多大な御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，鉾田市教育委員会をはじめ，御指導，御協力をいただきました関係各位に対し，心から感謝申し上げます。

令和２年３月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長　小野寺　俊

例　　言

1　本書は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により，公益財団法人茨城県教育財団が平成29・30年度に発掘調査を実施した，茨城県鉾田市野友須賀下859番地1ほかに所在する須賀下東遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査　平成29年4月3日～8月31日

　　平成30年4月1日～5月31日

整理　令和元年7月1日～令和2年3月31日

3　発掘調査は，副参事兼調査課長白田正子のもと，以下の者が担当した。

平成29年度

首席調査員兼班長　　駒澤悦郎

調　査　員　　三浦裕介

調　査　員　　荒井保雄

平成30年度

首席調査員兼班長　　本橋弘巳

調　査　員　　皆川貴之

調　査　員　　茂木悦男

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長皆川修のもと，以下の者が担当した。

調　査　員　　茂木悦男

5　本書の執筆分担は，下記のとおりである。

調　査　員　　茂木悦男　第1章～第3章第1節～第3節1～3，4(1)・(2)・(4)，5～7，第4節

パリノ・サーヴェイ株式会社　第3章第3節4(3)

6　本書の作成にあたり，下記の金属製品の保存処理及び鉄滓の化学分析，炭化材の自然科学分析及び木製品保存処理，さらに微細遺物などの分類・集計については，パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し，その成果は当財団が編集した上で，第3章第3節4(3)，第4節に掲載した。

保存処理	第1号鍛冶工房跡出土の鉄斧，第44号竪穴建物跡出土の刀子
	第45号竪穴建物跡出土の鎌，第27号竪穴建物跡出土の刀子
分析	第2号鍛冶工房跡出土の鍛冶滓2点，椀形鍛冶滓3点
保存処理及び炭化材同定	第35号竪穴建物跡出土の木製品
分類・集計	第2号鍛冶工房跡及び第86号土坑出土の鍛造剥片などの微細遺物

また，本書の作成にあたり，第41号竪穴建物跡37・38，第47号竪穴建物跡8，第1号鍛冶工房跡8・9，遺構外7・9・10・12～15・19・24・25の石器の石材については，茨城大学名誉教授（地質学）・日立市郷土博物館特別専門職 田切美智雄氏にご指導いただいた。

7　本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等の資料は，茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，X＝＋16,640 m，Y＝＋59,240 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお，この原点は，世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　F－炉跡　P－ピット　PG－ピット群　SD－溝跡　SF－道路跡　SI－竪穴建物跡
SK－土坑

土層　K－撹乱

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1，各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・赤彩・還元　　炉・火床面・黒色処理・滓化

竈部材・粘土範囲

●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　■木製品　－・－・－ 硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量を記述した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm，cm，gで示した。なお，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構毎の通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6　竪穴建物跡の「主軸」は，炉・竈を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

7　今回の報告分で，整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更　SI43→第1号鍛冶工房跡，SK18→SI50・SD13，SX 1→第2号鍛冶工房跡，
SX 2→SK86，FP 1→F 3

欠番　SK15・20・30・62・80～82

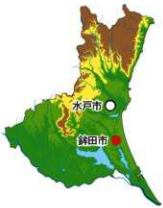
目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
須賀下東遺跡の概要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 3
第２章　位置と環境 …… 4
　第１節　位置と地形 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　調査の成果 …… 11
　第１節　調査の概要 …… 11
　第２節　基本層序 …… 11
　第３節　遺構と遺物 …… 13
　　１　縄文時代の遺構と遺物 …… 13
　　土　坑 …… 13
　　２　古墳時代の遺構と遺物 …… 15
　　(1)　竪穴建物跡 …… 15
　　(2)　鍛冶工房跡 …… 67
　　３　奈良時代の遺構と遺物 …… 72
　　(1)　竪穴建物跡 …… 72
　　(2)　溝　跡 …… 115
　　４　平安時代の遺構と遺物 …… 116
　　(1)　竪穴建物跡 …… 117
　　(2)　鍛冶工房跡 …… 122
　　(3)　化学分析 …… 135
　　鉄滓の化学分析 …… 135
　　鉄関連微細遺物の分類・集計 …… 141
　　(4)　土　坑 …… 143
　　５　中・近世の遺構と遺物 …… 144
　　(1)　道路跡 …… 144
　　(2)　溝　跡 …… 145

6　時期不明の遺構 …… 148
(1)　竪穴建物跡 …… 148
(2)　土　坑 …… 149
(3)　溝　跡 …… 159
(4)　炉　跡 …… 160
(5)　ピット群 …… 161
7　遺構外出土遺物 …… 161
第4節　総　括 …… 166
写真図版 ……PL 1～PL28
抄　録
付　図

須賀下東遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的



須賀下東遺跡は，鉾田市の中央部を流れる巴川右岸の標高 19 ～ 20 mほどの台地上に位置しています。

東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）建設事業に伴い，遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため，公益財団法人茨城県教育財団が平成 29・30 年に 7,227㎡について発掘調査を行いました。

調査の内容

今回の調査では，竪穴建物跡 49 棟（古墳時代 24・奈良時代 21・平安時代２・時期不明２），鍛冶工房跡２基，土坑 78 基，溝跡 13 条，道路跡１条，炉跡３基，ピット群３か所などを確認しました。当遺跡の中心となる時期は，古墳時代から平安時代にかけてであることが分かりました。また，鍛冶工房跡が確認され，当時の鉄生産の様子の一部を知ることができました。

平成 29 年度調査区全景（西から）

第41号竪穴建物跡

第1・2号鍛冶工房跡から出土した遺物

第1号鍛冶工房跡

第2号鍛冶工房跡

調査の成果

当遺跡の集落は，古墳時代の前期（4世紀）に台地中央部に成立し，中期（5世紀）へと継続し，古墳時代後期（6・7世紀）から奈良時代（8世紀）にかけて拡大し，さらに平安時代へと続くことが分かりました。古墳時代の集落の中心は，巴川の低地に面する台地縁辺部で，奈良時代になると台地の南側の平坦部へと移ることが分かりました。また，鍛冶工房跡を2基確認し，調査の結果，かなり長い間鉄生産が行われていたことが分かりました。

今回の調査では，縄文土器（深鉢），土師器の坏や椀，坩，器台，炉器台，高坏，甕，甑，須恵器の坏や蓋のほか，土製品（羽口），石器（砥石），石製品（金床石），金属製品（刀子，鎌，釘，小札）などが出土しており，当時の人々の生活の一端を垣間見ることができました。また，鉄生産に伴う遺物も多数出土しました。

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

平成25年5月24日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに，東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は平成26年4月28日，4月30日，5月21日に現地踏査を，平成26年10月29日，11月28日，平成27年1月14日，2月27日，7月21日，8月19日，平成28年11月22日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成27年10月5日，平成28年12月19日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，事業地内に須賀下東遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

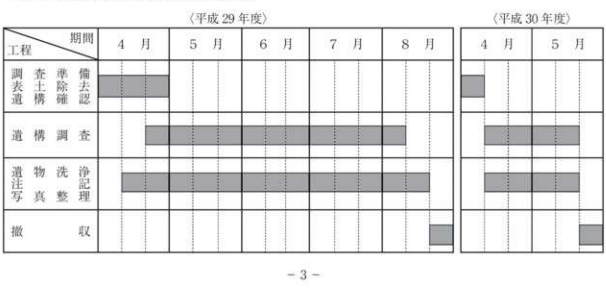
平成29年2月14日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに，文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成29年2月20日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成29年2月21日，平成30年2月28日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに，東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）建設に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成29年2月24日，平成30年2月28日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，須賀下東遺跡について，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成29年4月3日から8月31日まで，平成30年4月1日から5月31日まで発掘調査を実施した。

第2節　調　査　経　過

須賀下東遺跡の調査の概要を表で記載する。



第2章 位 置 と 環 境

第1節 位 置 と 地 形

須賀下東遺跡は，茨城県鉾田市野友須賀下859番地1ほかに所在している。

鉾田市は，茨城県の東部に位置し，北は涸沼，東は太平洋，南は北浦に面している。平成17年に旧鹿島郡の鉾田町・旭村・大洋村が合併して鉾田市となった。市域には巴川，鉾田川，大谷川の3つの主要河川が流れている。巴川は市域西部を北西から南東に流れ，北浦に流れ込んでいる。鉾田川は市域中央部を南流し，北浦に流れ込む手前で巴川に合流する。大谷川は市域北部を北流し，涸沼に流れ込んでいる。市域の地形は，主に北部及び中央部が東茨城台地，東部が鹿島台地，南部の巴川から北浦西岸の一部が行方台地で形成されている。太平洋に面する鹿島台地が標高20～44m，東茨城台地及び行方台地が標高19～35mで，台地部の周辺には巴川などによって樹枝状に開析された谷地形が広がっている。

須賀下東遺跡は，市内中央部の巴川右岸の標高20mほどの台地上に位置している。調査区域の東側は，巴川に流入する支流によって開析された谷地形となっている。南側及び西側は，行方台地へと続いている。調査区域の北側は巴川流域の低地に面する台地の縁辺部となっており，低地との比高差は20mほどである。

第2節 歴 史 的 環 境

須賀下東遺跡が所在する巴川流域には，旧石器時代から近世までの遺跡が多数分布している。ここでは，『茨城県遺跡地図』[2]に登録されている当該地域の主な遺跡を中心に，時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺構は確認されていないが，遺物が梨ノ子木久保遺跡や徳宿遺跡，烟田遺跡から出土している。特に梨ノ子木久保遺跡からは，周辺地域においても類例をみない超大型の柳葉形尖頭器（全長19.5㎝，幅3.9㎝，厚さ1.6㎝）が完全な形で検出され，また徳宿遺跡からも石槍と数個の尖頭器が出土している。このようなことから，鉾田市域の旧石器時代の人間の生活を窺い知ることができる。このほか青柳，借宿，徳宿地区から旧石器の遺物が出土している[2]。徳宿の稲荷山遺跡からは石器17点が出土している[3]。

縄文時代早期の遺跡としては，北浦北端の東側台地上の安塚遺跡，鉾田川上流の台地先端部の塙遺跡，巴川上流の入場台遺跡が確認されている。これらの遺跡からは，花輪台式土器，茅山式土器，子母口式土器などが出土している[4]。入場台遺跡からは，花輪台式土器のほか，カキの貝殻が少量散在していることから貝塚の存在が指摘されている[5]。巴川を挟んだ対岸の坂戸遺跡〈45〉からは，縄文時代早期後葉から前期前葉までの土器片が出土している[6]。また，巴川河口部である北浦湖頭の両岸の台地上では，串挽貝塚や万鍬ノ上遺跡などから早期から前期にかけての土器片が採集されている[7]。串挽貝塚からは，ハマグリ，バイガイ，サルボウ，ツメタガイなどが出土しており，鵜ケ島台式や田戸下層式の土器片が採集されている。

縄文時代前期になると巴川両岸の台地上に遺跡が増える。巴川右岸の開析谷の入り込む台地縁辺部には，後新田遺跡〈4〉，平須賀北遺跡〈8〉，相沢西遺跡〈26〉，丸山遺跡〈35〉が確認されている。また，巴川左岸の台地縁辺部には，梨ノ子木久保遺跡，坂戸遺跡，沢三本谷遺跡〈54〉，宮谷遺跡〈55〉，平出久保遺跡などが確認されている。梨ノ子木久保遺跡では，調査の結果6基の土坑が検出され，黒浜式・浮鳥式の縄文土器片のほか，尖頭器や石匙などが出土している[8]。ただし，尖頭器については，伴う遺物が出土していないため，土

坑の時期との時間的差異が考えられる。平出久保遺跡からは，縄文時代前期の竪穴建物跡が5棟確認されている。出土土器は，関山式の土器片が中心で，黒浜式の土器片も極少量出土している[9]。沢三木台遺跡，宮谷遺跡からも浮島式の土器片が出土している。

縄文時代中期になると遺跡数は増大し，巴川右岸の台地緩辺部に，宿台遺跡〈2〉，平須賀北遺跡，野友植松北遺跡〈13〉，権現平貝塚〈17〉，長峰遺跡〈28〉などが，また巴川左岸の台地緩辺部には，浦房地遺跡〈48〉，沢三木台遺跡，平出久保遺跡，烟田貝塚，青柳遺跡などから，縄文時代中期の土器片が出土している。浦房地遺跡では，縄文時代中期から後期前葉にかけての竪穴建物跡7棟，袋状土坑110基が確認されている[10]。当遺跡から北西方向6kmほどに吉十北遺跡がある。吉十北遺跡は中期が中心の遺跡で，竪穴建物跡36棟，炉跡7か所，陥し穴2基，土坑669基が確認されている。出土土器は阿玉台式や加曽利E式土器がほとんどで，他に打製石斧や磨製石斧などの石器が多く出土している。吉十北遺跡では，台地の縁辺部に竪穴建物跡が環状に建てられ，その内側に袋状土坑と呼ばれる数多くの貯蔵穴が確認されており，当地域における拠点集落であることが推測できる。巴川流域での当該期の遺跡を考える上で注目される遺跡である[11]。

後・晩期になると遺跡は少なくなり，生活の場の変化などが考えられる。巴川河口近くの両岸の台地上の金佛遺跡，宮下遺跡，青柳遺跡，神楽場遺跡，権現平貝塚，長峰遺跡，沢三木台遺跡などで当該期の遺物が採集され[12]，特に巴川右岸の台地上で多い。

弥生時代の遺跡は，鉾田川左岸台地上に位置する徳宿遺跡や塙遺跡，北浦湖頭の鹿島台地上に位置する安塚遺跡などで中期の足洗式土器が出土している[13]。後期では，外ノ山遺跡，明神後古墳，下吉影中郷谷遺跡，前野遺跡，岸高山遺跡，宮下遺跡，柿の木遺跡などがある。明神後古墳では，墳丘下から弥生時代後期前半の竪穴建物跡2棟が確認されている[14]。宮下遺跡では，東海系の棒状浮文を口縁部に施した土器片が採集されている[15]。また，柿の木遺跡では，東北地方の弥生時代終末期に属する天王山式の可能性が高い土器の破片が採集されており，注目される[16]。

古墳時代の遺跡としては，巴川右岸では当遺跡のほか，野友古墳群〈6〉，野友植松北遺跡，相沢東遺跡〈24〉相沢古墳〈25〉などで，巴川左岸では辰ノ峰遺跡〈47〉，浦房地遺跡，阿巳ノ山遺跡〈37〉，坂戸遺跡などがあり，ほかに烟田遺跡，塙遺跡，安塚遺跡，沢三木台遺跡，平出久保遺跡などがある。古墳及び古墳群は55か所確認されている。当遺跡から北西方向に3kmほど離れた巴川右岸の台地上に位置する木二内古墳群からは，男子鵜坐像埴輪，壺を捧げる女子像埴輪，武装男子埴輪などが出土しており，男子鵜坐像埴輪は国の重要文化財に指定されている[17]。野友権現峰古墳群，富士峰古墳群，当間二ツ塚古墳，氷川古墳からはそれぞれ埴輪が出土し，当間二ツ塚古墳からは直刀や勾玉が出土している。古墳の形式としては円墳がほとんどで，方墳，前方後円墳は少ない。古墳時代の前期の集落として確認されているのは，辰ノ峰遺跡と浦房地遺跡で，これらは同一の集落と考えられている。中期では，阿巳ノ山遺跡，烟田遺跡，塙遺跡がある。後期になると遺跡の数が増え，塙遺跡，安塚遺跡，烟田遺跡，浦房地遺跡，沢三木台遺跡，烟田川渡遺跡などがある。また，鉾田右岸の台地上に位置する平出久保遺跡では，前期の竪穴建物跡が10棟，中期が9棟，後期が8棟確認されており，当該期の土器が多数出土している。

奈良・平安時代の遺跡は，調査例は少ないが，遺跡分布調査により，巴川右岸では宿台遺跡，諏訪久保遺跡〈3〉，後新田遺跡，野友植松北遺跡，野友植松南遺跡〈14〉，巴川左岸では塔ノ内遺跡〈38〉，新里遺跡〈39〉，坂戸遺跡，辰ノ峰遺跡，沢三木台遺跡などで遺物が確認されている。鉾田川右岸の平出久保遺跡からは，竪穴建物跡が2棟確認されている。奈良・平安時代の旧鉾田町は，鹿島郡，行方郡，茨城郡の3郡にまたがる地域で，須賀下東遺跡の周辺は，行方郡芸都郷に属していた。当遺跡から北へ約5kmのところに鎌田遺跡があり，製鉄を行っ

ていたと考えられる工房跡１基が見つかっている。工房跡の平面形は隅丸長方形で，壁の高さは 50 ～ 70 ㎝である。時期は出土土器から平安時代前期と考えられる。工房跡からは製鉄炉と鍛冶炉がそれぞれ１基検出されている[16]。

中世における遺跡は，城館跡が中心で，巴川流域には当遺跡の西 0.5 ㎞に室町時代に行方郡から進出してきた武田通信が築いた野友城跡〈５〉や郷土館跡〈18〉，蕨砦跡や堀の内砦跡などの城館跡や砦跡が確認されている。また，鉾田川流域には，平安時代から戦国時代にかけて常陸大掾氏の支族である鹿島氏一族の徳宿親幹が築いた徳宿城跡や鎌倉から戦国時代にかけて安房又太郎が築いた三階城跡などが確認されている。田中川流域では，徳宿氏の支族である烟田幸秀が築いた烟田城跡などが確認されている[17]。烟田城の付近には塙八館と通称される館跡が点在しており，いずれも烟田氏の家臣の館跡と推定される。

近世の遺跡としては，勘十郎堀跡，どんびん塚〈７〉，ニツ塚〈68〉がある。特に勘十郎堀跡は有名で，鉾田地区は近世前期から東北諸藩の江戸への輸送路の中継地点としての役割を果たしており，勘十郎堀はその新しい輸送路として計画された運河である。この計画を行ったのが，宝永４（1707）年水戸藩に起用された松波勘十郎であり，その名を冠して勘十郎堀と呼ばれている[20]。松波の計画は，水戸藩をはじめ，東北諸藩の年貢米や物資を，那珂川河口・涸沼からこの運河を経て，北浦・利根川・江戸川経由で江戸へと運ぶ内陸通路を貫通させるというものである。勘十郎堀は，宝永四年から大量の領民を動員して始められた。しかし海老沢・紅葉間の約８㎞は台地で，土質はもろく難航した。工事は一応の完成はみたものの，水路を多くの水門で仕切り，船を人手で引き上げるなど手数がかかり，運河としての実用性に乏しかったため間もなく使われなくなった。

以上のように，当遺跡が位置する鉾田市域は，鉾田川と巴川，さらに北浦の水資源に恵まれた洪積台地上に，原始・古代から近世まで，多くの遺跡が存在しており，当時の人々の生活が営まれていたことがうかがえる。

註

1）茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会　2001年３月

2）鉾田町史編さん委員会編『鉾田町史　原始古代史料編（鉾田町の遺跡）』鉾田町　1995年３月

3）茨城県史編さん第一部会原始古代史専門委員会編『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』 茨城県　1979年３月

4）鉾田町史編さん委員会編　図説『ほこたの歴史』鉾田町　1995年12月

5）註２に同じ

6）茂木悦男「国保交安第12-04-128-0-051号主要地方道小川鉾田線当間交通安全施設工事事業地内埋蔵文化財調査報告書　坂戸遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第180集　2001年３月

7）註２に同じ

8）後藤義明「主要地方道茨城・鹿島線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書　梨ノ子木久保遺跡　割り塚古墳」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第47集　1988年６月

9）小松崎猛彦・吹野富美夫「主要地方道水戸鉾田佐原線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書　平出久保遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第98集　1994年９月

10）註４に同じ

11）清水哲・内田勇樹・海老澤稔・仙波亨「東関東自動車道水戸線（鉾田～茨城空港北間）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書　吉十北遺跡　勘十郎堀跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第419集　2017年３月

12）註２に同じ

13）橋本勉・高橋杏二「鹿島線関係遺跡発掘調査報告書　徳宿遺跡　塙遺跡　安塚遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』Ⅴ　1980年３月

14）小沼一夫・小島敏・瓦吹堅『明神後古墳』茨城県鉾田町文化財調査報告書第７輯　鉾田町教育委員会・明神後古墳発掘調査会　1996年５月

15）註２に同じ

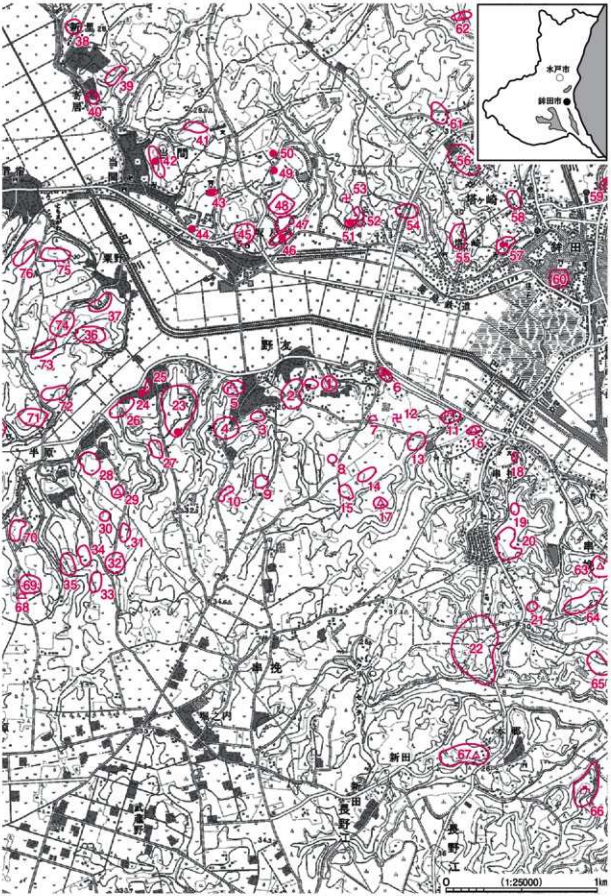
16）註２に同じ

17）註２に同じ

18）註４に同じ

19）註４に同じ

20）註11に同じ

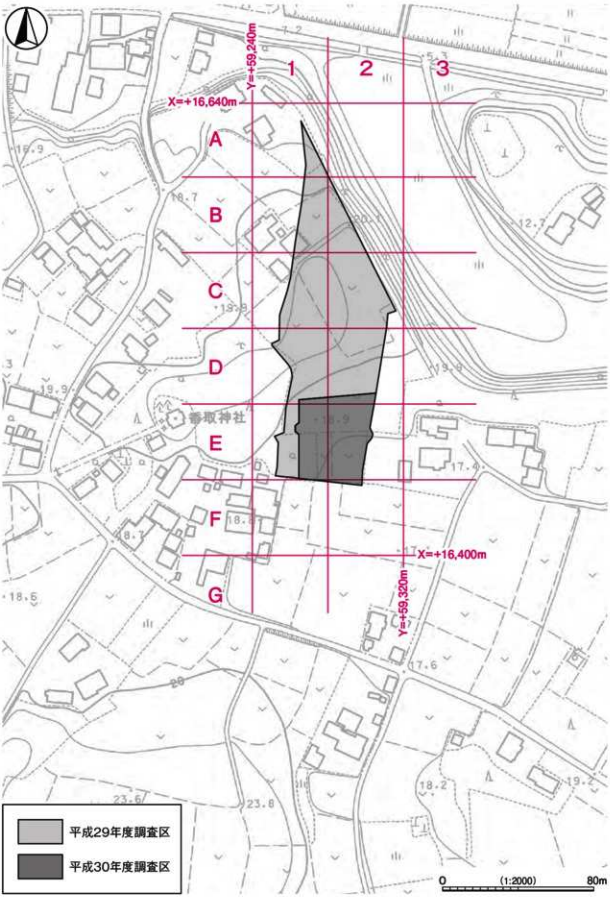


第 1 図　須賀下東遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「鉾田」）

表1　須賀下東遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	須賀下東遺跡			○	○	○		
2	宿台遺跡		○	○		○		
3	諏訪久保遺跡		○			○		
4	後新田遺跡		○			○	○	
5	野友城跡				○		○	
6	野友古墳群	○	○		○			
7	どんびん塚							○
8	平須賀北遺跡		○			○	○	
9	八幡久保遺跡					○		
10	野友植松遺跡					○		
11	串挽砦跡						○	
12	尼寺廃寺							
13	野友植松北遺跡		○		○			
14	野友植松南遺跡		○	○		○		
15	平須賀南遺跡		○			○		
16	串挽貝塚		○					
17	権現平貝塚		○					
18	郷土館跡						○	
19	海老内遺跡					○		
20	十三佛遺跡					○	○	
21	六十塚西遺跡			○		○		
22	長野江貝塚		○					
23	野友権現峰古墳群			○				
24	相沢東遺跡		○		○	○		
25	相沢古墳				○			
26	相沢西遺跡		○					
27	野友権現峰遺跡		○					
28	長峰遺跡		○					
29	半原貝塚		○					
30	八幡山遺跡					○		
31	サイナ窪遺跡					○		
32	半原植松北遺跡					○	○	
33	半原植松南遺跡					○		
34	荒屋遺跡					○	○	
35	丸山遺跡		○					
36	栗ノ山A遺跡					○		
37	阿巳ノ山遺跡				○	○		
38	塔ノ内遺跡					○		

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
39	新里遺跡					○	○	
40	雑賀殿館跡						○	
41	寄居遺跡				○			
42	十石台古墳群				○			
43	団子山古墳群				○			
44	宅地添古墳				○			
45	坂戸遺跡		○		○	○		
46	辰ノ峰古墳群				○			
47	辰ノ峰遺跡		○		○	○		
48	浦房地遺跡		○	○	○			
49	浦房地古墳				○			
50	当岡二ツ塚古墳				○			
51	狐塚古墳群					○		
52	押越遺跡		○		○			
53	三光院廃寺					○		
54	沢三木台遺跡		○		○	○		
55	宮谷遺跡		○	○	○			
56	餓鬼塚古墳群				○			
57	西台古墳群				○			
58	深山遺跡		○	○	○	○		
59	富士峰古墳群				○			
60	鉾田城跡						○	
61	大塚古墳群				○			
62	飯名貝塚		○					
63	神明平貝塚		○					
64	六十塚遺跡		○	○				
65	東遺跡		○	○		○		
66	長野江向山遺跡						○	
67	長野江貝塚		○					
68	二ツ塚							○
69	諏訪平遺跡					○		
70	岡平遺跡		○					
71	スタロ遺跡					○		
72	四十古屋遺跡		○			○		
73	栗ノ山B遺跡					○		
74	神楽場遺跡		○					
75	栗野遺跡		○			○		
76	羽黒山遺跡		○			○		



第２図　須賀下東遺跡調査区設定図（鉾田市都市計画図 2,500 分の１）

第3章　調　査　の　成　果

第1節　調　査　の　概　要

須賀下東遺跡は，鉾田市の中央部に位置し，北浦へ流れ込む巴川右岸の低地に面した標高 20 mの台地上に位置している。調査は平成 29 年と平成 30 年の２回行われ，調査面積は延べ 7,227 ㎡である。調査前の現況は畑地である。

調査の結果，竪穴建物跡 49 棟（古墳時代 24・奈良時代 21・平安時代２・時期不明２），鍛冶工房跡２基（古墳時代・平安時代），土坑 78 基（縄文時代３・平安時代１・時期不明 74），溝跡 13 条（奈良時代１・近世１・時期不明 11），道路跡１条（中・近世），炉跡３基（時期不明），ピット群３か所（時期不明）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20 ㎝）に 156 箱出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢），土師器（坏・器台・炉器台・高坏・壺・甕・甑・手捏土器），須恵器（坏・高台付坏・蓋・甕・長頸瓶），土製品（土玉・管状土錘・支脚・羽口），石器（鏃・磨製石斧・砥石・石核），石製品（金床石），金属製品（刀子・鎌・釘・鉄斧・小札），鍛冶関連遺物（椀形滓・鉄滓・粒状滓・鍛造剥片）などである。

第2節　基　本　層　序

調査区東部の平坦面（C 2i8 区）にテストピットを設定し，土層の堆積状況を観察した。土層は 15 層に分層できる。基本層序は，以下のとおりである。

第１層は，暗褐色を呈する表土層である。粘性・締まりとも弱く，層厚は 24 ～ 28 ㎝である。

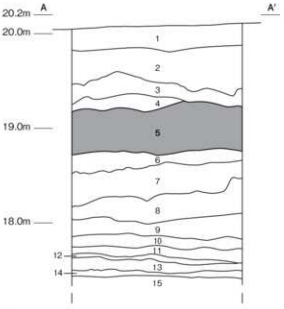
第２層は，ロームブロックと黒色粒子を少量含み，にぶい褐色を呈するソフトローム層とハードローム層が混じる漸移層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 24 ～ 52 ㎝である。

第３層は，ロームブロックを多量，鹿沼パミス粒子を微量含む，褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く，層厚は８～ 24 ㎝である。

第４層は，ロームブロックを多量，鹿沼パミス粒子を中量，黒色粒子を微量含む，褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く，層厚は６～ 18 ㎝である。

第５層は，ロームブロックを中量含む，褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く，締まりは普通で，層厚は 46 ～ 54 ㎝である。第Ⅱ黒色帯に相当すると考えられる。

第６層は，ロームブロックを多量，白色パミス粒子を少量含む褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く，層厚は８～ 22 ㎝である。



第３図　基本土層図

第7層は，鹿沼パミス粒子を多量，黒色粒子を微量含む，暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く，層厚は28～36㎝である。

第8層は，鹿沼パミス粒子を少量含む，暗褐色を呈する砂層である。粘性・締まりとも弱く，層厚は14～38㎝である。

第9層は，黒色粒子を少量，鹿沼パミス粒子を微量含む暗褐色を呈する砂層で，粘性・締まりとも弱く，層厚は12～28㎝である。

第10層は，粘土粒子を少量，鹿沼パミス粒子を微量含む暗褐色を呈する砂層で，粘性・締まりとも弱く，層厚は8～14㎝である。

第11層は，鹿沼パミス粒子を微量含む，暗褐色を呈する砂層で，粘性・締まりとも弱く，層厚は8～14㎝である。

第12層は，砂粒子を多量に含む，暗褐色を呈する砂層で，粘性は弱く，締まりは普通で，層厚は4～8㎝である。

第13層は，砂粒子を少量，鹿沼パミス粒子を微量含む，暗褐色を呈する砂層で，粘性は弱く，締まりは普通で，層厚は6～14㎝である。

第14層は，粘土粒子を多量，鹿沼パミス粒子を微量含む，にぶい褐色を呈する粘土層で，粘性・締まりとも強く，層厚は4～8㎝である。

第15層は，砂粒子を多量に含む暗褐色を呈する砂層で，粘性・締まりとも強い。下層が未掘のため，本来の層厚は不明である。

遺構は，第2層の上面で確認している。

第3節 遺 構 と 遺 物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，土坑３基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 土 坑

第１号土坑（第４図）

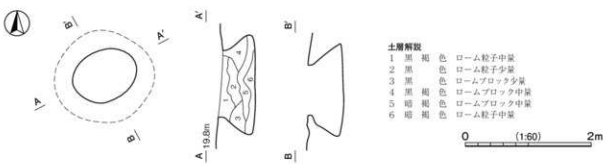
調査年度 平成29年度

位置 調査区北部のＢ２h1区，標高20ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 開口部は長径1.05ｍ，短径0.80ｍの楕円形で，長径方向はＮ－62°－Ｅである。底面は長径1.60ｍ，短径1.47ｍの楕円形で，平坦である。深さは55㎝で，壁は内彎して袋状を呈し，底面から50㎝のところでくびれ，上位は直立している。

覆土 ６層に分層できる。ロームブロックが含まれ，不自然な堆積をしていることから，埋め戻されている。

所見 遺物は出土していないが，時期は遺構の形状から中期と考えられる。



第４図 第１号土坑実測図

第71号土坑（第５・６図）

調査年度 平成29年度

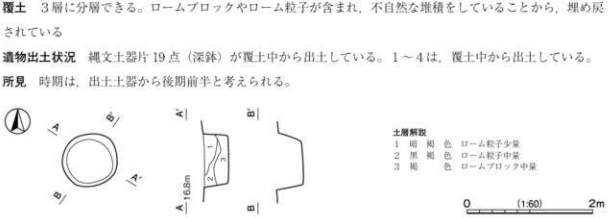
位置 調査区南部のＥ１j0区，標高17ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.92ｍ，短径0.88ｍの円形で，底面は平坦である。深さは41㎝で，壁は外傾している。

覆土 ３層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれ，不自然な堆積をしていることから，埋め戻されている

遺物出土状況 縄文土器片19点（深鉢）が覆土中から出土している。１～４は，覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から後期前半と考えられる。



第５図 第71号土坑実測図

第6図　第71号出土遺物実測図

第71号土坑出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	－	－	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に刻み　無節R	覆土中	PL15
2	縄文土器	深鉢	－	－	－	長石・石英・雲母	褐灰	普通	単節縄文LR	覆土中	PL15
3	縄文土器	深鉢	－	－	－	長石・石英	明赤褐	普通	単節縄文LR	覆土中	PL15
4	縄文土器	深鉢	－	－	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節LRとRLの羽状縄文	覆土中	PL15

第85号土坑（第7図）

調査年度　平成29年度

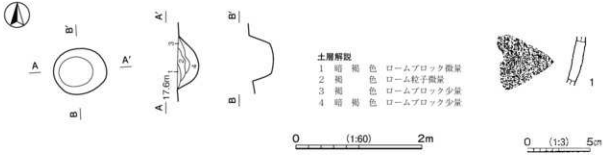
位置　調査区南部のE 2d1区，標高17 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径0.86 m，短径0.72 mの楕円形で，長径方向はN－87°－Eである。底面は皿状である。深さは40cmで，壁は外傾している。

覆土　4層に分層できる。ロームブロックが含まれ，不自然な堆積をしていることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片9点（深鉢）が覆土中から出土している。1は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から前期後半と考えられる。



第7図　第85号土坑・出土遺物実測図

第85号土坑出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	－	－	－	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁復線文	覆土中	PL15

表2　縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	時期	備考
1	B 2h1	N－62°－E	楕円形	（開）1.05×0.80 1.60×1.47	55	平坦	内傾	人為	－	中期	
71	E 1j0	－	円形	0.92×0.88	41	平坦	外傾	人為	縄文土器	後期前半	
85	E 2d1	N－87°－E	楕円形	0.86×0.72	40	皿状	外傾	人為	縄文土器	前期後半	

2　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡24棟，鍛冶工房跡1基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第2号竪穴建物跡（第8・9図　PL 2）

調査年度　平成29年度

位置　調査区北部のB 2i2区，標高20 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第7号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　調査以前は畑地で，耕作により大部分が撹乱を受けている。現存する壁から長軸5.06 m，短軸4.70 mの方形と推定され，主軸方向はN－32°－Wである。壁は高さ8～36cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦だが，大部分が撹乱を受けており，踏み固められた部分は確認できなかった。

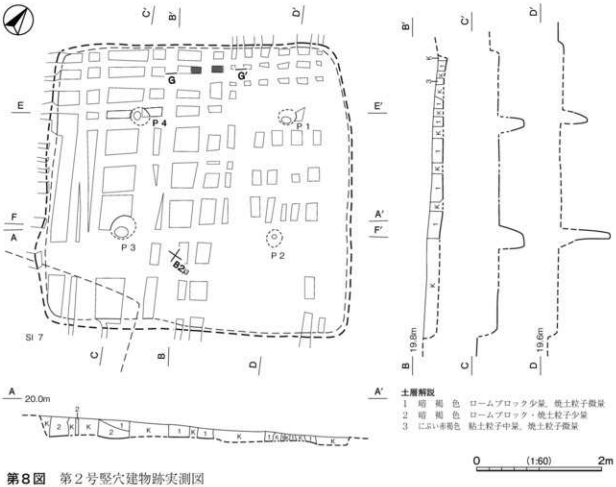
竈　北壁に付設されていたと推定される。大部分が撹乱により壊されているが，竈の構築材と考えられる粘土塊が検出された。

ピット　4か所。P 1～P 4は深さ40～42cmで，配置から主柱穴である。出入り口施設に伴うピットは検出できなかった。P 1～P 4の第1～6層は，柱抜き取り後の堆積土である。

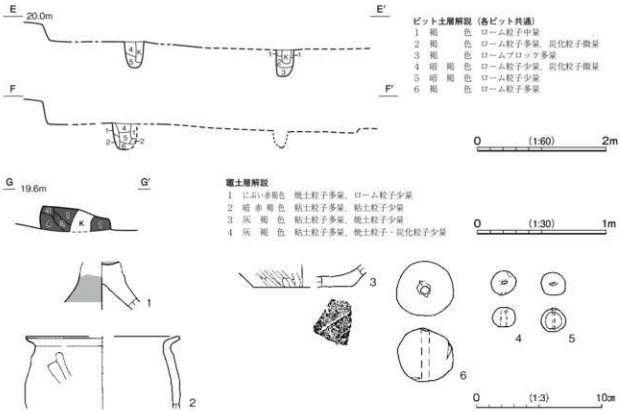
覆土　3層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子などが含まれていることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片117点（坏20，高坏1，甕類96），土製品3点（土玉）が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。



第8図　第2号竪穴建物跡実測図



第９図　第２号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第２号竪穴建物跡出土遺物観察表（第９図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高坏	－	(3.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	坏部内面ナデ　脚部外面横位のナデ　脚部内面螺旋状のナデ	覆土中	5％
2	土師器	甕	[12.2]	(5.8)	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面上位一部ヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中	5％
3	土師器	甕	－	(1.7)	[7.8]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面斜位のヘラ磨き　体部内面ナデ	覆土中	5％

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
4	土玉	1.9	1.6	0.5	5.66	長石	にぶい黄褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
5	土玉	2.0	1.9	0.2	6.54	長石	灰黄褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
6	土玉	4.5	4.2	0.6	80.85	長石	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	

第３号竪穴建物跡（第10図）

調査年度　平成29年度

位置　調査区北部のＢ2i1区，標高20ｍほどの台地平坦部に位置している。

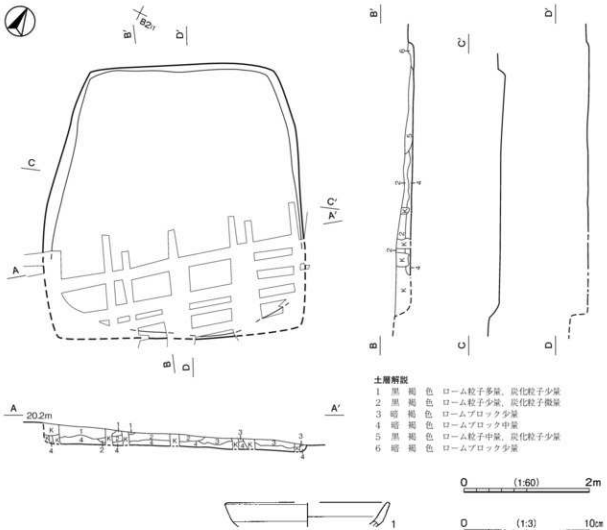
規模と形状　南部が攪乱を受けている。長軸4.34ｍ，短軸4.14ｍの方形で，主軸方向はＮ－26°－Ｗである。壁は高さ６～15cmで，外傾している。

床　平坦であるが，踏み固められた部分は確認されなかった。竈や炉，ピットなども検出できなかった。

覆土　６層に分層できる。いずれの層にもロームブロックや炭化粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片112点（坏９，椀８，高杯22，甕類73）が出土している。１は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。



第 10 図 第３号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第３号住居跡出土遺物観察表（第 10 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[13.0]	(1.9)	－	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	10%

第５号竪穴建物跡（第 11・12 図 PL ２）

調査年度 平成 29 年度

位置 調査区北部のＣ１i5 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

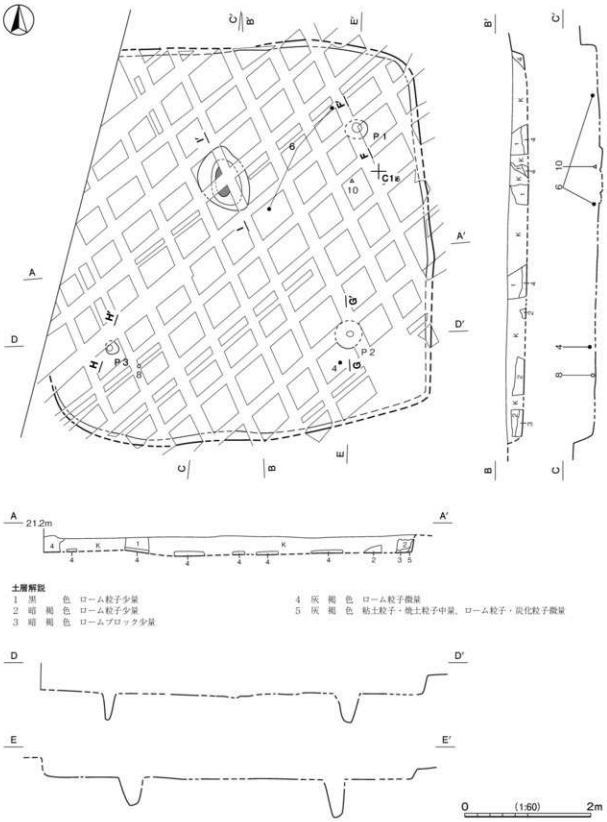
規模と形状 西部が調査区域外であるが，南北軸は 6.20 mで，東西軸は 5.15 mしか確認できなかったが，長方形と推定され，主軸方向はＮ－６°－Ｗである。壁は高さ 17 ～ 37㎝で，直立している。

床 ほぼ平坦であるが，大部分が撹乱を受けており，踏み固められた部分は検出できなかった。

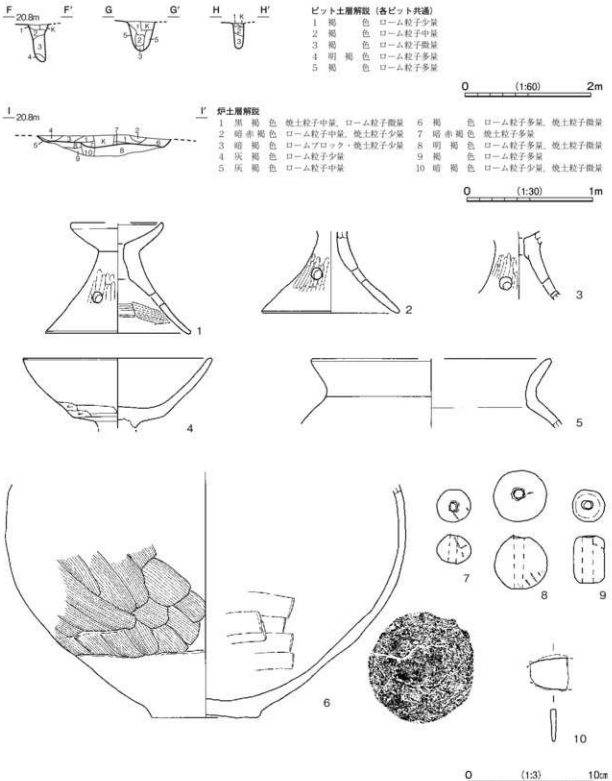
炉 一部撹乱を受けているが，長径 100㎝，短径 80㎝の楕円形の地床炉が，中央部からやや北壁寄りに位置している。床面から深さ 10㎝ほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は第８層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。第８～ 10 層は炉の掘方への埋土である。

ピット　3か所。P１～P３は深さ40～58cm で，配置から主柱穴である。第１～４層は柱を抜き取った後の堆積土である。第５層は掘方への埋土である。

覆土　５層に分層できる。各層ともロームブロックなどが含まれていることから，埋め戻されている。



第 11 図　第５号竪穴建物跡実測図



第 12 図　第５号竪穴建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片 1,101 点（坏 31, 椀 20, 器台 11, 高杯 16, 甕類 1,023), 土製品４点（土玉２, 管状土錘１, 羽口１), 金属製品１点(鎌ヵ)が出土している。6 は, P１付近と炉付近から出土した破片が接合したものである。１～３は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から４世紀中葉と考えられる。

第５号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 12 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	器台	[7.3]	8.8	[11.4]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	坏部外・内面横ナデ　脚部外面縦位のヘラ磨き後ナデ　脚部内面横・斜位のハケ目調整後ナデ　穿孔４か所	覆土中	50% PL15
2	土師器	器台	－	(6.5)	10.9	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き後ナデ　脚部内面横ナデ　穿孔３か所残存	覆土中	40%
3	土師器	器台	－	(5.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き後ナデ　脚部内面横ナデ　穿孔３か所残存	覆土中	30%
4	土師器	高坏	15.0	(5.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　坏部外面ヘラ削り後ナデ　坏部内面ナデ	覆土下層	60%
5	土師器	甕	[19.0]	(5.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ	覆土中	10%
6	土師器	甕	－	(18.5)	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ　内面ヘラナデ	覆土下層	30%

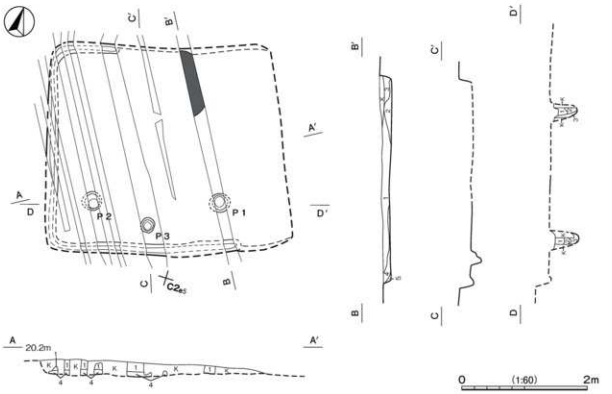
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
7	土玉	2.7	2.4	0.6	(16.25)	長石	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
8	土玉	4.2	4.3	0.8	(70.77)	長石・雲母	にぶい黄褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
9	管状土錘	2.6	3.8	0.9	(25.30)	長石	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
10	鎌a	(3.1)	(2.5)	0.5	(13.60)	鉄	先端部欠損　刃部断面三角形	覆土下層	

第８号竪穴建物跡（第 13 図　PL ２）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区北部のＣ２d4 区，標高 20 mほどの台地平坦部に位置している。



土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子多量，炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　明 褐 色　ローム粒子多量

ピット土層解説（各ピット共通）
1　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　色　ローム粒子少量（１より締まりが強い）

第 13 図　第８号竪穴建物跡実測図

規模と形状　大部分が撹乱を受けており，北壁，南壁及び西壁の一部が残存するのみである。長軸3.84 m，短軸3.32 mの長方形と推定され，主軸方向はN－17°－Wである。壁は高さ10～18cmで，ほぼ直立している。

床　平坦であるが，大部分が撹乱を受けており，踏み固められた部分は検出できなかった。壁溝が北西コーナーから南壁下にかけて確認できた。

竈　北壁の中央部に付設されていたと推定される。竈材の一部が遺存するのみで，土層は観察できなかった。

ピット　3か所。P１・P２は深さ44cm・46cmで，配置から主柱穴と考えられる。P３は深さ26cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。P１・P２の第１・２層は柱の抜き取り痕で，第３層は掘方への埋土である。

覆土　5層に分層できる。ローム粒子や焼土粒子などが含まれていることから，埋め戻されている。

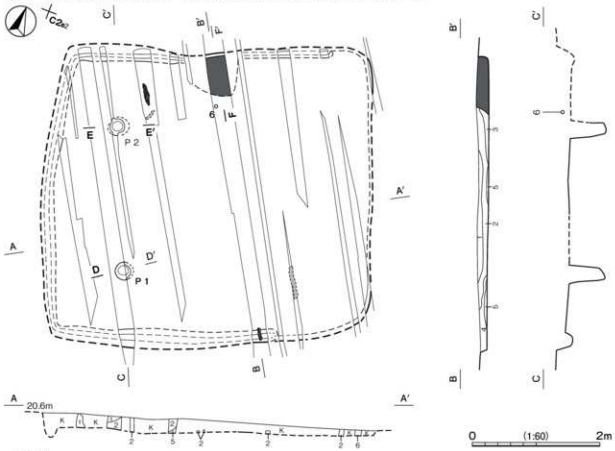
遺物出土状況　土師器片25点（甕類），金属製品１点（不明）のほか，鉄滓９点が出土している。遺物はいずれも細片で，図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。

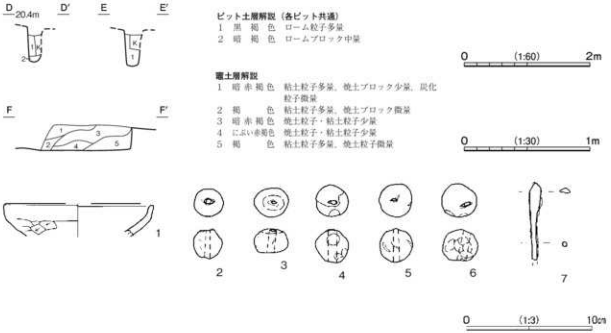
第９号竪穴建物跡（第14・15図）

調査年度　平成29年度

位置　調査区北部のＣ２e2区，標高20 mほどの台地平坦部に位置している。



第14図　第９号竪穴建物跡実測図



第15図 第9号竪穴建物跡・出土遺物実測図

規模と形状 長軸5.10m，短軸4.56mの長方形で，主軸方向はN－18°－Wである。大部分が撹乱を受けており，壁は高さ4～14cmで，直立していると推定される。

床 平坦であるが，大部分が撹乱を受けており，踏み固められた部分は確認できなかった。壁溝は，遺存している北壁，西壁，南壁の壁下で確認された。

竈 北西壁の中央部に付設されていたとみられるが，撹乱により，竈材の一部が遺存するのみである。

ピット 2か所。P1・P2は深さ48cm・56cmで，規模や配置から主柱穴と考えられる。第1・2層は柱抜き取り後の堆積土である。

覆土 6層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片76点（坏8，甕類68），土製品5点（土玉），金属製品1点（鏃）のほか，鉄滓が出土している。床面から炭化材と焼土を確認した。1～5・7は，覆土中から出土している。6は竈付近の覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から6世紀後半と考えられる。床面から炭化材や焼土が検出されており，焼失家屋と考えられる。

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.8]	(2.6)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 体部内面ナデ	覆土中	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	土玉	2.3	2.4	0.3	(10.28)	長石	にぶい赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
3	土玉	2.8	1.9	0.6	(12.48)	長石・黒色粒子	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
4	土玉	2.6	2.6	0.7	(14.07)	長石	にぶい赤褐	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中	
5	土玉	2.6	2.7	0.4	(16.67)	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
6	土玉	2.8	2.5	0.8	17.37	長石・石英	にぶい橙	ナデ 一方向からの穿孔 指頭痕	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
7	鏃	(6.1)	(0.8)	0.4	(7.14)	鉄	鏃身部断面両丸　茎部断面長方形　茎部欠損	覆土中	PL35

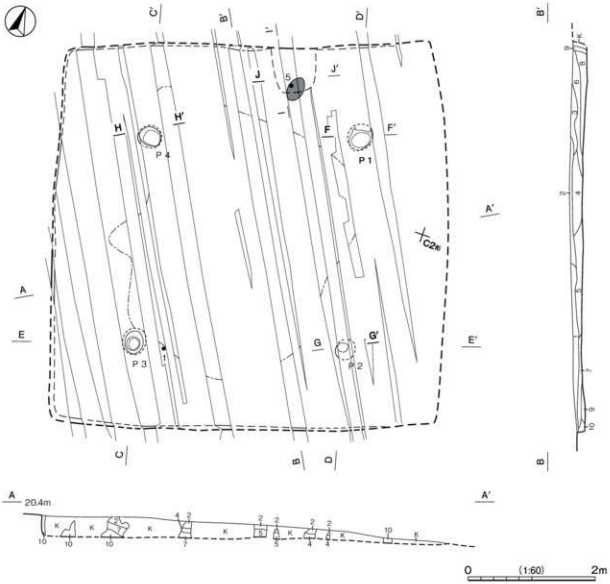
第10号竪穴建物跡（第16～18図　PL 3）

調査年度　平成29年度

位置　調査区北部のC 2 f5 区，標高20 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　遺存状態が悪く，東側の壁は確認できなかったが，南北軸6.22 m，東西軸6.06 mの方形と推定され，主軸方向はN－20°－Wである。東部が削平され，検出された範囲で，壁は高さ6～28cmで，直立している。

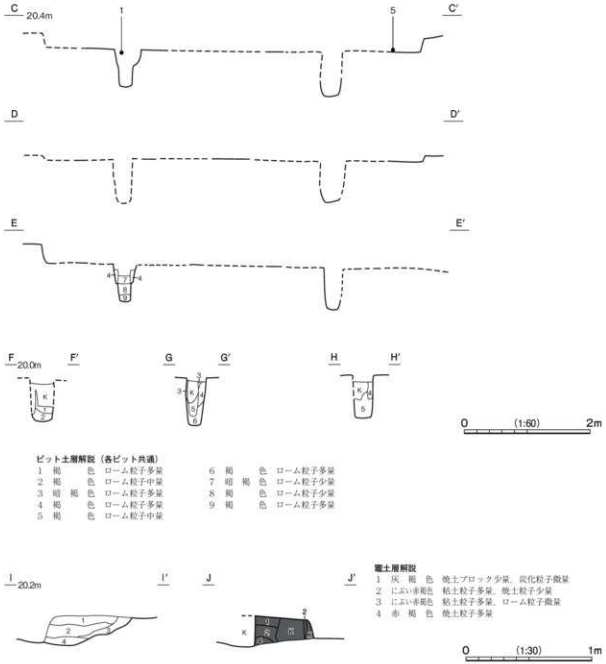
床　平坦で，中央部から西側が踏み固められている。



土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
9　暗　褐　色　ロームブロック多量
10　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

第16図　第10号竪穴建物跡実測図(1)



第 17 図　第 10 号竪穴建物跡実測図(2)

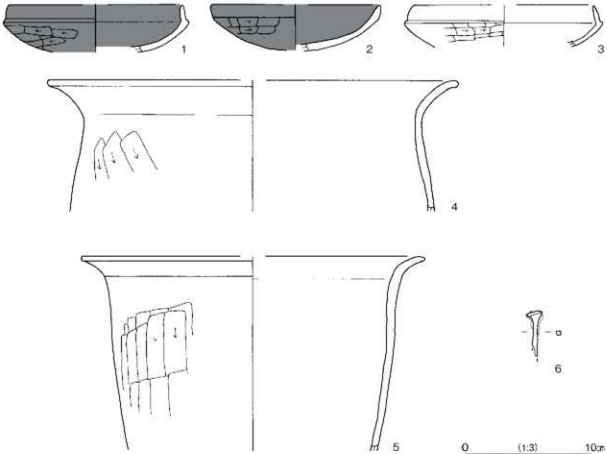
竈　北壁に付設されていたが，大部分が攪乱を受けており，土層は観察できたが，詳細は不明である。

ピット　4 か所。P 1 ～ P 4 は深さ 55 ～ 76cm で，規模や配置から主柱穴である。P 1 の第 1 ・ 2 層及び P 2 ～ P 4 の第 5 ～ 9 層は柱抜き取り後の堆積土である。P 2 ～ P 4 の第 3 ・ 4 層は掘方への埋土である。

覆土　10 層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子などが含まれており，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 100 点（坏 15，甕類 75，甑 9，手捏土器 1），金属製品 1 点（釘）のほか，鉄滓 15 点が出土している。1 は P 3 付近，5 は竈付近のそれぞれ床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から 6 世紀後半と考えられる。



第 18 図　第 10 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 10 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 18 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.8]	(3.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位のヘラ削り　体部内面横ナデ	床面	30%
2	土師器	坏	[13.4]	(3.6)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位のヘラ削り　体部内面横ナデ	覆土中	30%
3	土師器	坏	[14.4]	(3.3)	－	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位のヘラ削り　体部内面横ナデ	覆土中	30%
4	土師器	甕	[32.6]	(10.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面斜位のヘラ削り後ナデ　体部内面ヘラナデ	覆土中	10%
5	土師器	甕	[27.2]	(15.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面縦位のヘラ削り　体部内面ナデ	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	釘	(3.8)	1.3	0.4	(2.82)	鉄	先端部欠損　断面正方形	覆土中	

第 13 号竪穴建物跡（第 19 図）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区北部のＣ１c7 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　東・北壁の大部分が攪乱を受けているが，長軸 5.38 m，短軸 4.75 mの長方形で，主軸方向はＮ－４°－Ｗである。壁は高さ 12 ～ 22cmで，外傾している。

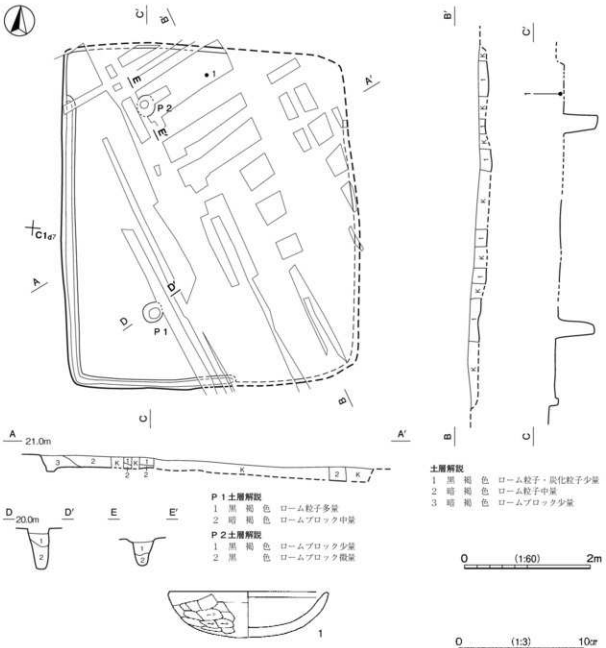
床　平坦である。硬化面などは確認できなかった。西壁下と南壁下で，壁溝が巡っている。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 44cm・66cmで，規模や配置から主柱穴である。これ以外のピットは，確認できなかった。Ｐ１・Ｐ２の第１・２層はいずれも柱抜き取り後の覆土である。

覆土　3層に分層できる。第3層はロームブロックが含まれており，埋め戻されている。第1・2層は自然堆積の層である。

遺物出土状況　土師器片52点（坏4，甕類48），須恵器片2点（坏，蓋），土製品5点（羽口）が出土している。1は北壁際の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。



第19図　第13号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第13号竪穴建物跡出土遺物観察表（第19図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.6	3.6	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土下層	90% PL15

第 14 号竪穴建物跡（第 20 図）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区北部のＣ２g1 区，標高 20 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　大部分が撹乱を受けているが，長軸 4.06 m，短軸 3.88 mの方形で，主軸方向はＮ－０°である。壁は高さ 20 ～ 26㎝で，外傾している。

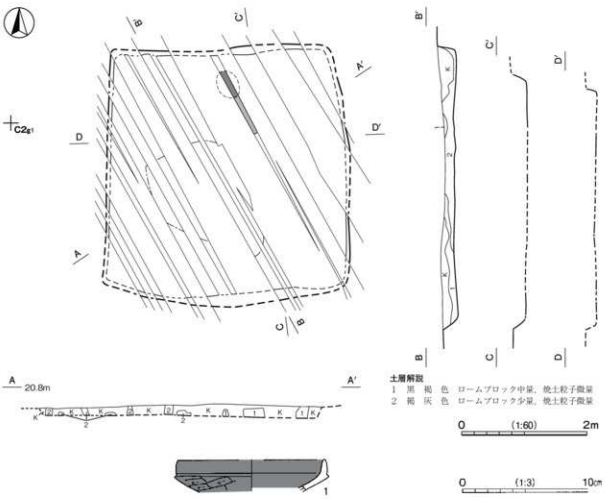
床　平坦で，西側の一部が踏み固められている。

竈　大部分が撹乱を受けており，火床面の一部と焼土が確認されたのみである。土層は観察できなかった。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックなどが含まれ，不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 33 点（坏１，甕類 32），土製品５点（羽口），鉄滓 63 点が出土している。１は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後半と考えられる。



第 20 図　第 14 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 20 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.8]	(2.5)	－	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中	10%

第 15 号竪穴建物跡（第 21・22 図）

調査年度　平成 29 年度

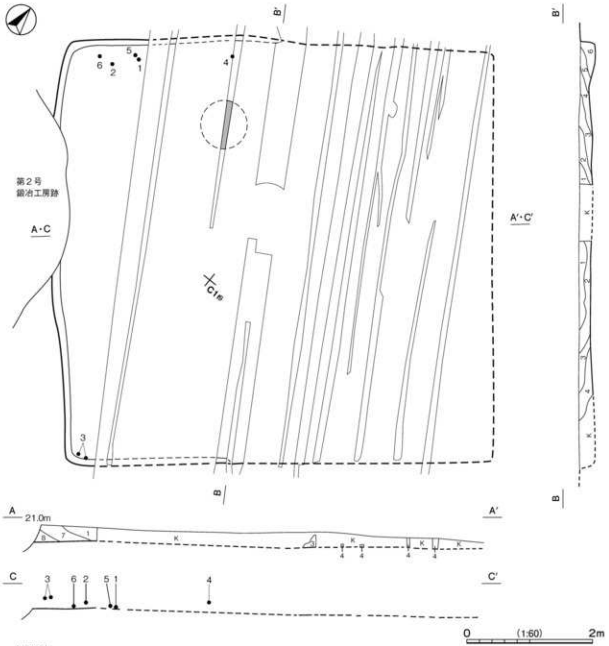
位置　調査区北部のＣ１e8 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第２号鍛冶工房に掘り込まれている。

規模と形状　大部分が撹乱を受けており，長軸 6.80 m，短軸 6.78 mの方形と推定され，主軸方向はＮ－ 39°－Ｗである。壁は高さ 16 ～ 22cmで，外傾している。

床　平坦である。硬化面などは確認できなかった。

炉　撹乱により大部分が壊されているが，北西軸 76cmである。土層などは，観察できなかった。



土層解説

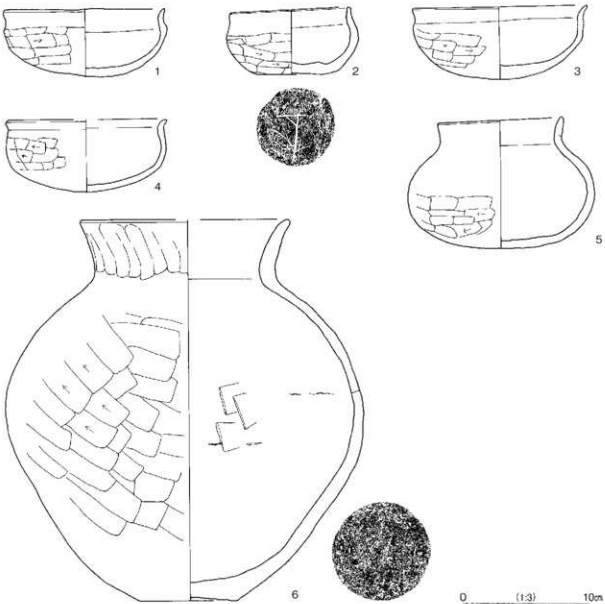
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 21 図　第 15 号竪穴建物跡実測図

覆土　8層に分層できる。ロームブロックや焼土が含まれており，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片137点（坏9，高杯2，甕類123，小形甕2，甑1），土製品8点（土玉1，羽口7），金属製品1点（釘）のほか，鉄滓132点が出土している。羽口の破片や鉄滓が出土している，第2号鍛冶工房に掘り込まれていることから，第2号鍛冶工房からの流入と考えられる。1・5・6はいずれも西コーナー部の覆土下層から，2は覆土中層から，3は南コーナー部，4は北西壁際のいずれも覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第22図　第15号竪穴建物跡出土遺物実測図

第15号竪穴建物跡出土遺物観察表（第22図）

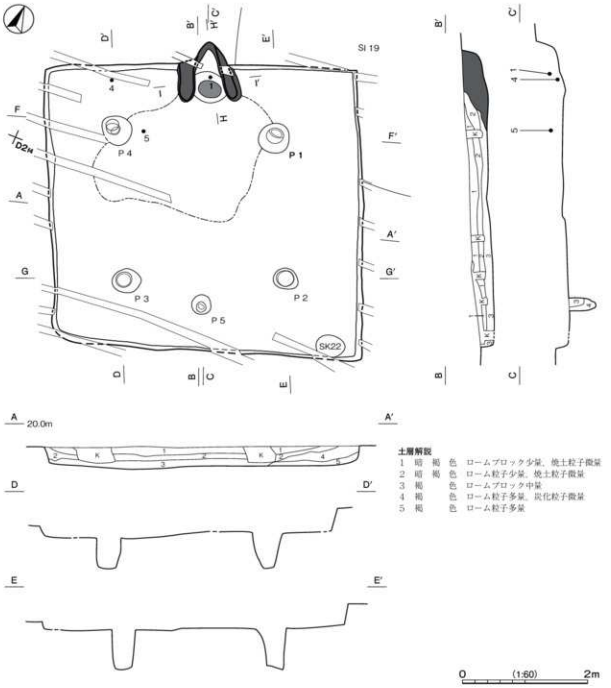
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.7	5.4	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　体部内面横ナデ	覆土下層	100% PL15
2	土師器	坏	9.3	5.3	5.4	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　体部内面横ナデ　底部木葉痕	覆土中層	95% PL15
3	土師器	坏	13.8	5.7	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　体部内面横ナデ	覆土中層	90% PL15

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	土師器	坏	[12.6]	5.7	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　体部内面ナデ	覆土中層	50%
5	土師器	壺	10.0	10.4	－	長石・石英・雲母・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　頸部外面斜位のナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　体部内面ナデ	覆土下層	100% PL15
6	土師器	甕	16.4	30.2	7.8	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外面斜位のヘラナデ　口縁部内面横位のヘラナデ　体部外面斜位のヘラ削り後ナデ　体部内面斜位のヘラナデ	覆土下層	70% PL16

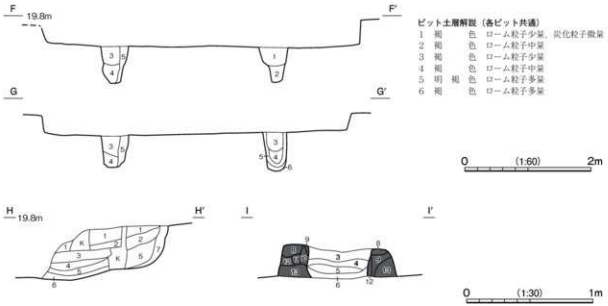
第 17 号竪穴建物跡（第 23 ～ 25 図　PL 3）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区中央部の D 2 e4 区，標高 20 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 23 図　第 17 号竪穴建物跡実測図(1)



ピット土層解説（各ピット共通）

1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　明　褐　色　ローム粒子多量
6　褐　　色　ローム粒子多量

竈土層解説

1　褐　　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
3　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量
6　暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
7　暗 赤 褐 色　粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
9　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土粒子中量
10　暗 赤 褐 色　粘土粒子・焼土粒子多量，炭化粒子微量
11　褐　　色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
12　褐　　色　粘土粒子多量
13　褐　　色　粘土粒子中量

第 24 図　第 17 号竪穴建物跡実測図(2)

重複関係　第 19 号竪穴建物跡を掘り込み，第 22 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.00 m，短軸 4.86 m の方形で，主軸方向はＮ－ 22°－Ｅである。壁は高さ 13 ～ 39cmで，直立している。

床　ほぼ平坦で，竈前面から西部にかけて踏み固められている。

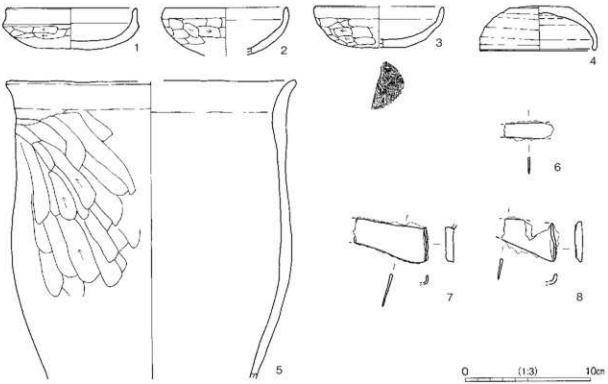
竈　北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 98cm，燃焼部の幅は 44cmである。煙道部は壁外に 40cmほど掘り込まれ，火床部からほぼ直立している。火床部は床面をやや掘りくぼめている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。袖部は地山の上に粘土粒子などを含む第８～ 13 層を積み上げて構築されている。第１・２層は天井部の崩落層と考えられる。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 52 ～ 76cmで，規模や配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 42cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。Ｐ１の第１・２層は柱抜き取り後の覆土である。Ｐ２～Ｐ５の第３・４層は柱抜き取り痕である。Ｐ２～Ｐ４の第５・６層は掘方への埋土である。

覆土　５層に分層できる。北側からの流入が確認できる自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片 125 点（坏 19，高杯 2，甕類 85，甑 19），金属製品３点（刀子１，鎌２）のほか，鉄滓３点が出土している。遺物は遺構全体から，まばらな状態で出土している。１は竈の覆土中層から出土している。４・５は竈付近の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から７世紀中葉と考えられる。



第25図　第17号竪穴建物跡出土遺物実測図

第17号竪穴建物跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.2	3.3	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　体部内面横ナデ	覆土中層	90% PL16
2	土師器	坏	9.8	3.8	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　体部内面横ナデ	覆土中	50%
3	土師器	坏	[10.2]	3.3	[4.2]	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　体部内面ナデ	覆土中	30%
4	須恵器	蓋	9.2	3.6	－	長石・石英	灰	普通	底部ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	覆土下層	70% PL16
5	土師器	甕	[23.0]	(23.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面斜位のヘラ削り後ナデ　体部内面ナデ	覆土下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	刀子	(4.0)	1.3	0.2	(3.93)	鉄	刃部先端部・茎部欠損　刃部断面三角形	覆土中	
7	鎌	(6.1)	2.8	0.2	(22.85)	鉄	刃部先端部欠損　基部折り返し	覆土中	
8	鎌	(4.4)	3.1	(0.2)	(13.40)	鉄	刃部先端部欠損　基部折り返し	覆土中	

第18号竪穴建物跡（第26・27図　PL 4）

調査年度　平成29年度

位置　調査区中央部のＤ１h0区，標高19ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第34号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.50ｍ，短軸3.34ｍの方形で，主軸方向はＮ－7°－Ｗである。壁は高さ20～36cmで，直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部がかなり踏み固められている。壁溝は全周している。

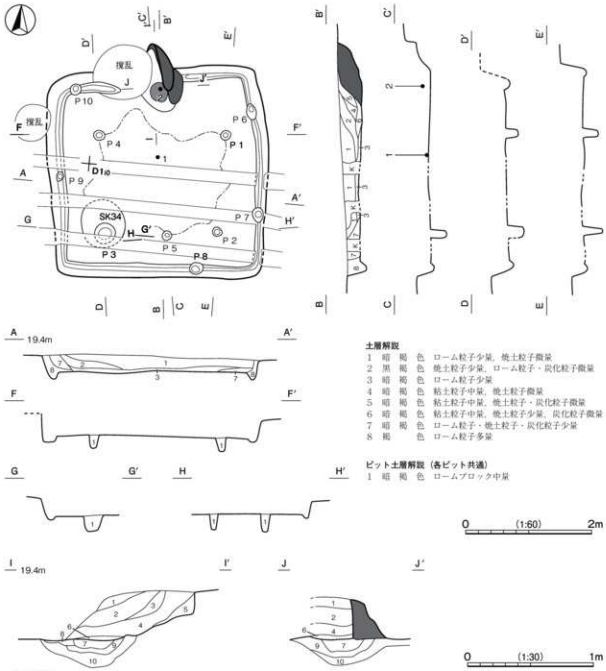
竈　北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは110cm，燃焼部の幅は西部が撹乱を受けており不明である。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ，火床部からほぼ直立している。火床部は床面から20cmほど掘りくぼめ，第7～10層を埋土して構築されている。火床面は第7層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。第1・2層は天井部の崩落層である。

ピット　10か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ20～34cmで，規模や配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ24cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。Ｐ６～Ｐ10は深さ９～17cmで，壁柱穴と考えられる。Ｐ１～Ｐ５の第１層は柱抜き取り後の埋土である。

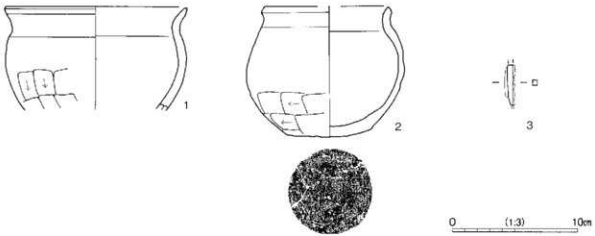
覆土　８層に分層できる。北側からの流入が確認できる自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片84点（坏14，甕類69，小形甕１），金属製品１点（釘）が出土している。１は中央部の床面から，２は竈内の覆土中層から出土している。３は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。



第26図　第18号竪穴建物跡実測図



第27図　第18号竪穴建物跡出土遺物実測図

第18号竪穴建物跡出土遺物観察表（第27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
1	土師器	小形甕	14.4	(8.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　体部内面ナデ		床面	20%
2	土師器	小形甕	[10.0]	10.4	6.7	長石・石英	にぶい赤橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ		覆土中層	60% PL16

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	釘	(3.3)	(0.4)	1.4	(24.1)	鉄	先端部・頭部欠損　断面正方形	覆土中	

第19号竪穴建物跡（第28～30図　PL 4）

調査年度　平成29年度

位置　調査区中央部のＤ２d5区，標高20ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第17号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸7.72ｍ，短軸7.06ｍの方形で，主軸方向はＮ－16°－Ｗである。壁は高さ８～50cmで，直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部がかなり踏み固められている。表面の一部に火熱を受けて赤変している部分がある。

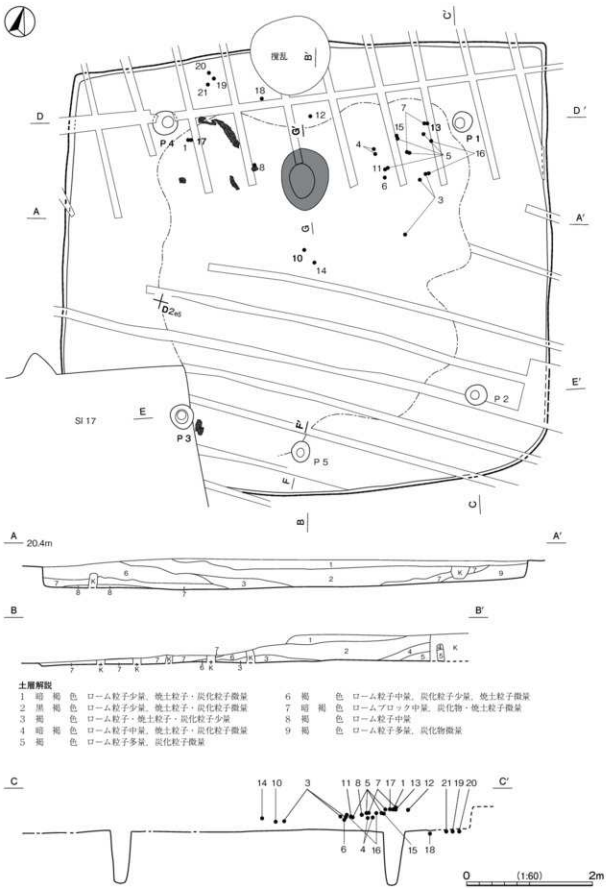
炉　中央部からやや北側に位置し，長径100cm，短径76cmの楕円形の地床炉である。床面から深さ６cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は，第１層上面が火熱を受けているが，あまり赤変していない。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ74～84cmで，規模や配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ26cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。Ｐ１～Ｐ４の第１～３層は柱抜き取り痕で，第４・５層は掘方への埋土である。

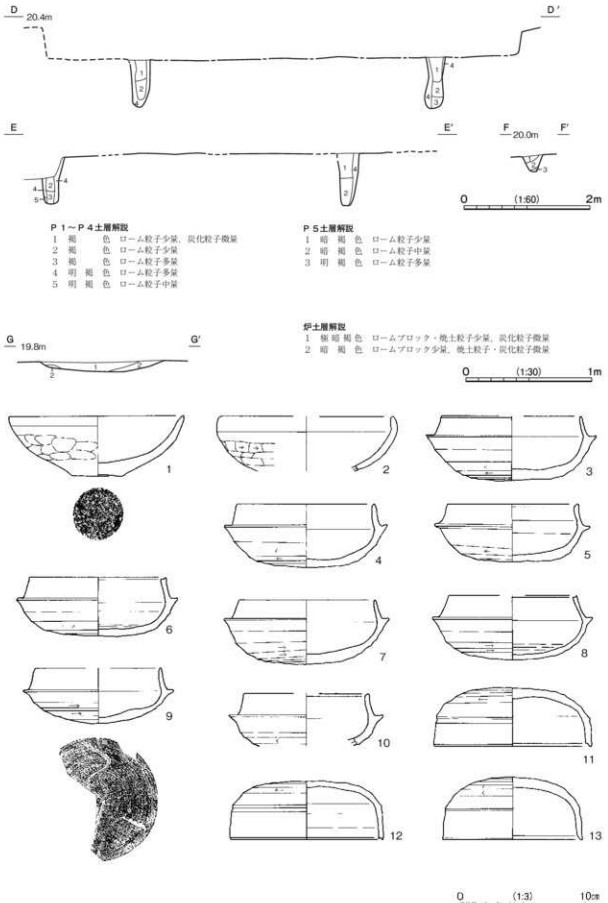
覆土　９層に分層できる。第６～９層はロームブロックなどが含まれており，埋め戻されている。第１～５層は自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片387点（坏62，椀16，坩１，器台１，炉器台３，高坏２，甕類302，），須恵器片21点（坏15，蓋６），土製品１点（土玉）のほか，鉄滓が出土している。他の建物に比べ出土遺物が多く，炉周辺を中心に出土している。19～21は北壁際の床面から正位の状態で出土している。３～８・10～16は覆土上層から出土しており，後世のものが投棄あるいは置かれたものとみられる。18は床面から出土している。また，床面や覆土下層から炭化材が出土している。

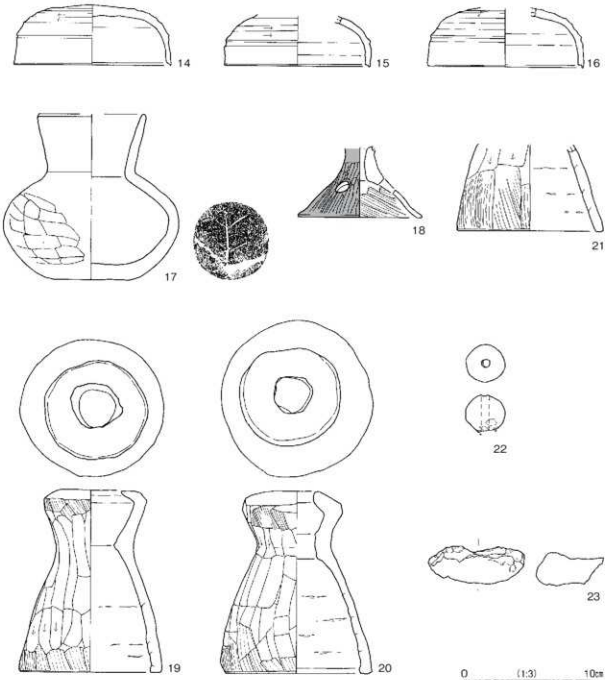
所見　焼失家屋と考えられる。時期は，出土土器から４世紀中葉と考えられる。



第 28 図 第 19 号竪穴建物跡実測図(1)



第29図 第19号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第30図　第19号竪穴建物跡出土遺物実測図

第19号竪穴建物跡出土遺物観察表（第29・30図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.8	4.8	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のナデ　体部内面ナデ	覆土上層	80% PL16
2	土師器	坏	[13.6]	4.3	－	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　体部内面横ナデ	覆土中	10%
3	須恵器	坏	11.2	5.2	－	長石・石英・細礫	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面下端回転ヘラ削り　体部内面ロクロナデ	覆土上層	80% PL16
4	須恵器	坏	10.9	5.1	－	長石・石英・細礫	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面下端回転ヘラ削り　体部内面ロクロナデ	覆土上層	80% PL16
5	須恵器	坏	10.4	4.6	－	長石・石英・細礫	黄灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面下端回転ヘラ削り　体部内面ロクロナデ	覆土上層	60% PL16
6	須恵器	坏	11.0	4.7	－	長石・石英・細礫	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面下端回転ヘラ削り　体部内面ロクロナデ	覆土上層	70% PL16
7	須恵器	坏	10.7	5.2	－	長石・細礫	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面下端回転ヘラ削り　体部内面ロクロナデ	覆土上層	50% PL16

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	須恵器	坏	[10.2]	5.1	－	長石・細礫	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面下端回転ヘラ削り　体部内面ロクロナデ	覆土上層	50% PL17
9	須恵器	坏	[10.0]	4.4	－	長石・石英	灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面下端回転ヘラ削り　体部内面ロクロナデ	覆土上層	50% PL17
10	須恵器	坏	[10.0]	(4.2)	－	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ　体部外面回転ヘラ削り　体部内面ロクロナデ	覆土上層	30% PL17
11	須恵器	蓋	12.6	4.7	－	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	80% PL17
12	須恵器	蓋	12.0	4.6	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	50% PL17
13	須恵器	蓋	[11.0]	5.0	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	40% PL17
14	須恵器	蓋	[12.6]	4.8	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	30% PL17
15	須恵器	蓋	11.6	(4.0)	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	50% PL17
16	須恵器	蓋	[12.3]	(4.7)	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土上層	30% PL17
17	土師器	坩	[8.4]	13.2	6.0	長石・石英・雲母	にぶい赤橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り後ナデ　体部内面ナデ　底部木葉痕	覆土上層	80% PL17
18	土師器	器台	－	(5.6)	10.0	長石・雲母	明赤褐	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き　脚部内面ハケ目調整	床面	60% PL18
19	土師器	炉器台	8.2	14.5	11.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面縦位のヘラ削り，脚部外面下端ハケ目調整　脚部内面縦・横位のナデ　脚部内面に輪積み痕	床面	100% PL18
20	土師器	炉器台	7.9	14.5	11.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面縦位のヘラ削り，脚部外面下端ハケ目調整　脚部内面縦・横位のナデ　脚部内面に輪積み痕	床面	100% PL18
21	土師器	炉器台	－	(6.9)	11.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面縦位のヘラ削り，脚部外面下端ハケ目調整　脚部内面縦・横位のナデ　脚部内面に輪積み痕	床面	40% PL18

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
22	土玉	3.1	3.0	0.7	(23.56)	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
23	楕形滓	5.4	7.6	3.0	142.69	鉄滓	上面発泡　底部に炉壁が薄く付着　着磁性なし	覆土中	PL27

第22号竪穴建物跡（第31・32図　PL 5）

調査年度　平成29年度

位置　調査区中央部のＤ２d2区，標高20ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第16号竪穴建物，第21号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.86ｍ，短軸4.62ｍの方形で，主軸方向はＮ－32°－Ｗである。壁は高さ20～44cmで，外傾している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が南コーナー部と南西壁下の一部を除いて巡っている。

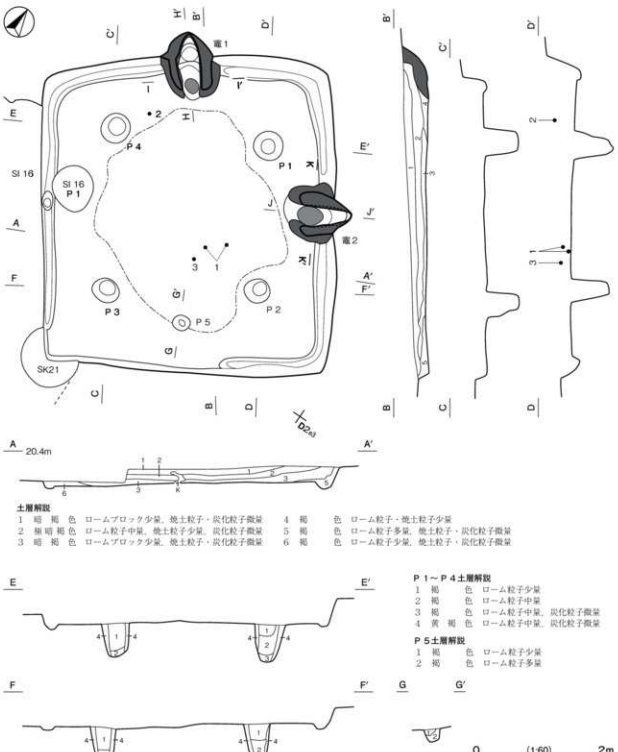
竈　２か所。竈１は北西壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは110cm，燃焼部の幅は30cmである。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部は地山をそのまま使用している。火床面は，あまり火熱を受けていない。袖部は地山の上に粘土粒子やロームブロックなどを含む第６～８層を積み上げて構築されている。第１・２層は，粘土粒子などを含む竈の崩落土である。竈２は北東壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは108cm，燃焼部の幅は35cmである。煙道部は壁外に28cmほど掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部は床面から10cmほど掘りくぼめ，第10・11層を埋土して構築されている。火床面は第10層の上面で，竈１に比べかなり火熱を受けて赤変硬化している。袖部は第10・11層の上に粘土粒子などを含む第８・９層を積み上げて構築されている。第２・３層は，粘土粒子や焼土粒子などを含む竈の崩落層である。竈１と竈２の新旧関係は不明である。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ52～62cmで，規模や配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。Ｐ１～Ｐ４の第１・２層は柱抜き取り痕で，第３・４層は掘方への埋土である。Ｐ５の第１・２層は自然堆積である。

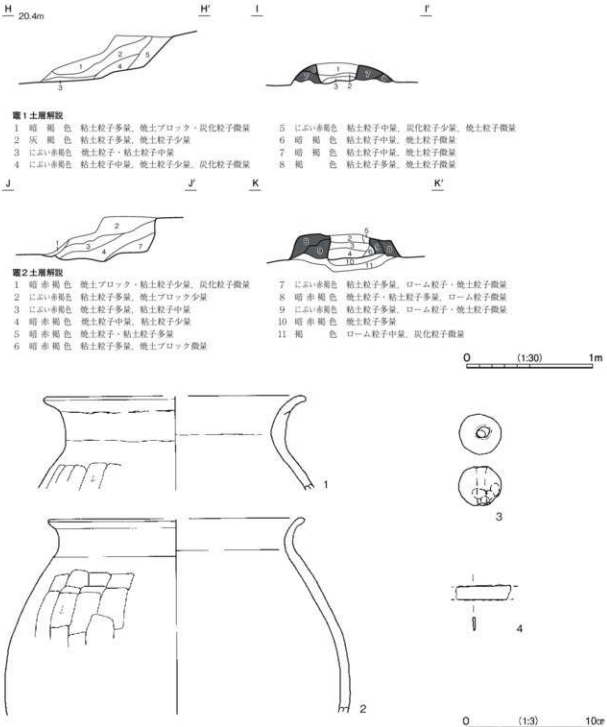
覆土　6層に分層できる。自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片104点（坏14，高杯1，甕類89），土製品1点（土玉），金属製品1点（刀子）が，全体に散在した状態で出土している。1は，中央部の覆土下層と中層から出土した破片が接合したものである。2は竈前面の覆土中層から出土している。3は中央部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から6世紀代と考えられる。



第31図　第22号竪穴建物跡実測図



竈1土層解説

1 暗 褐 色 粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 灰 褐 色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
3 にぶい赤褐色 焼土粒子・粘土粒子中量
4 にぶい赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
5 にぶい赤褐色 粘土粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
6 暗 褐 色 粘土粒子中量、焼土粒子微量
7 暗 褐 色 粘土粒子微量、焼土粒子微量
8 褐 色 粘土粒子多量、焼土粒子微量

竈2土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
2 にぶい赤褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック少量
3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子中量
4 暗赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量
5 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量
6 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土ブロック微量
7 にぶい赤褐色 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量
8 暗赤褐色 焼土粒子・粘土粒子多量、ローム粒子微量
9 にぶい赤褐色 粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子微量
10 暗赤褐色 焼土粒子多量
11 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第32図 第22号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第22号竪穴建物跡出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[20.8]	(7.5)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中層 覆土下層	30%
2	土師器	甕	[20.2]	(15.5)	－	長石・石英	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	土玉	3.4	3.1	1.0	29.92	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	

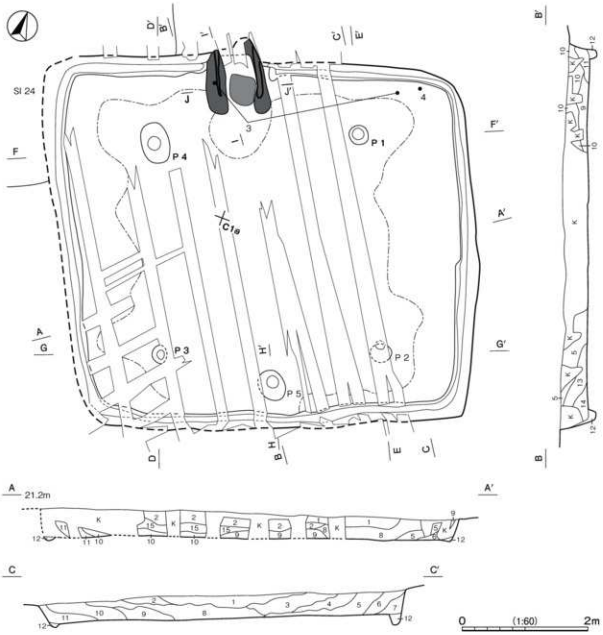
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	刀子	(4.4)	1.1	0.2	(5.09)	鉄	刃部先端部・茎部欠損　刃部断面三角形	覆土中	

第 23 号竪穴建物跡（第 33 ～ 35 図　PL 5）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区北部のＣ１i9 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

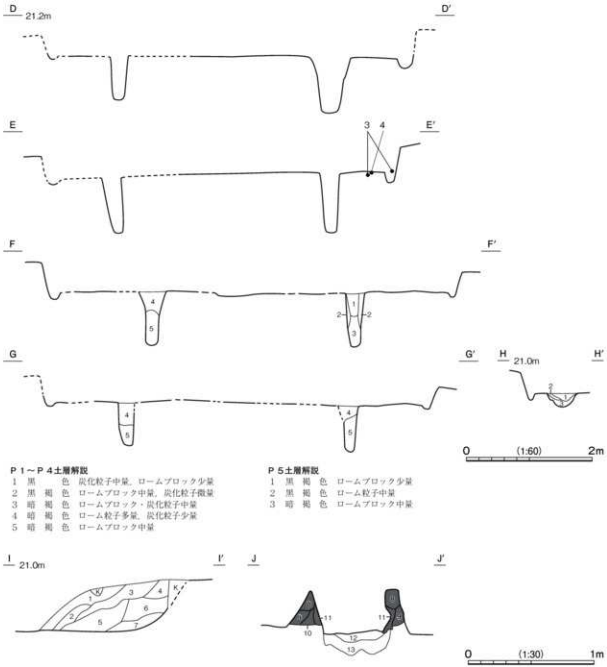
重複関係　第 24 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。



土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
5　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子中量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
7　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量
8　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック少量，炭化物微量
10　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量
12　黒　褐　色　ローム粒子少量
13　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
14　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

第 33 図　第 23 号竪穴建物跡実測図(1)



P 1～P 4土層解説

1 黒　　色 炭化粒子中量，ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量，炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ロームブロック中量

P 5土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量

竈土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒 褐 色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量
5 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
6 黒 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
7 黒 褐 色 炭化粒子中量，ロームブロック少量
8 褐　　色 粘土粒子多量，焼土粒子少量
9 暗 褐 色 粘土粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
10 褐　　色 粘土粒子多量，焼土粒子微量
11 赤 褐 色 焼土粒子・粘土粒子多量
12 暗 赤 褐 色 焼土粒子・灰多量
13 褐　　色 ロームブロック多量

第 34 図　第 23 号竪穴建物跡実測図(2)

規模と形状　長軸 6.68 m，短軸 5.96 mの長方形と推定され，主軸方向はN－25°－Wである。壁は高さ 26 ～ 46cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部がかなり踏み固められている。壁が撹乱を受けている部分があるが，壁溝は全壁下に巡っている。

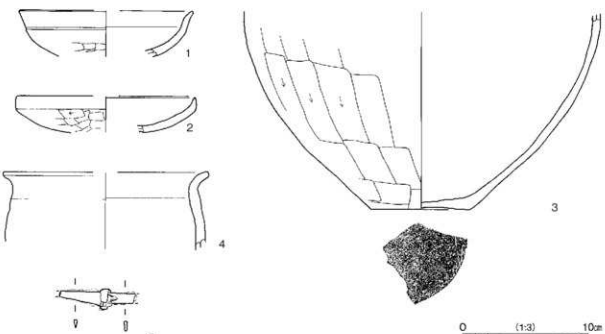
竈　北壁のほぼ中央部に付設されている。煙道部を含む上部が攪乱を受けており，遺存状態はよくない。焚口部から煙道部までは100cm，燃焼部の幅は50cmである。煙道部は攪乱により壊されており，立ち上がりなどは確認できなかった。火床部は床面から30cmほど掘りくぼめ，第12・13層を埋土して構築されている。火床面は第12層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。袖部は地山の上に粘土粒子などを含む第8～11層を積み上げて構築されている。竈袖部の内面は火熱を受けて赤変している。

ピット　5か所。P1～P4は深さ70～86cmで，規模や配置から主柱穴である。P5は深さ20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。P1～P5の各層はいずれも柱抜き取り後の覆土である。

覆土　14層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子，炭化粒子などが含まれており，また不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片289点（坏19，椀1，高坏5，甕類260，小形甕1，甑1，手捏土器2），土製品30点（羽口），金属製品1点（刀子）が出土している。3・4は，竈付近から北東壁際にかけての床面から出土した破片が接合したものである。1・2は，いずれも北西部の覆土中から出土している。5は北東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



第35図　第23号竪穴建物跡出土遺物実測図

第23号竪穴建物跡出土遺物観察表（第35図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.8]	(3.7)	－	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中	20%
2	土師器	坏	[14.2]	(2.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中	30%
3	土師器	甕	－	(15.7)	[8.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り　体部外面下端横位のヘラ削り　体部内面多方向のナデ	竈内袖部床面	20%
4	土師器	甕	[16.4]	(6.1)	－	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	床面	5%

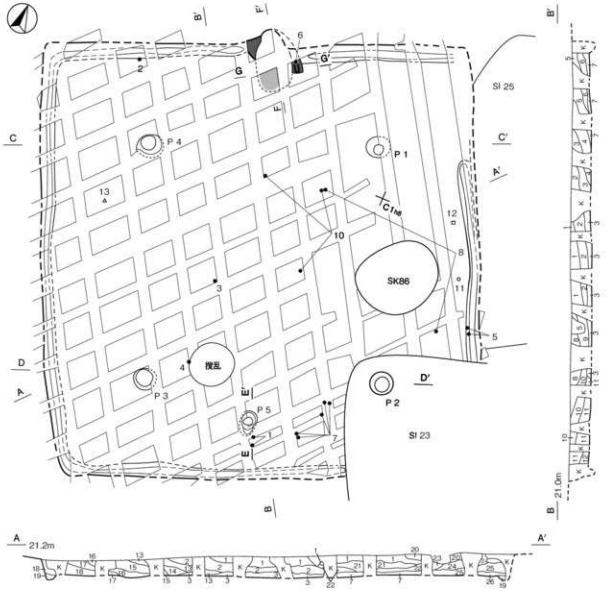
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	刀子	(6.1)	1.6	0.3	(8.3g)	鉄	先端部欠損　刃部三角形　茎部長方形	覆土中	

第24号竪穴建物跡（第36～38図　PL 6）

調査年度　平成29年度

位置　調査区北部のＣ 1h7 区，標高21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第25号竪穴建物跡，第48号土坑を掘り込み，第23号竪穴建物，第86号土坑に掘り込まれている。

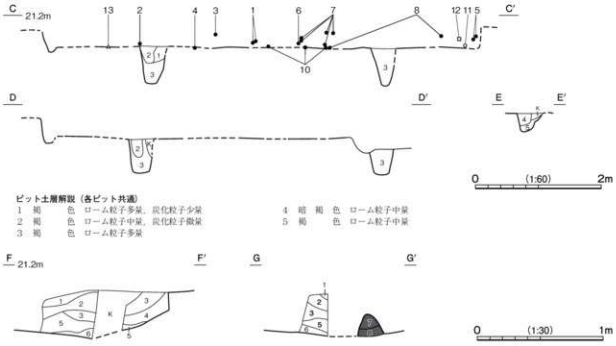


土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　炭化物中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
7　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
8　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
9　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
10　暗　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
11　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
12　黒　褐　色　ローム粒子少量
13　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
15　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
16　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
17　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
18　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
19　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
20　黒　褐　色　ローム粒子中量
21　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
22　黒　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量
23　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
24　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
25　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
26　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化物少量

0　(1:60)　2m

第36図　第24号竪穴建物跡実測図(1)



第 37 図　第 24 号竪穴建物跡実測図(2)

規模と形状　撹乱により遺存状態は良くないが，長軸 7.23 m，短軸 7.09 m の方形で，主軸方向は N－22°－W である。壁は高さ 27 ～ 33cm で，直立している。

床　ほぼ平坦であるが，踏み固められた部分は確認されなかった。壁溝は，北東コーナー部を除いて壁下に巡っている。

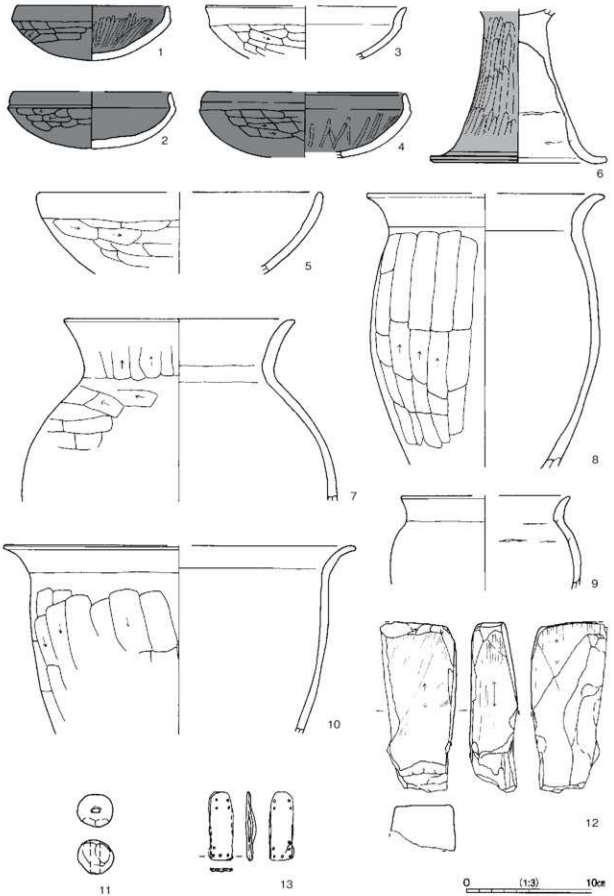
竈　北壁のほぼ中央部に付設されているが，大部分が撹乱を受け，天井部は確認できなかった。覆土の一部が遺存するだけである。

ピット　5 か所。P 1 ～ P 4 は深さ 40 ～ 58cm で，規模や配置から主柱穴である。P 5 は深さ 28cm で，配置から出入り口施設に伴うピットである。P 1 ～ P 4 の第 1 ～ 3 層，P 5 の第 4 ・ 5 層は柱抜き取り後の覆土である。

覆土　26 層に分層できる。第 5 ～ 26 層はロームブロックが含まれており，埋め戻されている。第 1 ～ 4 層は自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 586 点（坏 93，器台 1，高杯 3，鉢 1，甕類 487，瓶 1），土製品 45 点（土玉 1，羽口 44），石器 2 点（砥石），金属製品 5 点（小札 1，釘 1，不明鉄製品 3）のほか，鉄滓が 682 点出土している。他の遺構に比べ出土遺物が多く，全体から散在した状態で出土している。鉄滓が多量に出土している。1 は，P 5 付近の覆土下層から出土した破片が接合したものである。2 は北西部壁際の，4 は南西部の，10 は中央部の床面から出土している。13 は西壁際の床面から出土しているが後世の混入の可能性がある。

所見　時期は，出土土器から 6 世紀後葉と考えられる。



第 38 図　第 24 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第24号竪穴建物跡出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.2	4.4	－	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面横位のヘラ磨き	覆土下層	80% PL18
2	土師器	坏	[12.4]	4.5	－	長石・石英・黄母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面横ナデ	床面	60% PL18
3	土師器	坏	[16.0]	(4.2)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面横ナデ	覆土上層	30%
4	土師器	坏	[16.0]	(5.2)	－	長石・石英	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面ヘラ磨き	床面	40%
5	土師器	坏	[22.3]	(6.5)	－	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面横ナデ	覆土中層	20%
6	土師器	高坏	－	(12.2)	[13.2]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面へラ磨き後ナデ　脚部内面横位のナデ　脚部内面に輪積み痕	覆土下層	40%
7	土師器	甕	17.7	(14.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外面縦方向のヘラ削り後ナデ　口縁部内面横ナデ　体部外面へラ削り後ナデ　体部内面ナデ	覆土上層中層	30%
8	土師器	甕	[18.8]	(21.8)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面縦方向のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中層床面	30%
9	土師器	小形甕	[13.4]	(7.5)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ　体部外・内面ナデ	覆土中	20%
10	土師器	甑	[27.5]	(15.0)	－	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ　体部外面縦方向の削り後ナデ　体部内面ナデ	床面	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
11	土玉	29	27	0.7	19.73	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	紡石	(13.5)	(6.1)	(3.9)	(438.4)	凝灰岩	紡面3面	覆土中層	PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	小札	5.5	1.9	1.3	(10.6)	鉄	孔数上部4，下部6	床面	PL26

第25号竪穴建物跡（第39・40図）

調査年度　平成29年度

位置　調査区北部のＣ１g8区，標高20ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第24号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　第24号竪穴建物に掘り込まれているが，長軸4.95ｍ，短軸3.59ｍの隅丸長方形と推定される。主軸方向はＮ－2°－Ｗである。壁は高さ32～38cmで，外傾している。

床　平坦であるが，撹乱により遺存状態が悪く，踏み固められた部分は確認できなかった。

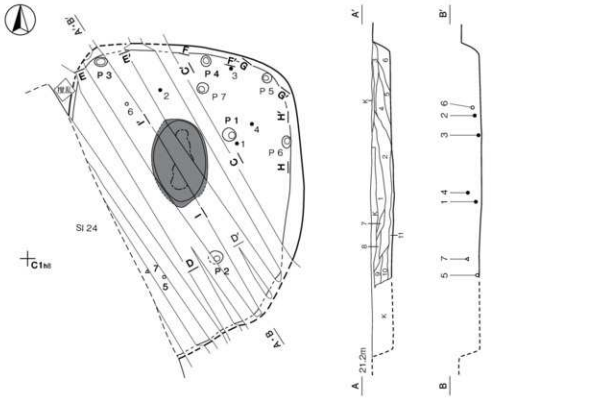
炉　撹乱により一部分が壊されているが，中央部からやや北側に位置し，長径140cm，短径90cmの楕円形の地床炉である。床面から深さ16cmほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は，第２層上面が火熱を受けて赤変硬化している。各層ともロームブロックなどを含んでいることから，埋め戻されている。

ピット　７か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ46cm・60cmで，規模や配置から主柱穴である。Ｐ３～Ｐ６は深さ10～22cmで，配置から補助柱穴である。Ｐ７は深さ30cmで，性格は不明である。Ｐ１～Ｐ７の第１・２層は柱材抜き取り後の覆土である。

覆土　11層に分層できる。ロームブロックなどが含まれており，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片137点（坏７，器台５，高杯２，甕類123），土製品８点（土玉２，羽口６），金属製品１点（鎌）のほか，鉄滓229点が出土している。鉄滓が多量に出土しているのは，近くにある第２号鍛冶工房跡からの流入と考えられる。１～３は北部の覆土下層から出土している。７は南部の覆土中層から出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から４世紀中葉と考えられる。



土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 黒 褐 色 焼土粒子中量、炭化材・ローム粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ロームブロック少量
7 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
8 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
10 暗 褐 色 焼土粒子中量、炭化粒子少量
11 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

ピット土層解説（各ピット共通）

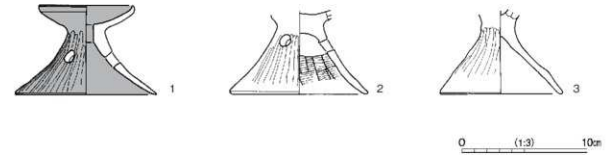
1 暗 褐 色 ロームブロック中量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量

0 (1:60) 2m

炉土層解説

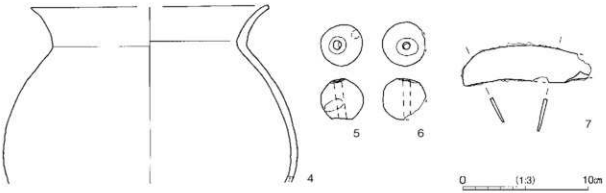
1 黒 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量
2 赤 褐 色 ロームブロック少量
3 褐 色 ロームブロック中量

0 (1:30) 1m



0 (1:3) 10cm

第39図 第25号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 40 図　第 25 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 39・40 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	器台	7.5	7.1	[11.3]	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面斜位のナデ　内面多方向の磨き後ナデ 脚部外面縦方向の磨き　内面多方向のナデ	覆土下層	70% PL19
2	土師器	器台	－	6.7	10.8	長石・石英	にぶい黄褐	普通	脚部外面縦方向のミガキ　内面ハケ目調整後ナデ	覆土下層	70%
3	土師器	器台	－	(6.6)	[9.6]	長石・石英	にぶい黄褐	普通	脚部外面縦方向の磨き　内面横方向のナデ	覆土下層	60%
4	土師器	甕	[19.0]	(14.0)	－	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面ナデ　体部外・内面ナデ	覆土中層	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	土玉	3.4	3.2	0.6	33.51	長石・石英	灰褐	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	床面	
6	土玉	3.5	3.2	0.6	(1065)	長石・石英	灰褐	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
7	鎌	(10.3)	3.2	0.3	(36.33)	鉄	切先部欠損　基部折り返し	覆土中層	PL26

第 30 号竪穴建物跡（第 41・42 図　PL 5）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区南部のＤ１i8 区，標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 21・29 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 5.82 m，短軸 5.48 mの方形で，主軸方向はＮ－ 16°－Ｅである。壁は高さ 10 ～ 16cmで，直立している。

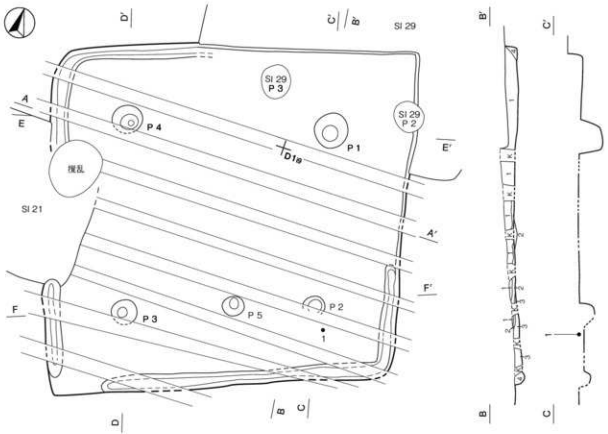
床　撹乱を受けているが平坦で，踏み固められた部分は，確認できなかった。壁溝が西壁から北壁にかけてと南壁から東壁にかけて壁下を巡っている。

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 20 ～ 45cmで，規模や配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 30cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。Ｐ１～Ｐ５の第１～９層は柱抜き取り後の覆土である。

覆土　４層に分層できる。第１・２層はロームブロックが含まれており，埋め戻されている。第３・４層は，自然堆積である。

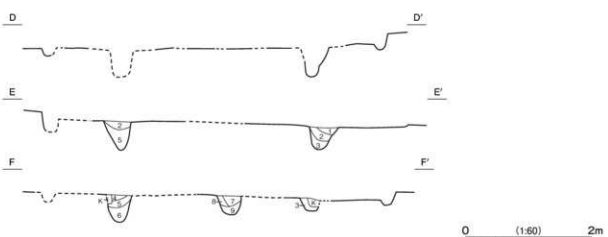
遺物出土状況　土師器片 66 点（坏 11，甕類 54，小形甕１），土製品２点（土玉）が，遺構全体に散在した状態で出土している。１は南東コーナー部の覆土中層から出土している。

所見　炉跡や竈跡は確認できなかった。時期は，出土土器から後期と考えられる。



土層解説

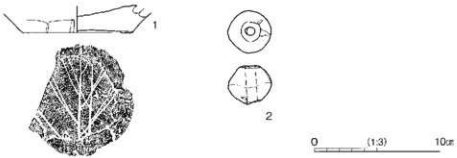
1 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
2 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 褐 色 ローム粒子多量



ピット土層解説（各ピット共通）

1 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子中量
4 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
5 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
6 褐 色 ロームブロック中量
7 黒 褐 色 ローム粒子少量
8 暗 褐 色 ローム粒子少量
9 黒 褐 色 ローム粒子微量

第41図 第30号竪穴建物跡実測図



第 42 図　第 30 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 30 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 42 図）

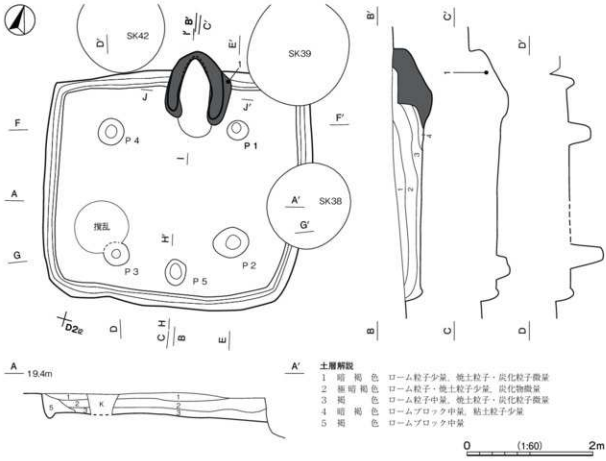
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	－	(21)	8.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下端横位のヘラ削り後ナデ　底部木葉痕	覆土中層	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	土玉	3.4	3.0	0.8	28.83	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	

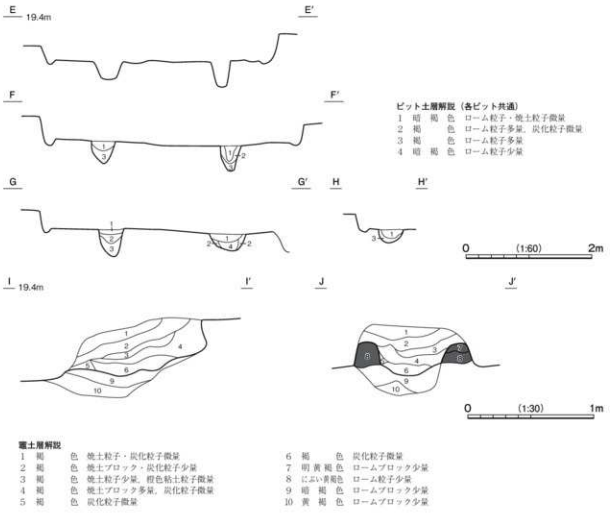
第 31 号竪穴建物跡（第 43 ～ 45 図）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区南部の D 2h2 区，標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。



第 43 図　第 31 号竪穴建物跡実測図(1)



第44図　第31号竪穴建物跡実測図(2)

重複関係　第38・39・42号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.20 m，短軸3.70 mの長方形で，主軸方向はN－13°－Wである。壁は高さ25～42cmで，直立している。

床　ほぼ平坦であるが，踏み固められた部分は確認できなかった。壁溝は全壁下を巡っている。

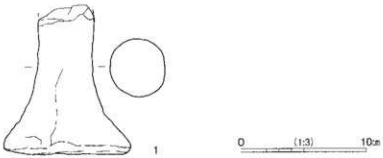
竈　北壁のほぼ中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは136cm，燃焼部の幅は48cmである。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ，内彎しながら立ち上がっている。火床部は床面から20cmほど掘りくぼめ，第9・10層を埋土して構築されている。火床面は第9層の上面であるが，赤変は少ない。袖部は地山の上に第7・8層を積み上げて構築されている。第1～3層は天井部の崩落層と考えられる。

ピット　5か所。P1～P4は深さ26～54cmで，規模や配置から主柱穴である。P5は深さ20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。P1～P5の第1～4層は柱抜き取り後の覆土である。

覆土　5層に分層できる。第1～3層は自然堆積の層である。第4・5層は壁の崩落層と考えられる。

遺物出土状況　土師器片195点（坏17，甕類177，手捏土器1），土製品1点（支脚）が出土している。出土遺物は細片が多く，図示できるものはほとんどなかった。1は，竈袖部東側の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。



第 45 図　第 31 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 31 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 45 図）

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
1	支脚	(4.3)	10.3	(11.8)	(602g)	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	ナデ	覆土下層	PL.23

第 37 号竪穴建物跡（第 46・47 図　PL 6）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区北部の D 1 a9 区，標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 27 号竪穴建物，第 2 号溝に掘り込まれている。

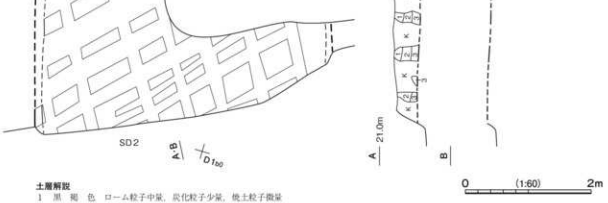
規模と形状　北東部を第 27 号竪穴建物に，南部を第 2 号溝に掘り込まれているため，東西軸は 4.75 m，南北軸は 2.60 m しか確認できなかった。主軸方向は N − 72° − E と推定される。壁は高さ 44 ～ 46cm で，直立している。

床　撹乱を受けており，遺存状態はよくない。平坦で，踏み固められた部分は検出されなかった。

覆土　3 層に分層できる。自然堆積である。

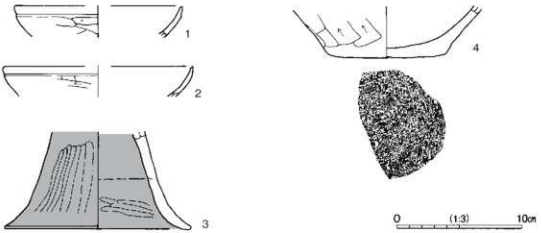
遺物出土状況　土師器片 146 点（坏 22，高坏 1，甕類 123）が出土している。4 は北壁際の覆土下層から出土している。

所見　竈など検出できなかった。遺物の遺存状態もよくない。時期は，出土土器から 6 世紀後葉と考えられる。



土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 46 図　第 37 号竪穴建物跡実測図



第 47 図　第 37 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 37 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 47 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.3]	(2.5)	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中	10%
2	土師器	坏	[15.0]	(2.4)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中	10%
3	土師器	高坏	－	(7.8)	[15.0]	長石・石英	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き後ナデ　内面ヘラ削り後ナデ	覆土中	10%
4	土師器	甕	－	(4.1)	[9.3]	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面下端斜位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土下層	20%

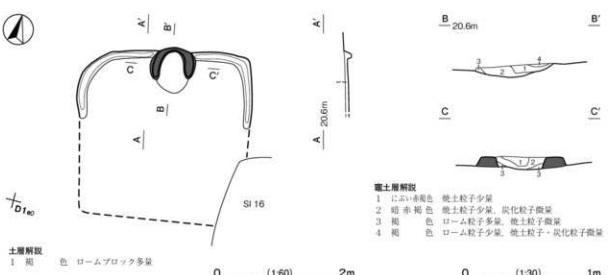
第 38 号竪穴建物跡（第 48 図）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区南部の D 1d0 区，標高 20 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 16 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　南部が削平されており，東西軸は 2.78 m で，南北軸は 2.74 m しか確認できなかった。方形と推定され，主軸方向はN－11°－Wである。壁は高さ 4 cmほどで，ほぼ直立している。



第 48 図　第 38 号竪穴建物跡実測図

床　平坦で，踏み固められた部分は確認できなかった。壁が確認できた部分は，壁溝が巡っている。

竈　上部が削平されており，遺存状態はよくない。北壁の中央部に付設されているが，袖部と覆土の一部が残存するだけである。焚口部から煙道部までは72cm，燃焼部の幅は38cmである。火床部は地山を18cmほど掘りくぼめて使用している。袖部は地山を掘り残して基部とし，構築されているが，上部は削平されており，構造は不明である。

覆土　確認できたのは1層だけである。ロームブロックが含まれており，埋め戻されていると考えられる。

遺物出土状況　土師器片1点（甕）が出土している。遺物は細片で，図示できなかった。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。

第41号竪穴建物跡（第49～54図　PL 7）

調査年度　平成30年度

位置　調査区南部のE 2e3区，標高17 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸6.92 m，短軸6.36 mの方形で，主軸方向はN－153°－Eである。壁は高さ48～83cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，南部の竈前面から貯蔵穴周辺にかけて，西部のP 4周辺から壁際にかけて，踏み固められている。

竈　南壁の南東コーナー部寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは120cm，燃焼部の幅は48cmである。煙道部は一部が攪乱を受けているが，現存で壁外に24cmほど掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部は床面から24cmほど掘りくぼめ，第14・15層を埋土して構築されている。火床面は第14層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。袖部は地山の上に粘土粒子やロームブロックなどを含む第7～13層を積み上げて構築されている。

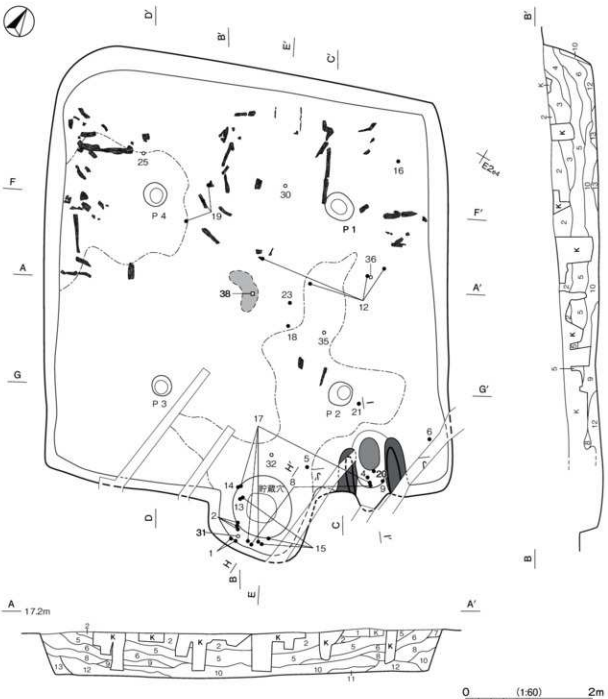
ピット　4か所。P 1～P 4は深さ70～84cmで，規模や配置から主柱穴である。第1層は柱抜き取り痕である。第2～4層は自然堆積の覆土である。

貯蔵穴　南壁中央部で壁外に張り出した位置にあり，長径98cm，短径94cmの円形である。深さは60cm，底面はU字状で，壁は外傾している。5層に分層でき，不規則な堆積状況から埋め戻されている。

覆土　13層に分層できる。多くの層にロームブロックや炭化材などが含まれており，また不自然な堆積から，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片1,340点（坏166，椀107，高杯2，甕類1037，小形甕1，甑21，手捏土器6），須恵器9点（坏6点，脚付椀1点，蓋1点，甕1点）土製品12点（土玉8，管状土錘1，支脚1，羽口2），石器2点（砥石），金属製品1点（釘）が出土している。他の道構に比べ出土遺物が最も多く，全体から出土しているが，特に竈周辺と貯蔵穴周辺から多く出土している。4・9・20は竈の覆土下層から，4・20はほぼ完形の状態で出土した。1・2・13～15など，貯蔵穴上面の覆土から多くの土器が出土している。多量の炭化材が，北部の床面で確認できた。

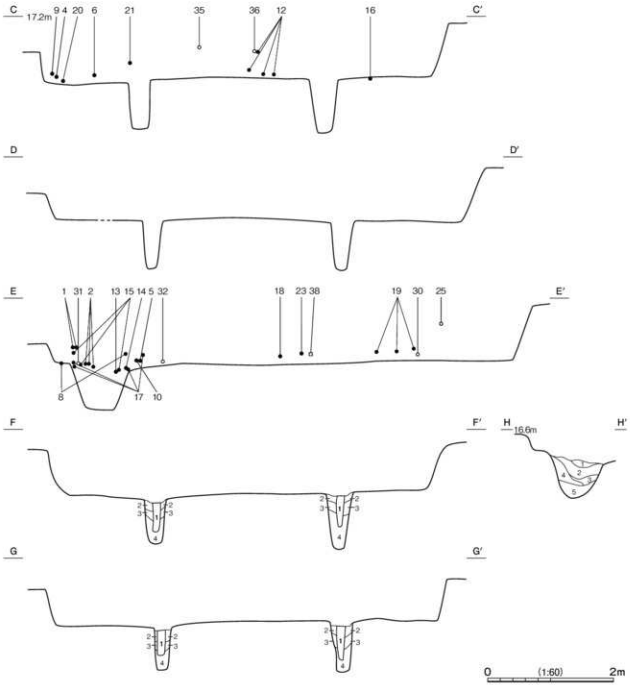
所見　竈が南壁に付設され，また壁外へ張り出す構造の貯蔵穴を持つ特異な構造である。床面から多量の炭化材が出土していることから，常総地域で認められる焼失家屋と思われる。時期は，出土土器から5世紀末から6世紀初めと考えられる。



土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック微量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量
4 黒 褐 色 ローム粒子中量
5 極暗褐色 ロームブロック少量
6 暗 褐 色 ロームブロック中量
7 黒 褐 色 ローム粒子微量
8 暗 褐 色 ローム粒子中量
9 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
10 黒 褐 色 ロームブロック微量
11 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
12 極暗褐色 ロームブロック・炭化材少量
13 暗 褐 色 ローム粒子少量

第49図 第41号竪穴建物跡実測図(1)



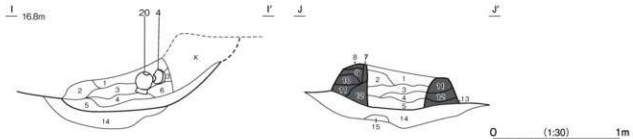
ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗　褐　色　ローム粒子中量、炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量、炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量

貯蔵穴土層解説

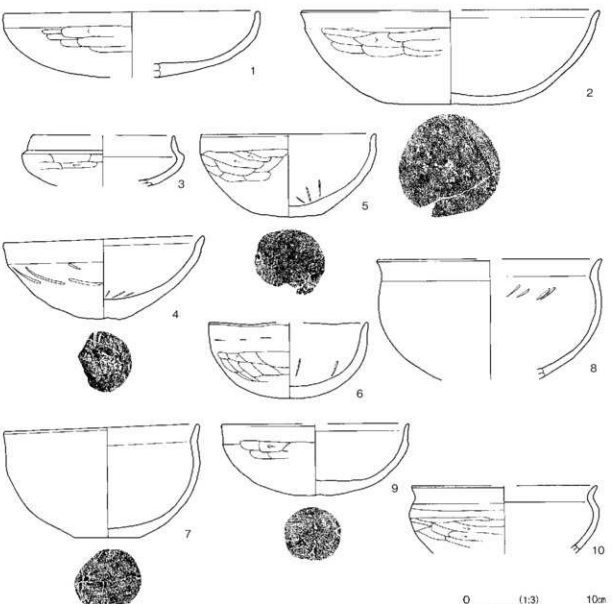
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒 暗 褐 色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 50 図　第 41 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

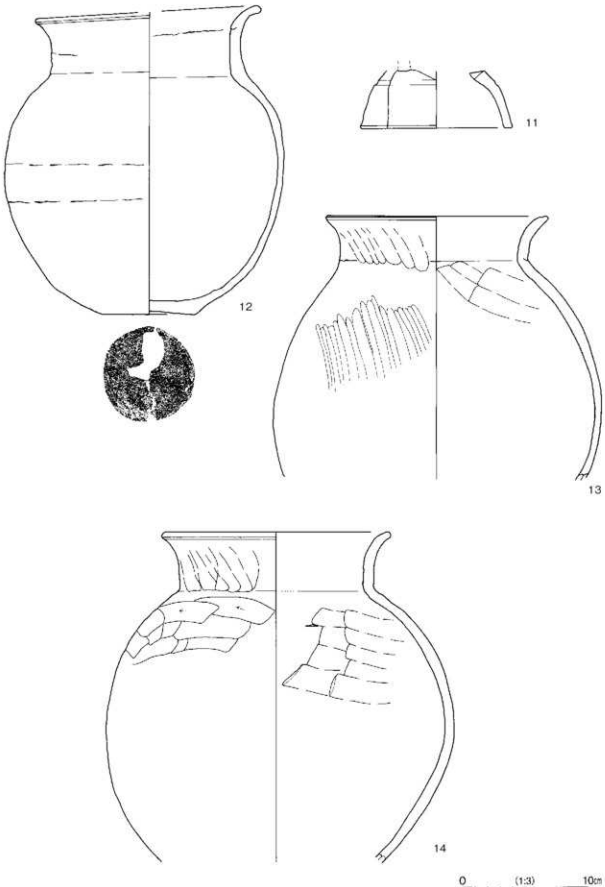


遺土層解説

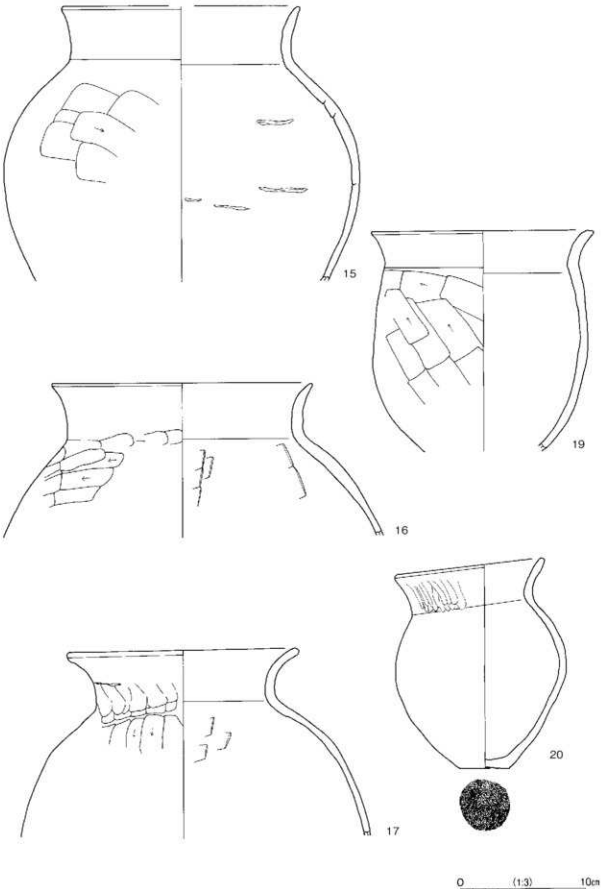
1 黒 褐 色 焼土粒子多量，ローム粒子少量
2 極暗褐色 ロームブロック少量，ローム粒子微量
3 極暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4 にぶい赤褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量
5 暗 赤 褐 色 ロームブロック中量
6 暗 褐 色 焼土粒子中量，ロームブロック少量
7 暗 赤 褐 色 焼土粒子中量，粘土粒子少量，ローム粒子微量
8 暗 赤 褐 色 焼土粒子少量，ロームブロック・粘土粒子微量
9 灰 褐 色 粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
10 灰 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
11 灰 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子微量
12 暗 赤 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
13 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
14 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
15 暗 褐 色 ロームブロック少量



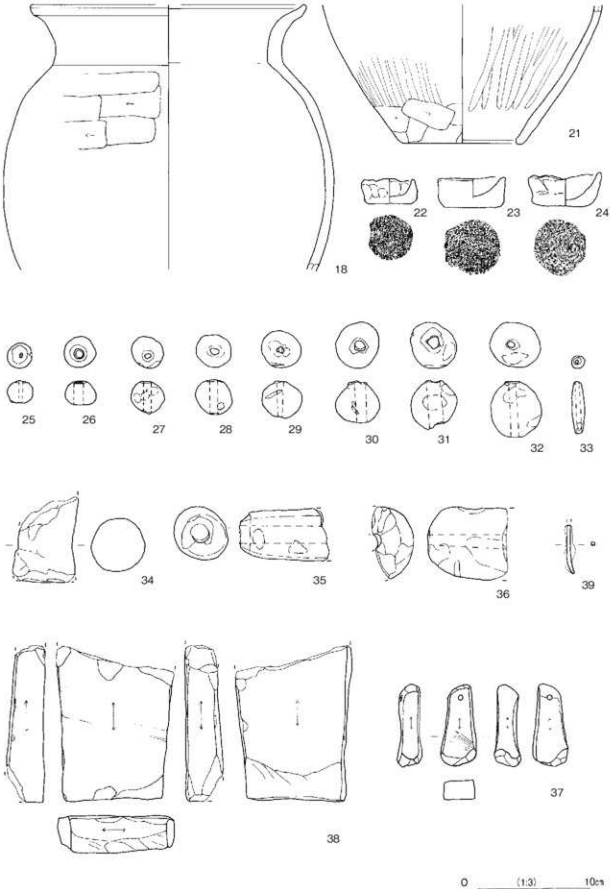
第51図 第41号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 52 図　第 41 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第53図　第41号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



第 54 図　第 41 号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第 41 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 51 ～ 54 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	20.4	(5.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中層	30%　PL18
2	土師器	坏	[23.8]	7.5	8.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	床面	60%
3	土師器	坏	[11.2]	(4.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中	30%
4	土師器	椀	16.0	6.6	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ　体部内面ヘラナデ	竈覆土下層	80%　PL18
5	土師器	椀	13.8	6.6	5.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土下層	90%　PL18
6	土師器	椀	12.6	6.0	4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土下層	70%　PL18
7	土師器	椀	15.4	9.0	5.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土中	60%　PL18
8	土師器	椀	[17.8]	(9.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土下層	30%
9	土師器	椀	[14.8]	5.6	[4.4]	長石・石英	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	竈覆土下層	40%
10	土師器	椀	[14.6]	(5.4)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位・斜位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土下層	30%
11	須恵器	脚付椀	－	(4.6)	[12.0]	長石・石英	灰	普通	脚部外・内面ロクロナデ　透かし孔	覆土中	5 %
12	土師器	甕	[17.8]	24.6	7.4	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　口縁部内面に輪積み痕　体部外・内面ナデ	覆土下層	60%　PL19
13	土師器	甕	17.6	(21.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面横位・斜位のナデ　口縁部内面横ナデ　体部外面へラ磨き後ナデ　体部内面ヘラナデ	床面	30%　PL19
14	土師器	甕	17.8	(26.3)	－	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横位・斜位のナデ　内面横ナデ　体部外面へラ削り後ナデ　体部内面ヘラナデ	床面	60%　PL19
15	土師器	甕	[18.8]	(21.9)	－	長石・石英・礫	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面ナデ　体部内面に輪積み痕	覆土中層　床面	40%
16	土師器	甕	20.6	(12.3)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面ヘラナデ	床面	30%
17	土師器	甕	18.0	(15.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横位・斜位のナデ　内面横ナデ　体部外面へラ削り後ナデ　体部内面ヘラナデ	覆土下層	30%
18	土師器	甕	[21.8]	(21.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面ナデ	覆土下層	30%
19	土師器	甕	17.8	(17.5)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土下層	60%　PL19
20	土師器	小形甕	11.5	16.7	4.0	長石・石英・赤色粒子・細礫	明赤褐	普通	口縁部外面縦位のヘラ磨き後ナデ　口縁部内面後ナデ　体部外・内面ナデ	竈覆土下層	100%　PL19
21	土師器	甑	－	(11.0)	[9.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラ磨き後ナデ　外面下端ヘラ削り	覆土中層	30%
22	土師器	手捏土器	3.9	2.0	3.5	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外・内面ナデ　外面に指頭痕	覆土中	90%
23	土師器	手捏土器	5.4	2.5	4.4	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外・内面ナデ	覆土下層	90%
24	土師器	手捏土器	5.4	2.8	4.1	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外・内面ナデ	覆土中	100%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
25	土玉	2.0	1.9	0.3	(7.61)	長石・石英	赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土上層	PL23
26	土玉	2.5	1.4	0.8	12.34	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL23
27	土玉	2.7	2.6	0.6	15.91	長石・石英	橙	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	覆土中	PL23
28	土玉	2.9	2.7	0.7	(20.51)	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL23
29	土玉	3.2	2.9	0.6	27.42	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL23
30	土玉	3.6	3.3	0.9	37.38	長石・石英	明赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL23
31	土玉	3.9	3.9	1.1	(40.28)	長石・石英・雲母	橙	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	床面	PL23
32	土玉	4.0	4.5	0.6	63.63	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	覆土下層	PL23
33	管状土錘	1.0	4.1	0.3	3.79	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL23

番号	器種	最小径	最大径	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
34	支脚	4.3	5.0	(6.8)	(131.74)	長石・石英・雲母	橙	ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
35	羽口	(7.0)	4.3	4.2	(121.0)	長石・石英・雲母	孔径 1.5cm　ナデ	覆土中層	
36	羽口	(6.4)	(5.8)	(3.4)	(113.7)	長石・石英・雲母	推定口径 1.5cm　ナデ	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
37	砥石	6.6	2.8	2.0	48.36	千枚岩	砥面 4 面　孔 1 か所	覆土中	PL25
38	砥石	(12.5)	(9.3)	(3.0)	(48.5)	硬砂岩	砥面 5 面	覆土下層	PL25

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
39	釘	(3.9)	0.3	0.2	(2.28)	鉄	頭部欠損　身部断面長方形	覆土中	

第 46 号竪穴建物跡（第 55 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区南部のＥ１i9 区，標高 17 mほどの台地平坦部に位置している。

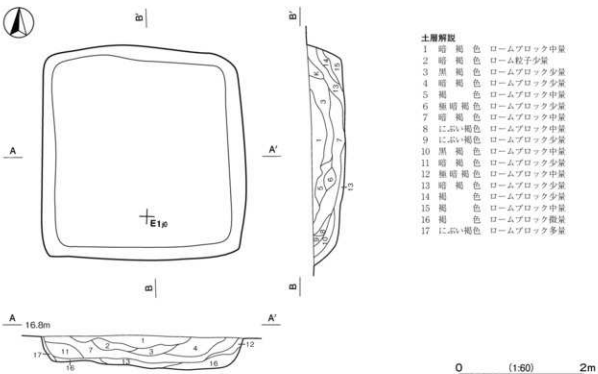
規模と形状　長軸 3.44 m，短軸 3.27 mの方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁は高さ 34 ～ 53cmで，ほぼ直立している。

床　平坦であるが，踏み固められた部分は確認できなかった。

覆土　17 層に分層できる。各層ともロームブロックが含まれており，堆積状況から埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 102 点（坏３，甕類 99），土製品１点（土玉），金属製品１点（不明鉄製品）のほか，鉄滓１点が出土している。遺物はいずれも細片で，図示できるものはなかった。

所見　炉跡や竈跡が確認できなかったことから，性格不明遺構である。時期は，出土土器から後期と考えられる。



第 55 図　第 46 号竪穴建物跡実測図

第 47 号竪穴建物跡（第 56・57 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区南部のＥ２h3 区，標高 17 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.67 m，短軸 3.40 mの方形で，主軸方向はＮ－ 12°－Ｗである。壁は高さ 40 ～ 58cmで，直立している。

床　平坦で，竈前面から南壁にかけて中央部が踏み固められている。壁溝が南壁下と西壁下の一部を除いて，巡っている。

竈　北壁のほぼ中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 80cm，燃焼部の幅は 26cmである。煙道部は壁外に 10cmほど掘り込まれ，火床部からほぼ直立している。火床部は床面から 10cmほど掘りくぼめ，第５・６層を埋土して構築されている。火床面は第 12 層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。袖部は地山の

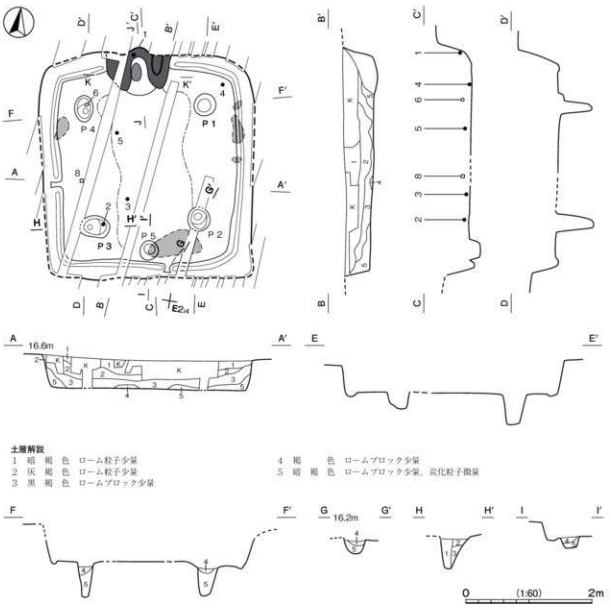
上に粘土粒子やローム粒子・焼土粒子などを含む第10・11層を積み上げて構築されている。第1～4層は，粘土ブロックや焼土粒子などを含む天井部の崩落土である。

ピット　5か所。P1～P4は深さ28～52cmで，規模や配置から主柱穴である。P5は深さ18cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。P1～P5の第1～5層は，柱抜き取り後の覆土である。

覆土　5層に分層できる。第3～5層はロームブロックなどが含まれており，不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第1・2層は自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片228点（坏57，椀9，高坏1，甕類158，小形甕1，甑1，手捏土器1），土製品2点（土玉），石器1点（砥石）が出土している。遺物は全体から散在した状態で出土している。覆土下層からの出土も多い。1は竈内の覆土下層から，4は北東コーナー部の床面から出土している。

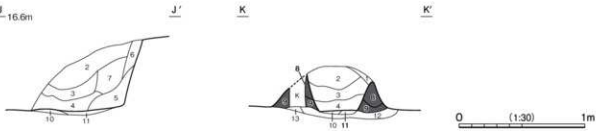
所見　時期は，出土土器から6世紀後葉と考えられる。



土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　灰　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

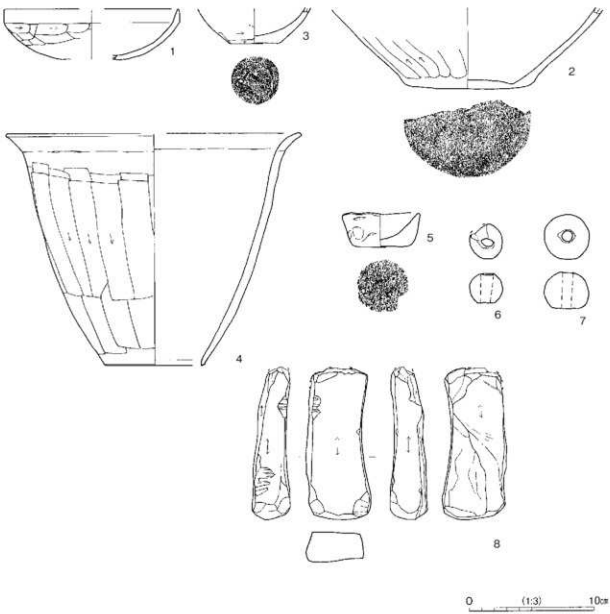
ピット土層解説（各ピット共通）
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック中量

第56図　第47号竪穴建物跡実測図



覆土層解説

1　黒　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
2　灰　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
3　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
5　無暗褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量
8　にぶい赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量，粘土粒子微量
9　褐　　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
10　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子微量
11　赤　褐　色　焼土ブロック中量，焼土粒子・粘土粒子微量
12　灰　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
13　にぶい赤褐色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量



第 57 図　第 47 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 47 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 57 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.8]	(4.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 体部内面斜位のヘラナデ	体部外面横位のヘラ削り	竈覆土下層	30%
2	土師器	甕	－	(6.5)	10.0	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面下端斜位のヘラ削り	体部内面ナデ	覆土下層	20%
3	土師器	小形甕	－	(2.8)	3.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面下端ヘラ削り	体部内面ナデ	覆土下層	20%
4	土師器	甑	[23.3]	18.4	7.5	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 体部内面ナデ	体部外面縦位のヘラ削り	床面	60% PL19
5	土師器	手捏土器	6.0	2.7	4.0	長石・石英	黄褐	普通	体部外面ナデ 体部内面ナデ	体部外面に指頭痕	覆土下層	95%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
6	土玉	2.7	2.3	1.0	(14.85)	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	
7	土玉	3.6	2.8	0.8	34.73	長石・石英	にぶい褐	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	砥石	(12.1)	5.2	3.0	(283.07)	千枚岩	砥面 4 面	覆土下層	PL25

第 49 号竪穴建物跡（第 58 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区南部の D 2j6 区，標高 18 mほどの台地平坦部に位置している。

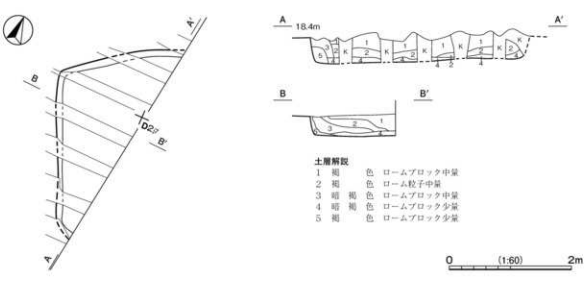
規模と形状　大部分が調査区域外となっているため，南北軸は 2.60 m，東西軸は 2.20 mしか確認できなかった。長方形と推定され，主軸方向はN－23°－Wである。壁は高さ 30cmほどで，直立している。

床　検出された範囲では，平坦であるが，踏み固められた部分は検出されなかった。

覆土　5 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれており，不規則に堆積していることから，埋め戻されているとみられる。

遺物出土状況　土師器片 26 点（坏 2，甕類 23，甑 1），金属製品 1 点（不明鉄製品）のほか，鉄滓 1 点が出土している。遺物は全体から散在した状態で出土している。遺物は，細片が多く，図示できるものはなかった。

所見　時期は，出土土器から後期と考えられる。



第 58 図　第 49 号竪穴建物跡実測図

表3　古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考
2	B 2 j2	N－32°－W	［方形］	[5.06]×[4.70]	8～36	平坦	－	4	－	－	北壁	－	人為	土師器，土製品	後期	本跡→SI 7
3	B 2 i1	N－26°－W	［方形］	[4.34]×4.14	6～15	平坦	－	－	－	－	－	－	人為	土師器	後期	
5	C 1 i5	N－6°－W	［長方形］	6.20×(5.15)	17～37	平坦	－	3	－	－	炉1	－	人為	土師器，土製品，金属製品	4世紀中葉	
8	C 2 d4	N－17°－W	［長方形］	[3.84]×[3.32]	10～18	平坦	一部	2	1	－	北壁	－	人為	土師器，金属製品，鉄滓	後期	
9	C 2 e2	N－18°－W	［長方形］	5.10 × 4.56	4～14	平坦	一部	2	－	－	北西壁	－	人為	土師器，土製品，金属製品，鉄滓	6世紀後半	
10	C 2 f5	N－20°－W	［方形］	[6.22]×6.06	6～28	平坦	－	4	－	－	北壁	－	人為	土師器，金属製品，鉄滓	6世紀後半	
13	C 1 c7	N－4°－W	長方形	5.38 × 4.75	12～22	平坦	一部	2	－	－	－	－	人為	土師器，須恵器，土製品	後期	
14	C 2 g1	N－0°	方形	4.06 × 3.88	20～26	平坦	－	－	－	－	北壁	－	人為	土師器，土製品，鉄滓	6世紀後半	
15	C 1 e8	N－39°－W	［方形］	[6.80]×[6.78]	16～22	平坦	－	－	－	－	炉1	－	人為	土師器，土製品，金属製品，鉄滓	5世紀中葉	本跡→第2号鍛冶工房跡
17	D 2 e4	N－22°－E	方形	5.00 × 4.86	13～39	平坦	－	4	1	－	北壁	－	自然	土師器，金属製品，鉄滓	7世紀中葉	SI19→本跡→SK22
18	D 1 h0	N－7°－W	方形	3.50 × 3.34	20～36	平坦	全周	4	1	5	北壁	－	自然	土師器，金属製品	後期	本跡→SK34
19	D 2 d5	N－16°－W	方形	7.72 × 7.06	8～50	平坦	－	4	1	－	炉1	－	自然	土師器，須恵器，土製品，鉄滓	4世紀中葉	本跡→SI17
22	D 2 d2	N－32°－W	方形	4.86 × 4.62	20～44	平坦	ほぼ全周	4	1	－	石囲炉 土壁炉	－	自然	土師器，土製品，金属製品	6世紀代	本跡→SI16，SK21
23	C 1 i9	N－25°－W	［長方形］	[6.68]×5.96	26～46	平坦	全周	4	1	－	北壁	－	人為	土師器，土製品，金属製品	6世紀後葉	SI24→本跡
24	C 1 h7	N－22°－W	方形	7.23 × 7.09	27～33	平坦	ほぼ全周	4	1	－	北壁	－	人為 自然	土師器，土製品，石器，金属製品，鉄滓	SI25，SK36→本跡→SI23，SK86	
25	C 1 g8	N－2°－W	隅丸長方形	4.95 × 3.59	32～38	平坦	－	2	－	5	炉1	－	人為	土師器，土製品，金属製品，鉄滓	4世紀中葉	本跡→SI24
30	D 1 i8	N－16°－E	方形	5.82 × 5.48	10～16	平坦	一部	4	1	－	－	－	人為 自然	土師器，土製品	後期	本跡→SI21・29
31	D 2 h2	N－13°－W	長方形	4.20 × 3.70	25～42	平坦	全周	4	1	－	北壁	－	自然	土師器，土製品	後期	本跡→SK38・39
37	D 1 a9	［N－72°－E］	［長方形］	[4.75]×(2.60)	44～46	平坦	－	－	－	－	－	－	自然	土師器	6世紀後葉	本跡→SI27，SD 2
38	D 1 d0	N－11°－W	［方形］	2.78×[2.74]	4	平坦	一部	－	－	－	北壁	－	人為	土師器	後期	本跡→SI16
41	E 2 e3	N－55°－E	方形	6.92 × 6.36	48～83	平坦	－	4	－	－	南壁	1	人為	土師器，土製品，石器，金属製品	5世紀末～6世紀初め	
46	E 1 f9	N－3°－W	方形	3.44 × 3.27	34～53	平坦	－	－	－	－	－	－	人為	土師器，土製品，金属製品，鉄滓	後期	
47	E 2 h3	N－12°－W	方形	3.67 × 3.40	40～58	平坦	全周	4	1	－	北壁	－	人為 自然	土師器，土製品，石器	6世紀後葉	
49	D 2 j6	N－23°－W	［長方形］	(2.60)×(2.20)	30	平坦	－	－	－	－	－	－	人為	土師器，金属製品，鉄滓	後期	

（2）鍛冶工房跡

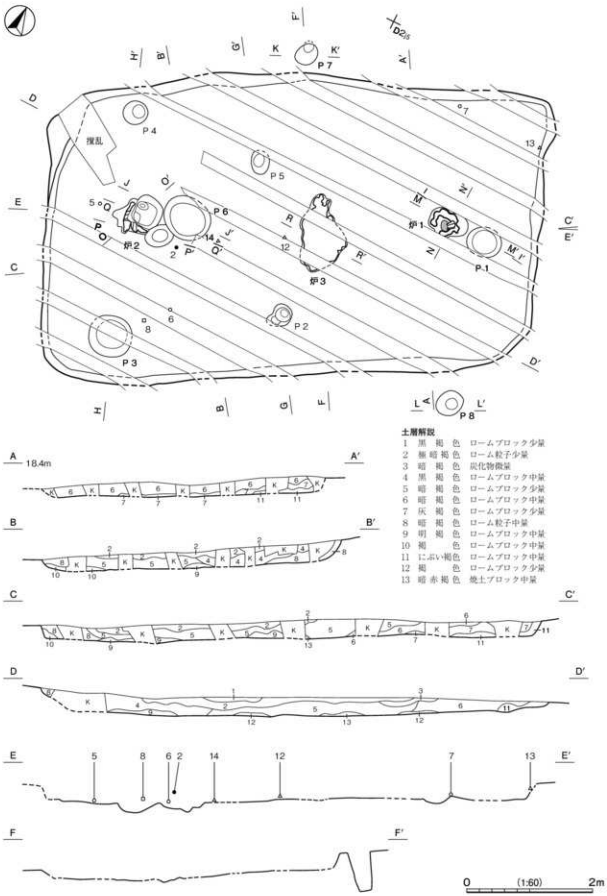
第1号鍛冶工房跡（第59～61図　PL 8）

調査年度　平成30年度

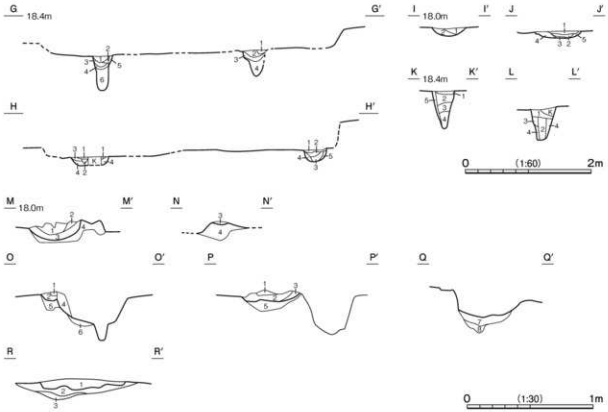
位置　調査区南部のD 2 j5区，標高18 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸7.88 m，短軸4.78 mの長方形で，長軸方向はN－60°－Eである。壁は高さ20～38cmで，外傾している。底面はほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

炉　3か所。炉1は東部に位置し，平面形は長径64cm，短径42cmの不整楕円形である。炉底は床面から深さ10cmほど掘りくぼめ，ロームブロックを含む第4層を埋土して構築されている。第3層は炉壁で，火熱を受けて赤変硬化している。第2・3層の上面で羽口を据えた痕跡が確認された。第1層は鍛冶炉内の覆土，第4層は掘方への埋土である。炉2は西部に位置し，平面形は長径80cm，短径62cmの不整楕円形である。床面から深さ34cmほど掘りくぼめて構築されている。8層に分層できる。第2層の上面で羽口が据えられた痕跡が確認された。第2～4層は炉壁の層，第5～8層は掘方への埋土である。炉3は中央部に位置し，長径125cm，短径73cmの不整楕円形の地床炉である。床面から深さ14cmほど掘りくぼめて構築されている。3層に分層できる。第2・3層は掘方への埋土である。



第59図 第1号鍛冶工房跡跡実測図(1)



P 1 土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子・鍛造剥片・粒状滓少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

P 2 土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量
5 暗 褐 色 ロームブロック微量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量

P 3 土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
2 灰 褐 色 ローム粒子少量
3 褐 色 ローム粒子少量
4 褐 色 ローム粒子微量

P 4 土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック微量
5 暗 褐 色 ロームブロック少量

P 5 土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量
3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐 色 ローム粒子微量

P 6 土層解説
1 暗 褐 色 炭化粒子中量、焼土ブロック微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量
3 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 褐 色 ロームブロック少量

P 7 土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量
4 褐 色 ローム粒子微量
5 褐 色 ロームブロック少量

P 8 土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量
4 黒 褐 色 ローム粒子中量

炉 1 土層解説
1 黒 褐 色 鉄滓多量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量
2 橙 色 焼土ブロック多量
3 赤 褐 色 焼土ブロック多量
4 暗 褐 色 ロームブロック中量

炉 2 土層解説
1 黒 褐 色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量
2 暗 赤 褐 色 焼土ブロック中量、粘土粒子少量
3 灰 褐 色 ローム粒子中量、粘土粒子少量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
5 赤 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック中量
6 暗 褐 色 ロームブロック・粘土粒子少量
7 黒 褐 色 ローム粒子少量
8 褐 色 ロームブロック中量

炉 3 土層解説
1 暗 赤 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子中量
2 極暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量
3 灰 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量

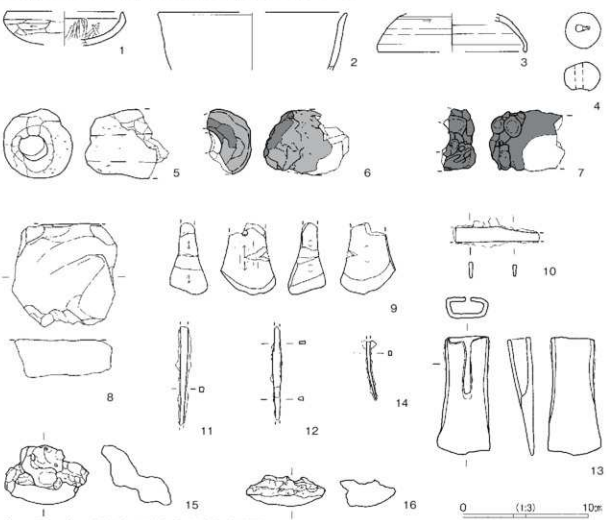
第 60 図 第 1 号鍛冶工房跡跡実測図(2)

覆土　13層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれており，不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

ピット　8か所。Ｐ１・Ｐ６はいずれも深さ12cmで，それぞれ炉１・炉２から出た鉄滓の廃棄のためのピットと思われる。Ｐ２・Ｐ５は深さ54cm・42cmで，規模や配置から柱穴である。Ｐ３・Ｐ４は深さ14cm・18cmで，性格は不明である。Ｐ７・Ｐ８は深さ60cm・54cmで，屋外の柱穴である。

遺物出土状況　土師器片160点（坏12，椀１，高坏４，甕類142，甑１），須恵器片５点（坏２，高坏１，蓋１，甕１），土製品94点（土玉１，羽口85，不明土製品８），石器１点（砥石），石製品１点（金床石），金属製品９点（刀子３，鉄斧１，釘２，不明鉄製品３）のほか，鉄滓が602点出土している。遺物は遺構全体から散在した状態で出土している。５は炉２の西側，12は炉３の西側，14はＰ６の東側の床面からそれぞれ出土している。６・８は南部，７・13は北コーナー部壁際の覆土下層から出土している。２はＰ６南側の覆土上層から出土している。１・４・９～11・15・16は，覆土中から出土している。

所見　本跡の調査では，遺構内から採取された土壌を内部施設別に洗浄・篩分し，採集された微細遺物について分類・集計を試みた。結果は表４集計表のとおりで，鉄滓のほか，粒状滓や鍛造剥片が出土した。本跡からは，羽口の痕跡が残る炉跡も２基確認されている。これらのことから，本跡では精錬鍛冶や鍛錬鍛冶が行われた可能性が高い。時期は，出土土器から７世紀代と考えられる。



第61図　第１号鍛冶工房跡出土遺物実測図

第１号鍛冶工房跡出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[9.2]	(2.7)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り　体部内面ナデ一部ヘラ磨き	覆土中	70%　PL.19
2	土師器	椀	[15.0]	(4.6)	－	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土上層	20%
3	須恵器	蓋	[11.8]	(3.1)	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
4	土玉	2.8	2.7	0.6	17.78	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
5	羽口	(6.6)	(5.5)	(2.3)	(99.17)	長石・石英	孔径2.3cm　先端部津化　一部凝元により青灰色化　輪側に緩やかに広がる　外面ナデ	床面	PL.24
6	羽口	(6.8)	(5.1)	(3.1)	(78.93)	長石・石英・赤色粒子	推定孔径2.3cm　先端部津化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　断面にスサの練り込み痕　外面ナデ	覆土下層	PL.24
7	羽口	(6.0)	(4.9)	(2.8)	(57.23)	長石・石英・赤色粒子	推定孔径2.4cm　先端部津化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	金床石	(8.3)	(8.4)	(3.0)	(310.60)	花崗岩	火熱を受け一部赤褐色を呈す	覆土下層	PL.25
9	砥石	(5.7)	4.4	3.1	(59.62)	凝灰岩	砥面４面　一面に５条の直線状の痕跡	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
10	刀子ヵ	(6.8)	(1.2)	(0.3)	(15.8)	鉄	茎部欠損　断面四角形	覆土中	PL.26
11	鏃	(7.9)	(0.6)	(0.2)	(9.22)	鉄	先端部欠損　断面四角形	覆土中	PL.26
12	鏃ヵ	(7.3)	(0.7)	(0.3)	(4.45)	鉄	先端部欠損　脚部断面長方形	床面	PL.26
13	鉄斧	9.5	4.2	2.2	111.22	鉄	刃部一部欠損　茎部は袋状	覆土下層	PL.26
14	釘	(4.6)	(0.3)	(0.3)	(1.67)	鉄	先端部欠損　断面四角形	床面	PL.26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	椀形滓	5.6	6.6	4.7	158.29	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁が薄く付着	覆土中	PL.27
16	椀形滓	(4.6)	0.3	0.3	(2.00)	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁が薄く付着	覆土中	PL.27

表４　第１号鍛冶工房跡微細遺物出土集計表

施設	区分	粒状滓[g]	鍛造剥片[g]	鉄滓[g]	計[g]	その他
炉１	大	2.05	0.53	68.50	71.08	
	中	2.08	1.37	14.84	18.29	
	小	0.86	2.41	15.75	19.02	
	計[g]	4.99	4.31	99.09	108.39	
炉２	大	0.40	0.02	119.63	120.05	羽口
	中	1.18	1.58	52.22	54.98	
	小	1.18	1.97	26.67	29.82	
	計[g]	2.76	3.57	198.52	204.85	
炉３	大	1.13	0.93	5.43	7.49	羽口
	中	0.33	0.43	3.35	4.11	
	小	0.30	0.53	2.17	3.00	
	計[g]	1.76	1.89	10.95	14.60	

施設	区分	粒状滓[g]	鍛造剥片[g]	鉄滓[g]	計[g]	その他
P1	大	2.03	8.56	186.26	196.85	不明鉄製品
	中	1.99	16.30	146.05	164.34	
	小	2.08	20.37	104.77	127.22	
	計[g]	6.10	45.23	437.08	488.41	
P6	大	1.16	2.26	182.31	185.73	羽口　粘土塊
	中	3.88	19.90	312.50	336.28	
	小	2.32	29.21	201.96	233.49	
	計[g]	7.36	51.37	696.77	755.5	

※区分　大：一辺５～３mm、中：一辺３～１mm、小：一辺１mm以下

3　奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡21棟，溝1条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第62図）

調査年度　平成29年度

位置　調査区北部のB 2h2区，標高20 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.02 m，短軸2.66 mの隅丸長方形で，主軸方向はN－20°－Wである。壁は高さ12～20cmで，ほぼ直立している。

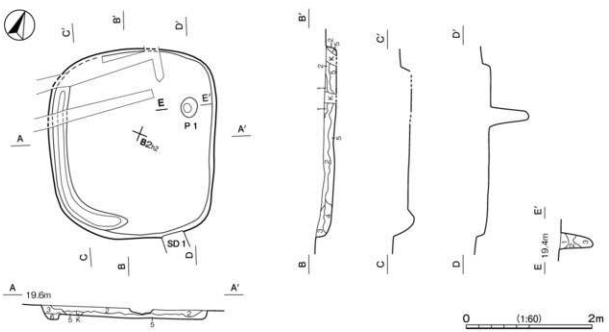
床　平坦である。踏み固められた部分は確認できなかった。壁溝が，南西コーナー部から西壁にかけて，壁下に巡っている。炉跡や竈跡は，確認できなかった。

ピット　P 1は深さ50cmで，配置から主柱穴と考えられる。第1・2層はローム ブロックが含まれ，また第3層も不自然な堆積状況から埋め戻されている。

覆土　6層に分層できる。第1層は自然堆積，第2～6層はローム ブロックが含まれており，また不規則な堆積状況から埋め戻されていると考えられる。

遺物出土状況　土師器片12点（甕類）のほか，鉄滓2点が出土している。遺物はいずれも細片で図示できるものはなかった。

所見　形状から竪穴建物跡としたが，性格は不明である。時期は，出土土器から8世紀代と考えられる。



土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　黒　褐　色　ローム ブロック・炭化粒子少量
3　黒　褐　色　ローム ブロック中量
4　暗　褐　色　炭化物微量
5　褐　　色　ローム ブロック中量
6　褐　　色　ローム ブロック少量

ピット土層解説

1　黒　褐　色　ローム ブロック少量
2　黒　　色　ローム ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量

第62図　第1号竪穴建物跡実測図

第４号竪穴建物跡（第63・64図　PL８）

調査年度　平成29年度

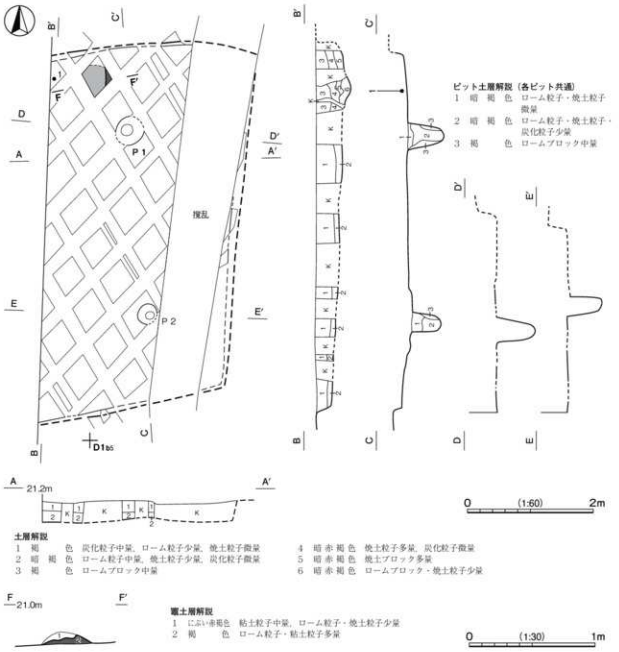
位置　調査区北部のＤ１a5区，標高21ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　西部が調査区域外のため，南北軸は5.76ｍで，東西軸は3.10ｍしか確認できなかった。主軸方向はＮ－５°－Ｅと推測される。壁は高さ20～28cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，踏み固められた部分は確認できなかった。

竈　北壁に付設されていたと推定されるが，大部分が攪乱により壊されており，袖部の一部とみられる粘土塊と焼土を確認したのみである。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ46cm・58cmで，配置から主柱穴である。第１・２層は柱抜き取り後の覆土，第３層は埋土である。

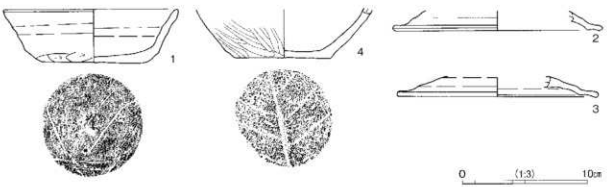


第63図　第４号竪穴建物跡実測図

覆土　7層に分層できる。大部分が撹乱を受けており，遺存状態はよくないが，堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片85点（坏13，甕類72），須恵器片9点（坏4，蓋5），土製品1点（羽口），のほか，鉄滓33点が出土している。1は北壁際の覆土下層から出土している。2～4は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第64図　第4号竪穴建物跡出土遺物実測図

第4号竪穴建物跡出土遺物観察表（第64図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.7	4.3	8.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ヘラ削り　底部ヘラ切り後，多方向のヘラ削り	覆土下層	100% PL20
2	須恵器	蓋	[16.2]	(1.6)	－	長石・石英，雲母・黒色粒子	灰褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	5%
3	須恵器	蓋	[15.8]	(1.6)	－	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	5%
4	土師器	甕	－	(4.0)	7.6	長石・石英・雲母	灰褐	普通	体部外面下端ヘラ磨き　底部木葉痕	覆土中	5%

第6号竪穴建物跡（第65・66図　PL 9）

調査年度　平成29年度

位置　調査区南部のD 2e7区，標高20 mほどの台地平坦部に位置している。

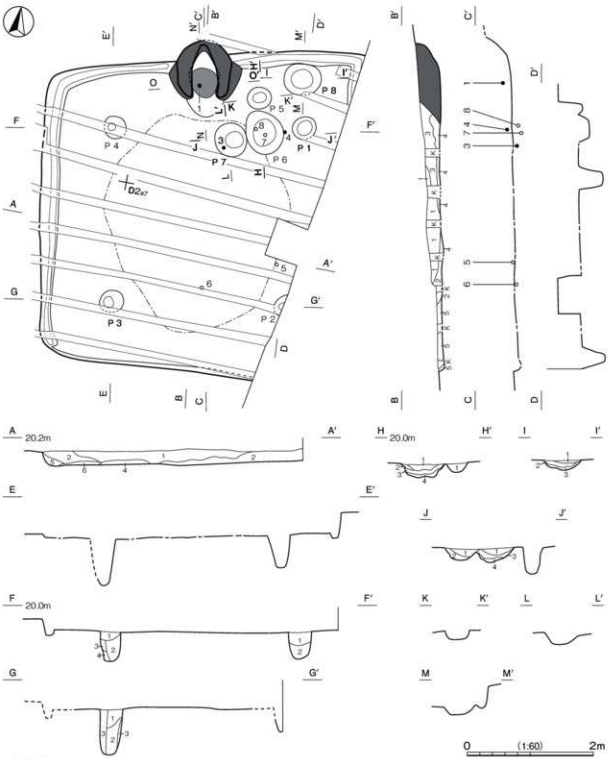
規模と形状　東部が調査区域外であり，長軸は5.20 mで，短軸は5.00 mしか確認できなかった。主軸方向はN－9°－Wである。壁は高さ5～31cmで，直立している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が，北東コーナー部から北壁及び西壁にかけて，壁下に巡っている。

竈　北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで114cmで，燃焼部幅は44cmである。煙道部は壁外に26cmほど掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部は床面から12cmほど掘りくぼめ，ロームブロックを含む第15～18層を埋土して構築されている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。袖部は埋土の上に粘土粒子などを含む第10～14層を積み上げて構築されている。第3・5層は天井部の崩落層と考えられる。

ピット　8か所。P 1～P 4は深さ36～70cmで，配置から主柱穴である。P 5～P 8は深さ14～20cmで，掘り込みが浅く性格は不明である。P 1～P 4の第1・2層は柱抜き取り後の覆土で，第3・4層は埋土である。P 5～P 8の全層はロームブロックを含んでおり，埋め戻されている。

覆土　6層に分層できる。撹乱を受けており，遺存状態はよくないが，堆積状況から自然堆積である。



土層解説

1 褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 灰 褐 色　ローム粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子微量
4 明 褐 色　ローム粒子多量
5 灰 褐 色　粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子少量
6 褐　色　ローム粒子多量

Ｐ１・Ｐ３・Ｐ４土層解説

1 褐　色　ローム粒子中量
2 褐　色　ローム粒子少量
3 明 褐 色　ローム粒子多量
4 褐　色　ローム粒子多量

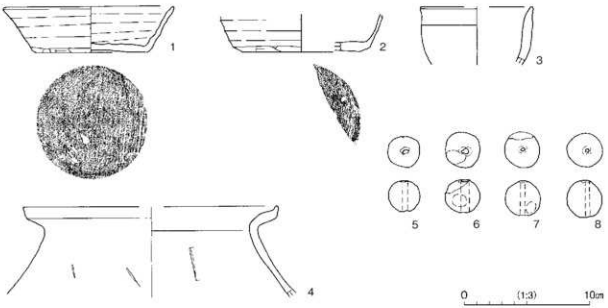
Ｐ５～Ｐ８土層解説

1 暗 赤 褐 色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
2 黒 褐 色　ロームブロック・炭化粒子少量
3 暗 褐 色　ロームブロック多量，粘土ブロック微量
4 暗 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック微量

第 65 図　第６号竪穴建物跡実測図

竈土層解説

1　にぶい褐色　粘土粒子中量，炭化物・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　にぶい褐色　粘土粒子多量，炭化物・焼土粒子微量
4　にぶい赤褐色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，炭化粒子・粘土粒子少量
7　暗 赤 褐 色　粘土粒子少量，炭化粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
9　暗 赤 褐 色　粘土粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
10　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
11　暗 赤 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
12　暗 赤 褐 色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
13　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
14　暗　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
15　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土粒子少量
16　にぶい赤褐色　粘土粒子多量，焼土粒子中量
17　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・粘土粒子中量，炭化粒子少量
18　褐　　色　粘土粒子多量



第66図　第６号竪穴建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片98点（坏４，椀２，甕類91，手捏土器１），須恵器片８点（坏５，甕類３），土製品６点（土玉）のほか，鉄滓16点が出土している。１は竈内の覆土下層から，４はＰ６付近の覆土下層から，７はＰ６の覆土下層から，８はＰ６の覆土中層から出土している。３はＰ７の覆土上層から，２は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。

第６号竪穴建物跡出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.4	3.7	8.9	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ切り後，多方向のヘラ削り	覆土下層	95% PL20
2	須恵器	坏	－	(3.0)	[9.4]	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部ヘラ切り後，多方向のヘラ削り	覆土中	30%
3	土師器	椀	[8.8]	(4.6)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	Ｐ７覆土上層	30%
4	土師器	甕	[20.4]	7.2	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ヘラナデ　体部外・内面にヘラあて痕	覆土下層	5%

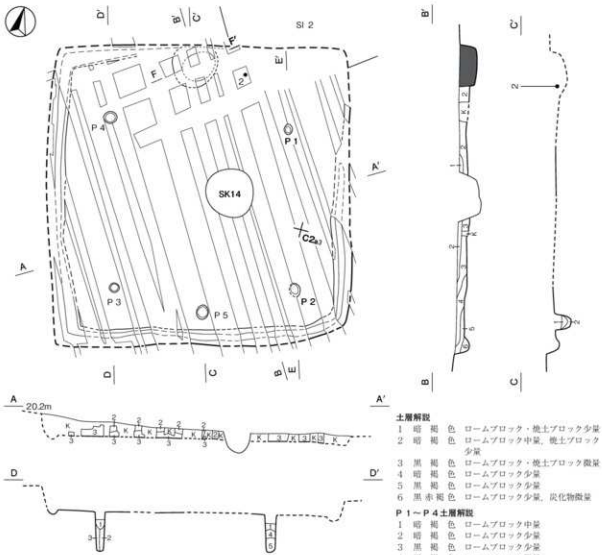
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	土玉	2.6	2.4	0.4	14.96	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	床面	
6	土玉	2.8	2.5	0.6	20.36	長石・雲母	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	床面	
7	土玉	2.8	2.8	0.4	(20.88)	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	P６覆土下層	
8	土玉	2.8	2.9	0.3	20.98	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	ナデ　一方向からの穿孔	P６覆土中層	

第７号竪穴建物跡（第67・68図　PL９）

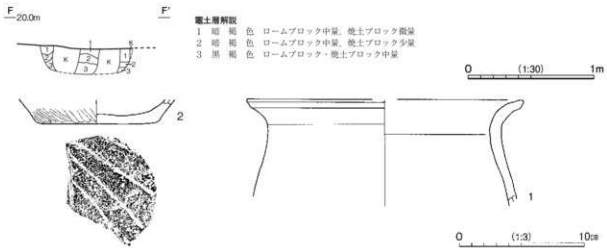
調査年度　平成29年度

位置　調査区北部のＢ２j2区，標高20ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第２号竪穴建物跡を掘り込み，第14号土坑に掘り込まれている。



第67図　第７号竪穴建物跡実測図



第68図 第7号竪穴建物跡・出土遺物実測図

規模と形状 撹乱を受けている部分があるが，長軸4.82 m，短軸4.80 mの方形で，主軸方向はN－14°－Wである。壁は高さ20～40cmで，ほぼ直立している。

床 平坦である。大部分が撹乱を受けており，踏み固められた部分は確認できなかった。壁溝が西壁から南壁にかけてと東壁の一部で確認できた。

覆土 6層に分層できる。各層ともロームブロックや焼土ブロック，炭化物などが含まれていることから，埋め戻されている。

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ36～62cmで，配置から主柱穴である。P 5は深さ28cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。各層ともロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。P 5の各層もロームブロックが含まれており，埋め戻されている。

竈 北壁の中央部に付設されているが，大部分が撹乱を受けており，構築材の一部が残存するのみである。火床部は床面から20cmほど掘りくぼめ，ロームブロックを含む第1～3層を埋土して構築している。

遺物出土状況 土師器片101点（坏4，甕類97），須恵器片3点（坏1，蓋2），土製品2点（土玉，羽口），金属製品2点（刀子）のほか，鉄滓2点が出土している。2は北東部の覆土下層から，1は覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀代と考えられる。

第7号竪穴建物跡出土遺物観察表（第68図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[22.0]	(8.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中	10%
2	土師器	甕	－	(2.0)	9.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面下端封位のヘラ磨き 底部木葉痕	覆土下層	10%

第11号竪穴建物跡（第69図 PL 9）

調査年度 平成29年度

位置 調査区北部のC 2a1区，標高20 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.25 m，短軸4.16 mの方形で，主軸方向はN－17°－Wである。壁は高さ20～40cmで，直立している。

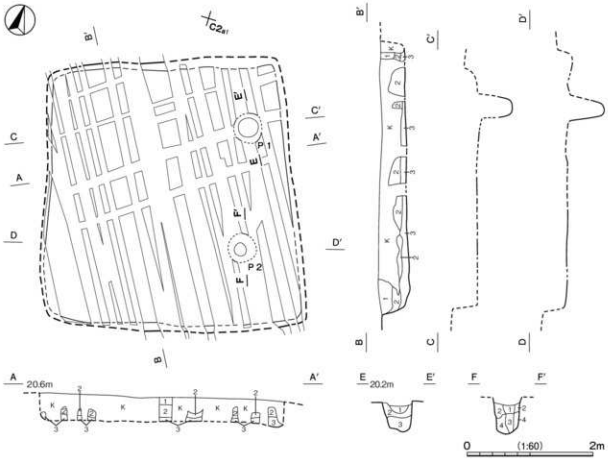
床　平坦であるが，大部分が攪乱を受けており，踏み固められた部分は確認できなかった。

ピット　2か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ55cm・58cmで，柱穴と考えられる。第１～４層は柱抜き取り後の埋土と考えられる。

覆土　３層に分層できる。遺存状態が悪く，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　土師器片126点（坏10，椀５，甕類111），須恵器片１点（蓋），土製品１点（土玉），金属製品１点（不明鉄製品）のほか，鉄滓12点が出土している。１は覆土中から出土している。

所見　竈や炉などは確認できなかったが，形状から竪穴建物跡とした。時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第69図　第11号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[13.8]	(1.1)	－	長石・石英・黒母	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%

第12号竪穴建物跡（第70・71図）

調査年度　平成29年度

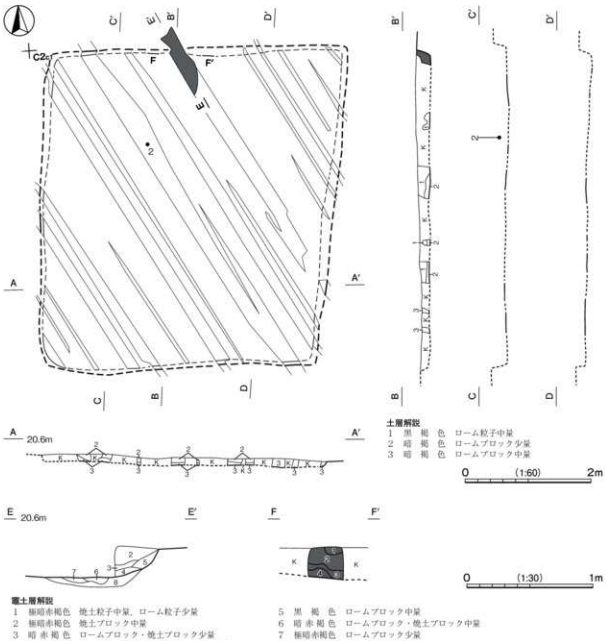
位置　調査区南部のＣ2c1区，標高20ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　大部分が撹乱を受けており，遺存状態はよくないが，長軸5.06ｍ，短軸4.80ｍの方形で，主軸方向はＮ－6°－Ｅと推定される。壁は高さ14～22cmで，外傾している。

床　平坦であるが，踏み固められた部分は確認できなかった。

竈　北壁に付設されていたとみられるが，撹乱により，構築材の一部が遺存するのみである。

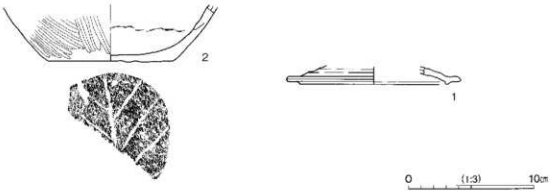
覆土　３層に分層できる。遺存状態が悪く，堆積状況は不明である。



第70図　第12号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片57点（坏9，甕類48），須恵器片4点（坏3，蓋1），土製品3点（羽口），金属製品1点（釘）のほか，鉄滓12点が出土している。2は北西部の覆土中層から，1は北東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第71図　第12号竪穴建物跡出土遺物実測図

第12号竪穴建物跡出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[14.0]	(1.4)	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	10%
2	土師器	甕	－	(4.5)	9.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面斜位・縦位のヘラ磨き　体部内面に輪積み痕　底部木葉痕	覆土中層	20%

第16号竪穴建物跡（第72・73図　PL10）

調査年度　平成29年度

位置　調査区南部のD2e1区，標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第22・38号竪穴建物跡を掘り込み，第21号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.14m，短軸4.70mの方形で，主軸方向はN－6°－Wである。壁は高さ6～24cmで，外傾している。

床　平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝が，北壁・南壁の中央から西側の壁下に巡っている。

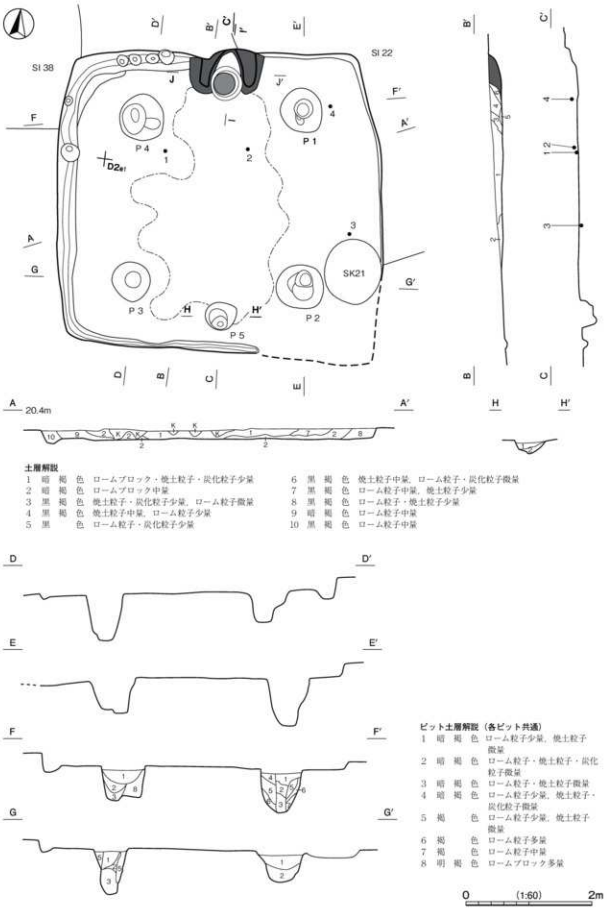
竈　北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで80cmで，燃焼部幅は54cmである。煙道部は壁外に6cmほど掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部は床面から5cmほど掘りくぼめ，ロームブロックを含む第11層を埋土して構築している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。袖部は地山の上に粘土粒子などを含む第7～10層を積み上げて構築されている。

ピット　5か所。P1～P4は深さ48～76cmで，規模や配置から主柱穴である。P5は深さ24cmで，配置から出入口に伴うピットである。第1～3層は柱抜き取り後の覆土，第4～8層は埋土である。

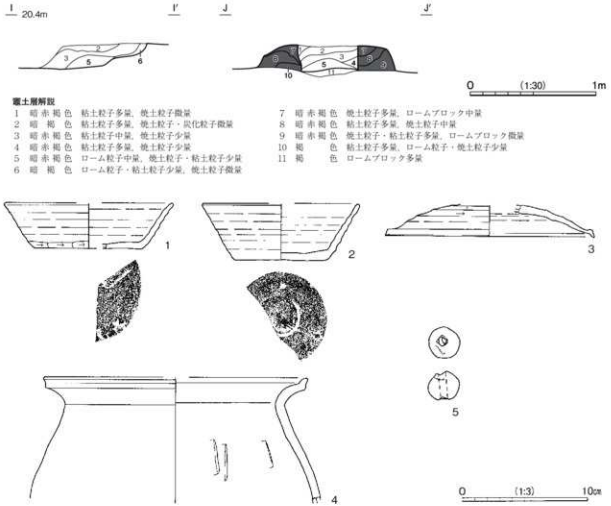
覆土　10層に分層できる。北側からの流入が確認できる自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片117点（坏2，椀1，甕類114），須恵器片26点（坏23，蓋1，甕類2），土製品4点（土玉2，羽口1，不明土製品1）が出土している。3は東部の床面から出土している。1・2・4はいずれも北部の床面から覆土下層にかけて出土している。

所見　本跡の時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第 72 図　第 16 号竪穴建物跡実測図



第 73 図 第 16 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 16 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 73 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[13.4]	3.6	[8.6]	長石・石英・芯母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	床面	30%
2	須恵器	坏	[12.4]	4.5	7.4	長石・石英	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	覆土下層	30%
3	須恵器	蓋	[16.6]	(2.5)	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	30%
4	土師器	甕	[21.0]	(10.0)	－	長石・石英・芯母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 体部内面ヘラナデ	覆土下層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	土玉	2.5	2.3	0.7	11.88	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第 20 号竪穴建物跡（第 74・75 図 PL10）

調査年度 平成 29 年度

位置 調査区南部のＥ１c5 区，標高 18 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 4.12 m，短軸 3.84 m の方形で，主軸方向はＮ－33°－Ｗである。壁は高さ 18 ～ 30cm で，直立している。

床 一部が撹乱により壊されているが，平坦である。踏み固められた部分は確認できなかった。

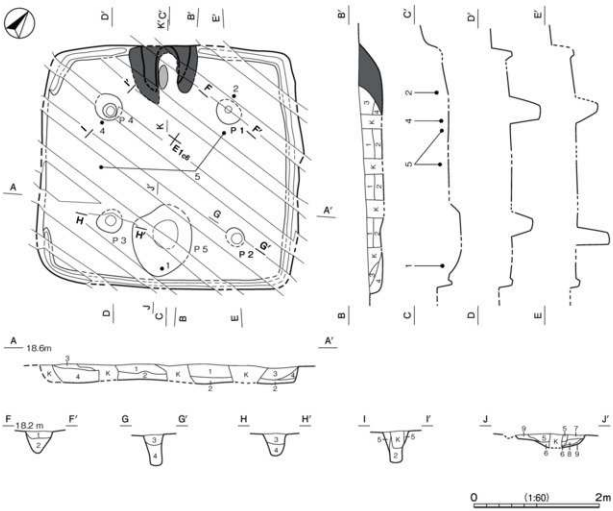
竈　北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで96cmで，燃焼部幅は36cmである。煙道部は壁外にほとんど掘り込まれておらず，火床部から外傾している。火床部は床面をそのまま使用している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。撹乱により土層の一部は観察できなかった。

ピット　5か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ34～50cmで，規模や配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ14cmで，配置から出入口に伴うピットと考えられる。Ｐ１～Ｐ５の各層とも柱抜き取り後の覆土である。

覆土　4層に分層できる。レンズ状に堆積をしていることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片124点（坏５，椀２，甕類116，甑１），須恵器片11点（坏８，蓋１，甕類２），土製品２点（土玉），金属製品３点（不明鉄製品）のほか，鉄滓３点が出土している。遺物は，全体から散在した状態で出土している。１・２・４・５はいずれも，覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。



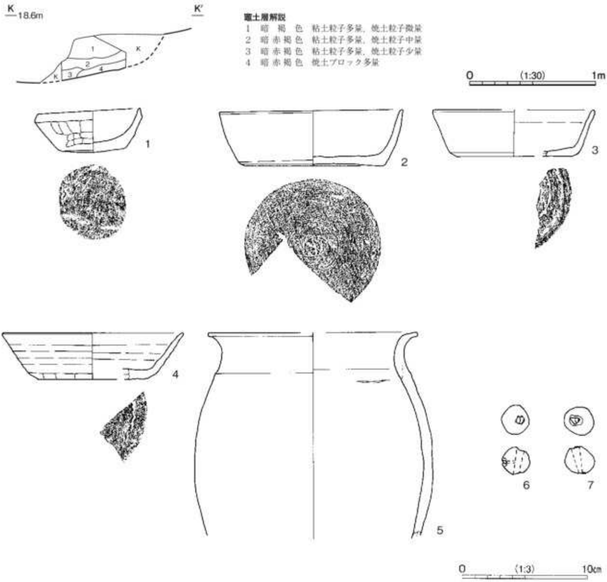
土層解説

1　にぶい黄褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量
7　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量

第74図　第20号竪穴建物跡実測図



第 75 図 第 20 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 20 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 75 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坏	8.2	3.5	5.4	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 体部内面ナデ	覆土中層	100% PL20
2	須恵器	坏	14.5	4.5	10.9	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	底部ヘラ切り後，回転ヘラ削り	覆土中層	70% PL20
3	須恵器	坏	[12.8]	3.7	[9.2]	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰	普通	底部ヘラ切り後，回転ヘラ削り	覆土中	30%
4	須恵器	坏	[14.4]	3.2	[8.6]	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	覆土中層	20%
5	土師器	甕	[16.6]	(16.4)	−	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ナデ	覆土中層	30%

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
6	土玉	2.3	2.1	0.6	8.96	長石・石英	赤褐	ナデ 二方向からの穿孔	覆土中	
7	土玉	2.4	2.2	0.7	9.38	長石・石英	橙	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	

第21号竪穴建物跡（第76図）

調査年度　平成29年度

位置　調査区南部のＤ１i8区，標高19ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第30号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　一部が撹乱を受けており，遺存状態はよくない。長軸2.74ｍ，短軸2.46ｍの長方形で，主軸方向はＮ－３°－Ｅである。壁は高さ８～14cmで，外傾している。

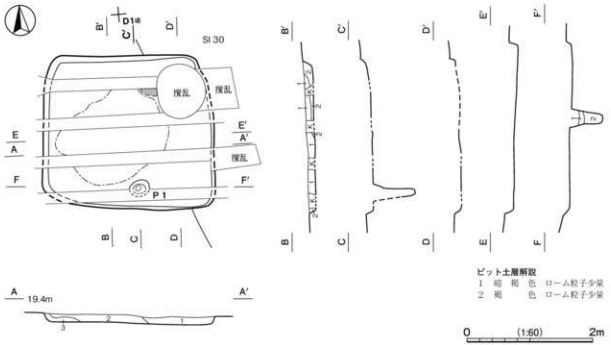
床　平坦で，中央部から南西部にかけて踏み固められている。北部から焼土の散らばりがみられた。竈や炉の痕跡は，確認できなかった。

ピット　Ｐ１は深さ66cmで，配置から出入口に伴うピットと考えられる。第１・２層はいずれも柱抜き取り後の覆土である。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積をしていることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片９点（甕類），須恵器片２点（坏，蓋）が出土している。遺物はいずれも細片で，図示できなかった。

所見　時期は，出土土器から８世紀代と考えられる。



第76図　第21号竪穴建物跡実測図

第26号竪穴建物跡（第77・78図　PL10）

調査年度　平成29年度

位置　調査区南部のＥ１a6区，標高19ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.14ｍ，短軸2.94ｍの方形で，主軸方向はＮ－50°－Ｗである。壁は高さ18～28cmで，外傾している。

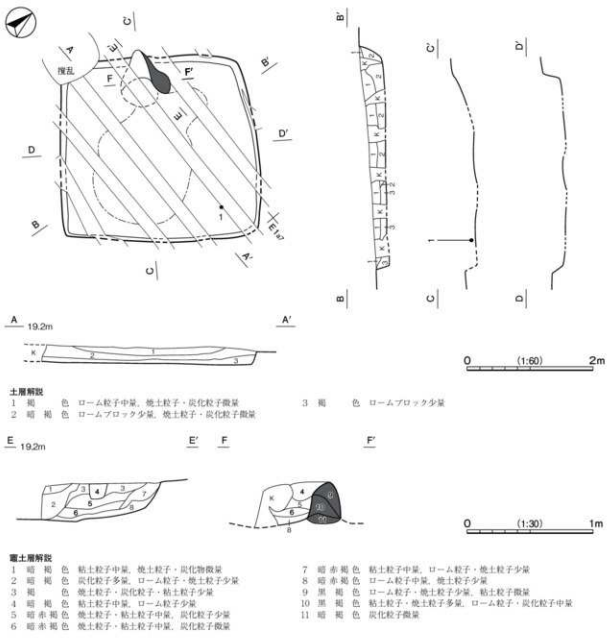
床　ほぼ平坦で，竈前面から南西部にかけて踏み固められている。

竈　北壁の中央部に付設されている。西部が撹乱を受けており，土層の一部は観察できなかった。焚口部から煙道部まで90cmで，燃焼部幅は現存する部分で20cmである。煙道部は壁外に12cmほど掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部は床面をそのまま使用している。火床面は赤変していない。袖部は地山の上に粘土粒子などを含む第9～11層を積み上げて構築されている。第1・2層は天井部の崩落層と考えられる。

覆土　3層に分層できる。レンズ状に堆積をしていることから，自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片37点（甕類36，甑1），須恵器片3点（坏），土製品1点（土玉），金属製品2点（不明鉄製品）のほか，鉄滓2点が出土している。1は東コーナー部の覆土下層から，2は西コーナー部の覆土中から出土している。

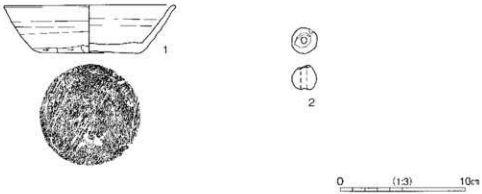
所見　時期は，出土土器から8世紀後葉と考えられる。



土層解説
1　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　色　ロームブロック少量

竈土層解説
1　暗　褐　色　粘土粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
2　暗　褐　色　炭化粒子多量，ローム粒子・焼土粒子少量
3　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
4　暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子少量
5　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子少量
6　暗赤褐色　焼土粒子・粘土粒子中量，炭化粒子微量
7　暗赤褐色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
8　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
9　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，粘土粒子微量
10　黒　褐　色　粘土粒子・焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子中量
11　暗　褐　色　炭化粒子微量

第77図　第26号竪穴建物跡実測図



第 78 図　第 26 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 26 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 78 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.6	3.9	8.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	覆土下層	70% PL20

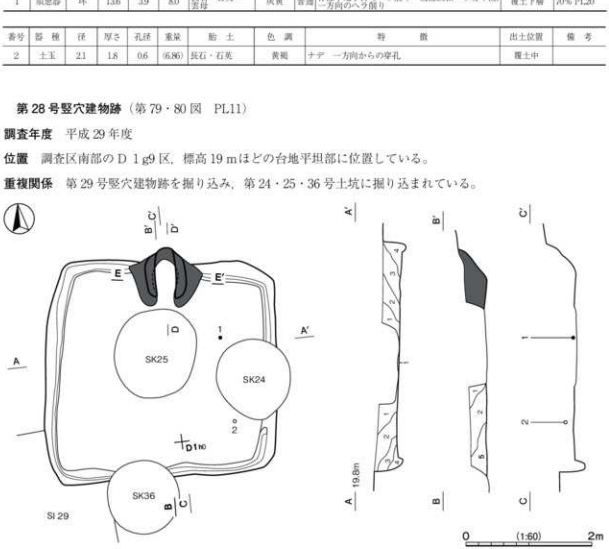
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	土玉	2.1	1.8	0.6	(6.86)	長石・石英	黄褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	

第 28 号竪穴建物跡（第 79・80 図　PL11）

調査年度　平成 29 年度

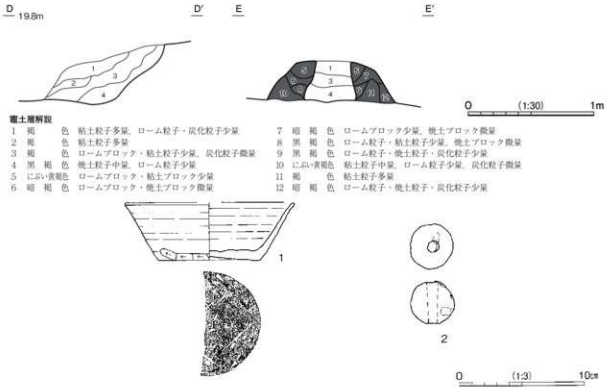
位置　調査区南部のＤ１g9 区，標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 29 号竪穴建物跡を掘り込み，第 24・25・36 号土坑に掘り込まれている。



土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
4　褐　色　ローム粒子中量
5　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 79 図　第 28 号竪穴建物跡実測図



第 80 図　第 28 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

規模と形状　長軸 3.64 m，短軸 3.50 m の方形で，主軸方向は N － 17° － E である。壁は高さ 24 ～ 36cmで，直立している。

床　平坦であるが，踏み固められた部分は確認できなかった。壁溝が東壁の一部を除いて壁下を巡っている。

竈　北壁の中央部に付設され，焚口部から煙道部まで 102cm，燃焼部幅は 40cmである。煙道部は壁外に 24cm 掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部は床面をそのまま使用し，火床面は赤変していない。袖部は地山の上に粘土ブロックを含む第 5 ～ 12 層を積み上げて構築されている。第 1 層は天井部の崩落層である。

覆土　5 層に分層できる。周囲から流れ込んだ状況を示していることから，自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 11 点（坏 1，甕類 10），須恵器片 1 点（坏），土製品 1 点（土玉）が出土している。2 は南東部の床面から，1 は北東部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。

第 28 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 80 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	須恵器	坏	[13.4]	4.6	[8.2]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部二方向のヘラ削り	覆土下層	50%

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
2	土玉	3.5	3.4	0.9	37.50	長石・石英	明赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	床面	

第 29 号竪穴建物跡（第 81・82 図　PL11）

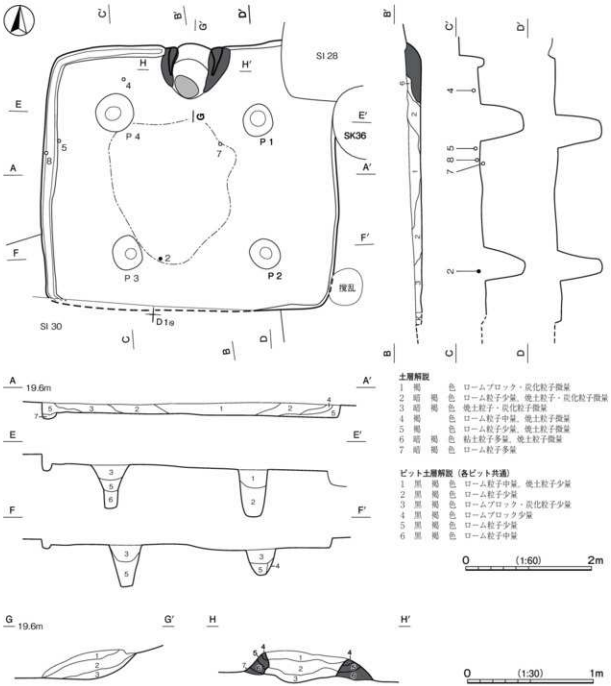
調査年度　平成 29 年度

位置　調査区南部のＤ 1 h9 区，標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第30号竪穴建物跡を掘り込み，第28号竪穴建物及び第36号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.69 m，短軸4.30 mの方形で，主軸方向はN－2°－Wである。壁は高さ9～29cmで，直立している。

床　平坦で，中央部から西部にかけて踏み固められている。壁溝が，北壁の竈西側から西壁の壁下に巡っている。



第81図　第29号竪穴建物跡実測図

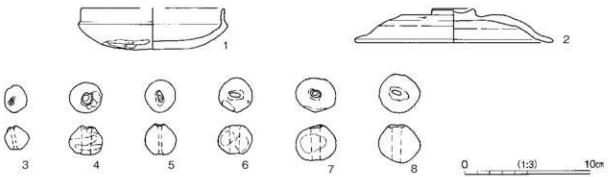
竈　北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで88cm で，燃焼部幅は66cm である。煙道部は壁外にほとんど掘り込まれておらず，火床部から外傾して立ち上がっている。火床部は床面をそのまま使用している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。

ピット　4か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ64～70cm で，規模や配置から主柱穴である。Ｐ１～Ｐ４の各層は柱抜き取り後の覆土である。

覆土　７層に分層できる。レンズ状に堆積をしていることから，自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片259点（坏13，甕類246），須恵器片９点（坏５，蓋２，甕類２），土製品６点（土玉），金属製品１点（不明鉄製品）が出土している。２は南部の，７は中央部のそれぞれ床面から出土している。４・５・８は北西部の覆土下層から散在した状態で出土している。１は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第82図　第29号竪穴建物跡出土遺物実測図

第29号竪穴建物跡出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.4]	3.3	－	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中	60%
2	須恵器	蓋	[15.6]	2.8	－	長石・石英	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	土玉	2.1	2.0	0.6	6.42	長石・石英	明褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL23
4	土玉	2.6	2.4	0.9	12.39	長石・石英	明赤褐	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	覆土下層	PL23
5	土玉	2.5	2.4	0.9	14.14	長石・石英	明褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL23
6	土玉	2.7	2.3	0.8	13.87	長石・石英	橙	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	覆土中	PL23
7	土玉	3.2	2.8	0.6	23.38	長石・石英・黒雲	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	床面	PL23
8	土玉	3.3	3.0	0.8	25.77	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL23

第32号竪穴建物跡（第83図　PL11）

調査年度　平成29年度

位置　調査区部のＤ２h6区，標高18ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.76ｍ，短軸3.70ｍの方形で，主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁は高さ９～14cm で，外傾している。

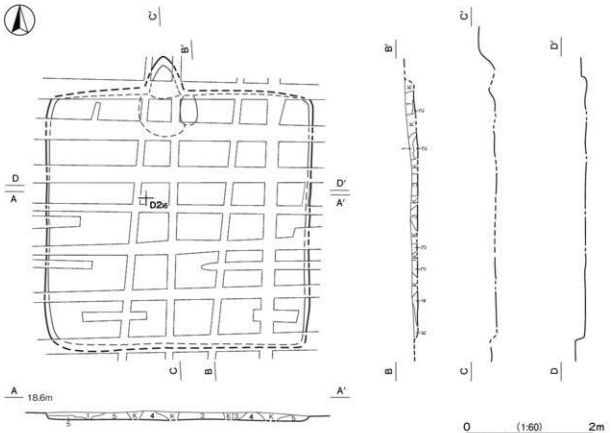
床　平坦で，踏み固められた部分は確認できなかった。

竈　北壁の中央部からやや西側に付設されているが，後世の攪乱を受けており，袖部の一部が残存するのみである。土層など詳細は観察できなかった。焚口部から煙道部まで110cmで，燃焼部幅は40cmと推定される。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ，火床部から外傾している。

覆土　5層に分層できる。ほとんどの層にロームブロックが含まれており，不規則な堆積状況から埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片26点（坏3，甕類23），須恵器片3点（蓋2，長頸瓶1）のほか，鉄滓2点が出土している。遺物はいずれも細片で，図示できなかった。

所見　時期は，出土土器から8世紀代と考えられる。



第83図　第32号竪穴建物跡実測図

第33号竪穴建物跡（第84・85図　PL12）

調査年度　平成29年度

位置　調査区南部のＥ１g5区，標高18ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第34号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

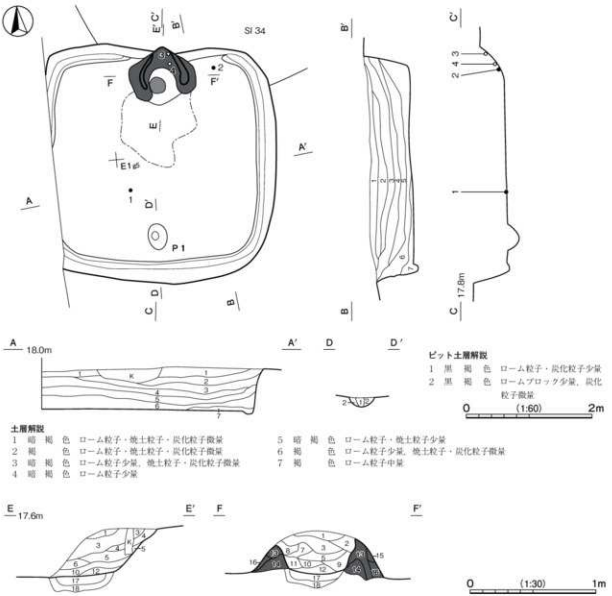
規模と形状　長軸3.86ｍ，短軸3.60ｍの方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｅである。壁は高さ52～68cmで，外傾している。

床　平坦で，竈の前面が踏み固められている。壁溝が，ほぼ全周している。

竈　北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで90cm で，燃焼部幅は 40cmである。煙道部は壁外に 10cmほど掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部は床面から 12cmほど掘りくぼめ，第 17・18 層を埋土して構築されている。火床面は，火熱を受けて赤変硬化している。袖部は地山の上に粘土粒子などを含む第 13 ～ 16 層を積み上げて構築されている。

ピット　P 1 は深さ 18cmで，配置から出入口施設に伴うピットである。第 1 層は柱抜き取り後の覆土，第 2 層は埋土である。

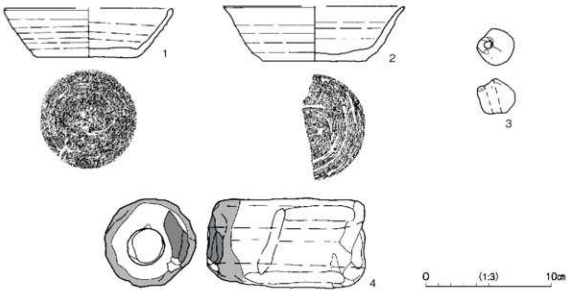
覆土　7 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積である。



第 84 図　第 33 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片 61 点（甕類），須恵器片 30 点（坏 23，甕類 4），土製品 2 点（土玉，羽口）のほか，鉄滓が出土している。1 は中央部，2 は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から 8 世紀後葉と考えられる。



第 85 図　第 33 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 33 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 85 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[13.3]	3.9	7.7	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	床面	70% PL20
2	須恵器	坏	[14.4]	4.4	8.2	長石・石英	灰	普通	底部回転ヘラ削り	床面	50% PL20

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	土玉	3.0	2.8	0.6	19.6	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	竈内 覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
4	羽口	12.5	7.1	7.3	596.7	長石・石英・赤色粒子	孔径 3.0 ～ 3.7cm　上面発泡　先端部に炉壁が厚く付着	竈内 覆土中層	

第 34 号竪穴建物跡（第 86・87 図　PL12）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区南部の E 1 f5 区，標高 18 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 36 号竪穴建物跡を掘り込み，第 33 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.00 m，短軸 3.95 m の方形で，主軸方向は N － 20° － W である。壁は高さ 32 ～ 54cm で，直立している。

床　平坦で，中央部から西部にかけて踏み固められている。壁溝が，第 33 号竪穴建物に掘り込まれている部分を除いて，壁下に巡っている。

竈　北壁のほぼ中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 120cm，燃焼部の幅は 40cm である。煙道部は壁外に 36cm ほど掘り込まれ，火床部からほぼ直立している。火床部は床面から 18cm ほど掘りくぼめ，第 13 ～ 16 層を埋土して構築されている。火床面は第 14 層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。袖部は地山の上に粘土粒子やロームブロックなどを含む第 9 ～ 12 層を積み上げて構築されている。第 4・5 層は，粘土ブ

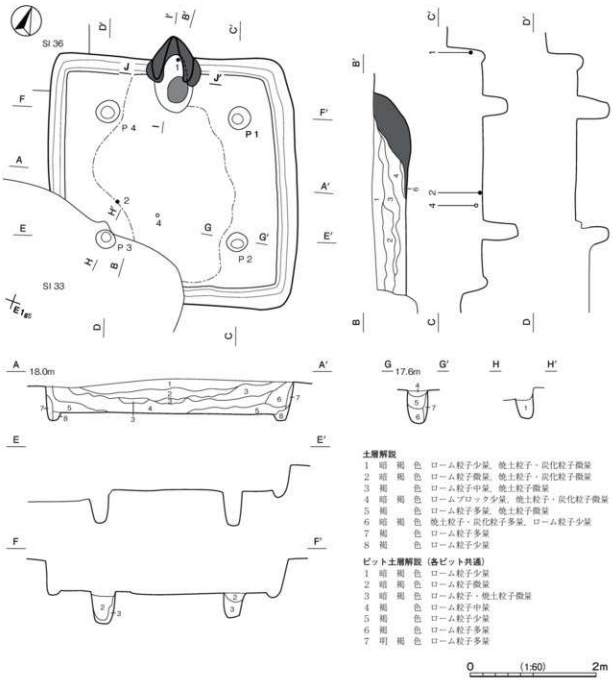
ロックや焼土粒子などを含む天井部の崩落層であると考えられる。

ピット　4か所。P１～P４は深さ40～54cmで，規模や配置から主柱穴である。出入り口施設に伴うピットは確認できなかった。P１～P４の第１～６層は柱材抜き取り後の覆土である。第７層は掘方への埋土である。

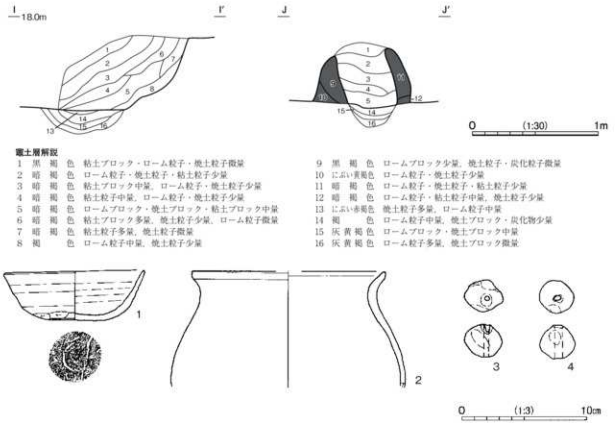
覆土　８層に分層できる。第３～５層はロームブロックや焼土粒子，炭化粒子などが含まれており，また不自然な堆積状況から，埋め戻されている。第１・２層は自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片64点（坏５，甕類59），須恵器片８点（坏６，甕２），土製品２点（土玉）のほか，鉄滓３点が出土している。１は竈内の覆土中層から，２は南西部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第86図　第34号竪穴建物跡実測図



竈土層解説

1 黒　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
3 暗　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4 暗　褐　色　粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
5 暗　褐　色　ローム粒子・焼土ブロック・粘土ブロック中量
6 暗　褐　色　粘土ブロック多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
7 暗　褐　色　粘土粒子多量，焼土粒子微量
8 褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
9 黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10 にぶい黄褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
11 暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
12 暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子中量，焼土粒子少量
13 にぶい赤褐色　焼土粒子多量，ローム粒子中量
14 褐　　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物少量
15 灰 黄 褐 色　ローム粒子中量
16 灰 黄 褐 色　ローム粒子多量，焼土ブロック微量

第 87 図　第 34 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 34 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 87 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	11.2	4.0	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土中層	90% PL20
2	土師器	甕	[15.4]	(9.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ナデ　体部外・内面ナデ	覆土下層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	土玉	3.0	2.5	0.5	17.27	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	覆土中	
4	土玉	2.8	2.7	0.6	18.21	長石・石英	明赤褐	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	覆土下層	

第 35 号竪穴建物跡（第 88 ～ 90 図　PL12）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区南部のＥ１e5 区，標高 18 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 36 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北部が調査区域外となっているが，長軸 4.30 m，短軸 4.00 mの方形で，主軸方向はＮ－ 16 °－Ｗである。壁は高さ 18 ～ 29㎝で，直立している。

床　平坦で，竈前面から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が，竈西側の一部を除いて，壁下を巡っている。

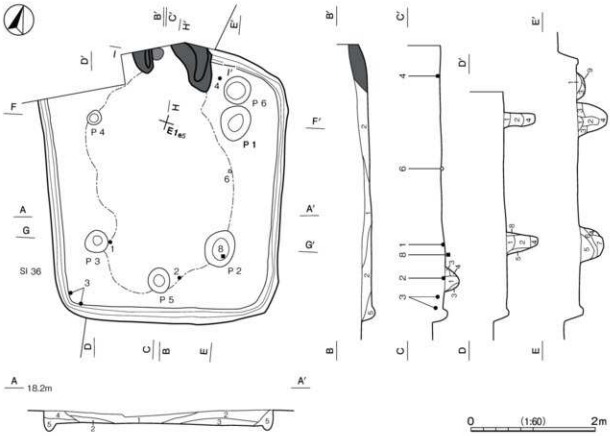
竈　北壁のほぼ中央部に付設されているが，北側の一部が調査区域外となっているため，煙道部については確認できなかった。燃焼部幅は 40cmである。火床部は床面をそのまま使用している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。袖部は地山の上に粘土ブロックや焼土ブロックなどを含む第 13 ～ 15 層を積み上げて構築されている。

ピット　6か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 24 ～ 50cmで，規模や配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 24cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。Ｐ６は補助柱穴と考えられる。

覆土　5層に分層できる。第１・２層は，レンズ状に堆積をしていることから自然堆積の層である。第３～５層は，ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 75 点（坏 17，高台付坏１点，甕類 56，小形甕 1），須恵器片４点（坏１，蓋２，甕１），土製品２点（土玉），木製品１点（巻斗ヵ）が出土している。遺物は，遺構全体から散在した状態で出土している。１・２はいずれも南部の床面から出土している。４は竈東側の，８はＰ２上のそれぞれ床面から出土している。３は南西コーナー部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀中葉と考えられる。



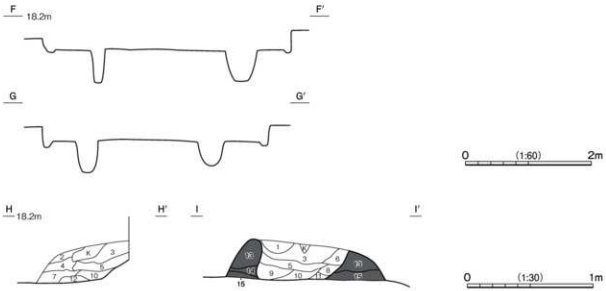
土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗赤褐色　ロームブロック少量
5　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量

ピット土層解説（各ピット共通）

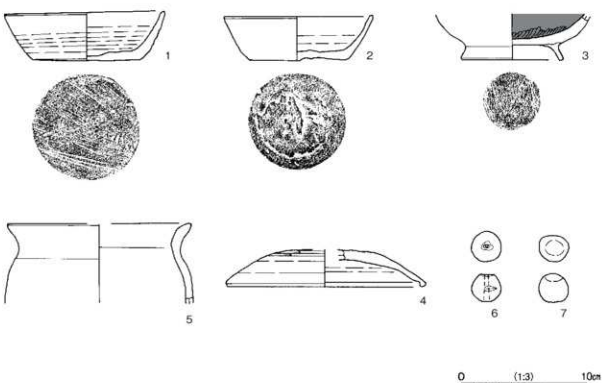
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量
7　褐　　色　ローム粒子多量
8　褐　　色　ローム粒子中量
9　暗　褐　色　ローム粒子多量

第 88 図　第 35 号竪穴建物跡実測図

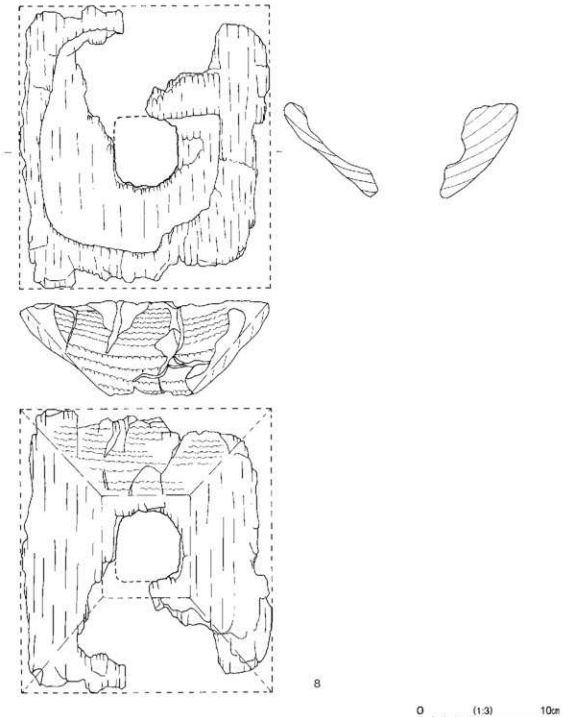


竈土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
2 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
3 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量
4 暗 褐 色 焼土粒子少量，粘土ブロック微量
5 暗 褐 色 焼土ブロック中量，粘土粒子少量
6 暗 褐 色 ローム粒子・粘土粒子少量
7 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック少量
8 暗 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
9 暗 褐 色 焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
10 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11 暗 褐 色 粘土ブロック中量，焼土粒子少量
12 黒 褐 色 炭化粒子中量，ローム粒子・粘土粒子少量
13 褐 灰 色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量
14 褐 灰 色 焼土ブロック・ローム粒子少量
15 灰黄褐色 ローム粒子中量，粘土ブロック少量



第89図 第35号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 90 図　第 35 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 35 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 89・90 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	12.6	3.9	8.6	長石・石英・雲母	灰	普通	底部ヘラ切り後，一方向のヘラ削り	床面	90% PL20
2	須恵器	坏	11.6	3.5	7.8	長石・石英・雲母	橙	普通	底部ヘラ切り後，回転ヘラ削り	床面	90% PL20
3	土師器	高台付坏	－	(3.7)	[8.1]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部内面ヘラ磨き　底部回転糸切り後，高台貼付け	覆土中層	30%
4	須恵器	甕	[15.6]	(2.9)	－	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	20%
5	土師器	小形甕	[14.6]	(6.3)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土中	20%

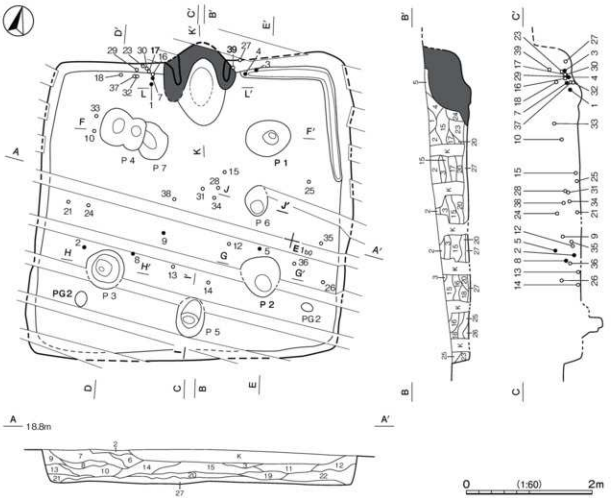
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
6	土玉	2.4	2.2	0.5	12.12	長石	灰黄褐	ナデ　一方向からの穿孔　ヘラ当て痕	床面	
7	土玉	2.4	2.3	－	10.98	長石・石英	にぶい橙	ナデ　穿孔なし　指頭痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	高さ	材質	特徴	出土位置	備考
8	巻斗ｶ	22.5	19.9	7.6	ケヤキ	断面逆台形　中央部に径5cmの丸柄穴　炭化及び破損により詳細不明	床面	PL27

第40号竪穴建物跡（第91～94図　PL13）

調査年度　平成29年度

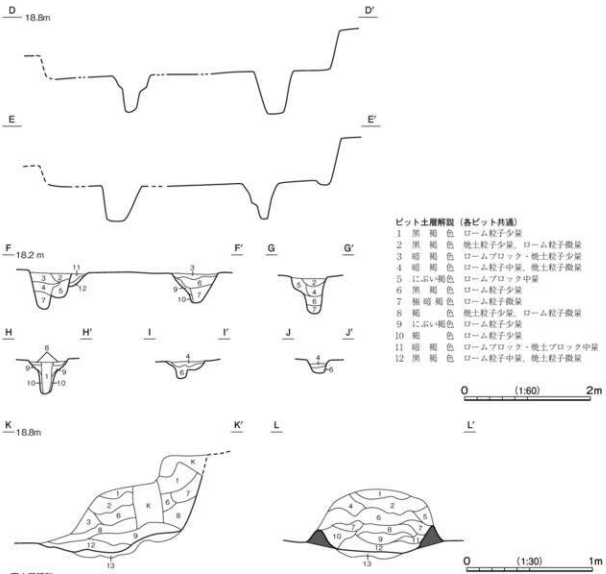
位置　調査区南部のＥ１a9区，標高19ｍほどの台地平坦部に位置している。



土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
4　灰　褐　色　ロームブロック中量，粘土粒子少量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
8　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
9　褐　　色　ローム粒子微量
10　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック少量
11　暗　褐　色　ロームブロック中量
12　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
13　黒　褐　色　ローム粒子微量
14　灰　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック少量
15　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
16　褐　　色　ローム粒子少量
17　黒　褐　色　ロームブロック少量
18　暗　褐　色　ローム粒子中量
19　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
20　極暗褐色　ロームブロック微量
21　暗　褐　色　ロームブロック微量
22　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
23　灰　褐　色　粘土ブロック中量，ローム粒子少量
24　暗　褐　色　ロームブロック少量
25　黒　褐　色　ローム粒子中量
26　褐　　色　ロームブロック中量
27　にぶい橙色　ロームブロック多量

第91図　第40号竪穴建物跡実測図(1)



ピット土層解説（各ピット共通）

1 黒 褐 色 ローム粒子少量
2 黒 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
5 にぶい褐色 ロームブロック中量
6 黒 褐 色 ローム粒子少量
7 極暗褐色 ローム粒子微量
8 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子微量
9 にぶい褐色 ローム粒子少量
10 褐 色 ローム粒子少量
11 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック中量
12 黒 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子微量

竈土層解説

1 灰 褐 色 ローム粒子中量
2 灰 褐 色 焼土粒子・粘土粒子中量，ローム粒子少量
3 灰 褐 色 焼土粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
5 褐 灰 色 粘土ブロック・焼土粒子中量
6 灰 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子少量
7 暗 褐 色 粘土ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子少量
8 黒 褐 色 焼土ブロック中量，ロームブロック少量
9 暗 褐 色 ロームブロック・粘土ブロック中量
10 灰 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
11 暗 褐 色 粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
12 褐 色 砂粒多量，ローム粒子・焼土粒子微量
13 褐 色 ローム粒子中量

第 92 図　第 40 号竪穴建物跡実測図(2)

重複関係　第 2 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.96 m，短軸 4.80 m の方形で，主軸方向は N － 11 ° － W である。壁は高さ 36 ～ 62cm で，ほぼ直立している。

床　平坦であるが，踏み固められた部分は確認できなかった。壁溝が北東コーナー部の壁下に巡っている。

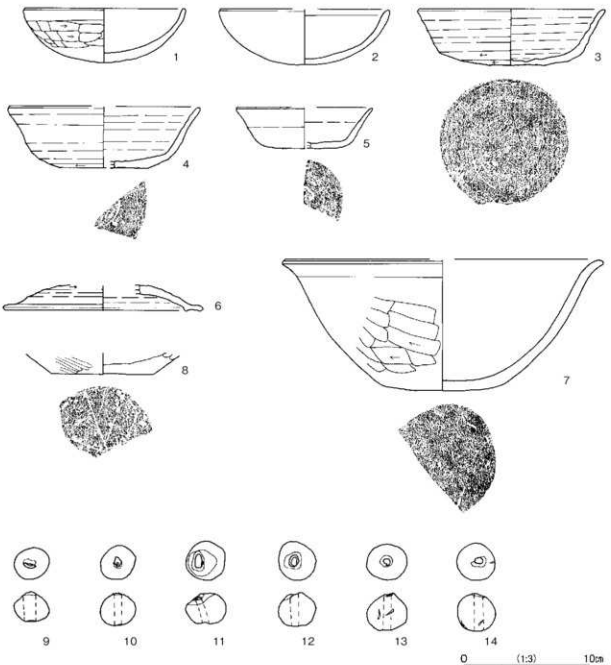
竈　北壁のほぼ中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで長さ 110cm で，燃焼部幅は 44cm である。煙道部の壁外へ 30cm 掘り込まれ，火床部からほぼ直立している。火床部は床面を 4 cm ほど掘りくぼめ，ローム粒子などを含む第 13 層を埋土して構築されている。火床面は赤変していない。袖部は地山を削り残して基部としているが，土層は観察できなかった。

ピット　7か所。P１～P４は深さ56～106cmで，規模や配置から主柱穴である。P５は深さ34cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。P４はP７の柱建て替えの可能性がある。P６は性格不明である。第１層は柱の抜取り痕である。

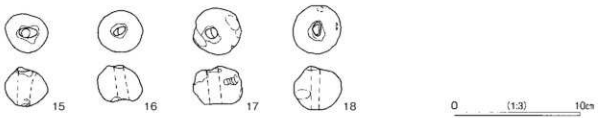
覆土　27層に分層できる。不自然な堆積状況から，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片671点（坏66，椀１，鉢１，甕類599，甑４），土製品36点（土玉32，羽口４），金属製品５点（不明鉄製品）のほか，鉄滓８点が出土している。竈周辺を中心に全体から散在した状態で出土している。１は竈袖部西側の覆土下層から，２はP３付近の覆土下層から出土している。３・４はいずれも竈袖部東側の覆土下層から出土している。土玉は遺存状態のよいものを図示し，ほかは計測値のみ記載する。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第93図　第40号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 94 図　第 40 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 40 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 93・94 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.8	4.3	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土下層	90% PL21
2	土師器	坏	[13.4]	4.4	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土下層	40%
3	須恵器	坏	14.8	4.5	10.4	長石・石英・雲母	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	80% PL21
4	須恵器	坏	[15.2]	4.9	[7.6]	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り	覆土下層	30%
5	須恵器	坏	[11.0]	3.3	[6.0]	長石・石英・雲母	灰白	普通	底部回転ヘラ削り	覆土上層	30%
6	須恵器	蓋	[15.8]	(2.0)	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中	20%
7	土師器	鉢	[25.0]	10.4	[8.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面横位・斜位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土中層	30%
8	土師器	甕	－	(1.7)	[8.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面下端斜位のヘラ磨き　底部木葉痕	覆土中層	5％

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
9	土玉	2.8	2.4	1.1	15.53	長石・石英	明赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	PL23
10	土玉	2.8	2.6	0.8	19.53	長石・石英	明赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	PL23
11	土玉	3.3	2.5	1.2	21.56	長石・石英	黒褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	PL23
12	土玉	3.1	2.6	0.9	22.41	長石・石英	灰褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL23
13	土玉	3.2	2.9	0.6	25.31	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔　ヘラ当て痕	床面	PL23
14	土玉	3.1	3.0	0.7	24.15	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ　一方向からの穿孔	床面	PL23
15	土玉	3.5	3.2	1.6	25.15	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL23
16	土玉	3.6	2.9	1.1	29.32	長石・石英	黒褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL23
17	土玉	3.9	3.0	0.9	(37.57)	長石・石英	黒褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL23
18	土玉	3.8	3.5	0.9	46.72	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	覆土中層	PL23
19	土玉	2.2	(1.7)	－	(4.87)	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ　穿孔なし	覆土下層	計測のみ
20	土玉	2.3	(2.0)	0.8	(7.32)	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	計測のみ
21	土玉	(3.3)	2.6	(0.8)	(16.67)	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	計測のみ
22	土玉	(3.0)	(2.4)	0.5	(16.91)	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	計測のみ
23	土玉	(2.9)	2.9	0.5	(11.90)	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	計測のみ
24	土玉	(2.8)	2.5	(0.6)	(10.24)	長石・石英	褐灰	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	計測のみ
25	土玉	(3.0)	2.6	(0.6)	(12.49)	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	計測のみ
26	土玉	2.5	(1.8)	0.8	(8.36)	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
27	土玉	2.9	2.1	0.7	14.88	長石・石英	橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
28	土玉	3.0	2.5	1.1	19.38	長石・石英	褐灰	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
29	土玉	2.8	2.5	0.9	16.42	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
30	土玉	3.4	2.5	0.6	29.86	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
31	土玉	2.9	2.6	0.9	19.73	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
32	土玉	3.5	2.8	0.8	28.27	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
33	土玉	3.7	2.7	1.0	25.17	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
34	土玉	3.7	2.9	1.0	30.42	長石・石英	褐灰	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
35	土玉	3.2～3.3	2.7	0.5～1.0	29.86	長石・石英	褐灰	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
36	土玉	3.8	2.6	1.0	34.32	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
37	土玉	3.0	2.5	0.5	20.92	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
38	土玉	2.9	2.4	1.0	17.89	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
39	土玉	2.1	2.0	0.3	2.98	長石・石英	灰褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ
40	土玉	2.3	1.9	0.3	9.40	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	計測のみ

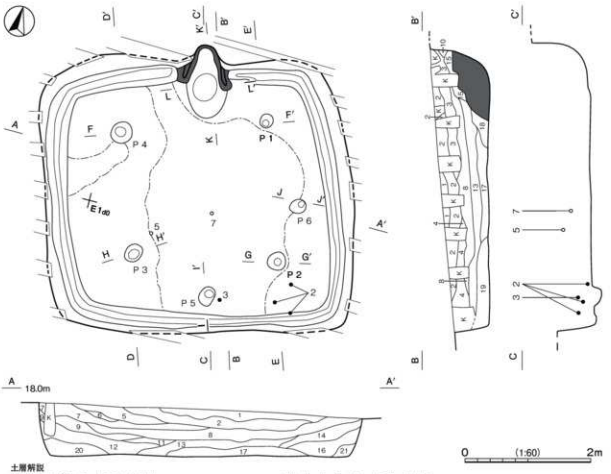
第42号竪穴建物跡（第95～97図　PL13）

調査年度　平成30年度

位置　調査区南部のE 1c0区，標高18 mほどの台地平坦部に位置している。

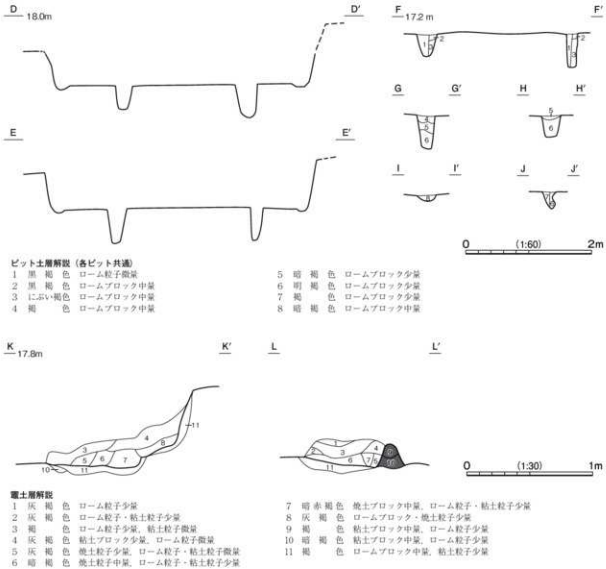
規模と形状　長軸4.90 m，短軸4.44 mの長方形で，主軸方向はN－16°－Wである。壁は高さ56～93cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，竈西側の北壁から南壁中央部の壁下にかけて踏み固められている。壁溝が，全周している。



土層解説
1　黒　褐　色　ローム ブロック微量
2　黒 暗 褐 色　ローム ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム ブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子微量
7　にぶい橙色　ローム ブロック中量
8　黒　褐　色　ローム粒子中量
9　褐　　色　ローム ブロック少量
10　暗　褐　色　ローム ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
11　暗　褐　色　ローム ブロック中量・焼土粒子少量
12　黒　褐　色　ローム ブロック中量
13　暗　褐　色　ローム ブロック少量
14　暗　褐　色　粘土ブロック・ローム粒子少量
15　灰　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
16　褐　　色　ローム ブロック微量
17　暗　褐　色　ローム ブロック中量
18　黒　褐　色　ローム ブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量
19　黒　褐　色　ローム ブロック中量，炭化粒子少量
20　褐　　色　ローム ブロック中量
21　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第95図　第42号竪穴建物跡実測図(1)



第 96 図　第 42 号竪穴建物跡実測図(2)

竈　北壁のほぼ中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで 80cm で，燃焼部幅は 50cm である。煙道部の壁外への掘り込みは 20cm で，火床部から直立している。火床部は床面を 6 cmほど掘りくぼめ，ロームブロックなどを含む第 11 層を埋土して構築している。火床面は赤変していない。袖部は床面に粘土ブロックやローム粒子を含む第 9・10 層を積み上げて構築されている。

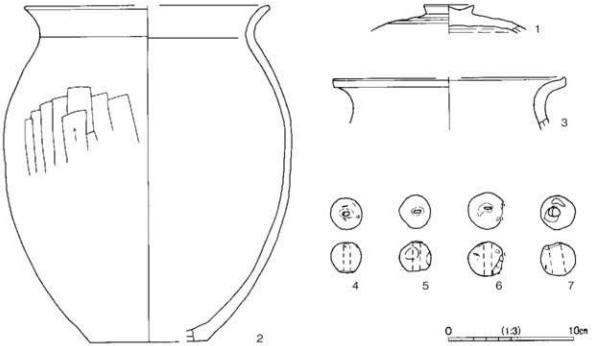
ピット　6 か所。P 1 ～ P 4 は深さ 36 ～ 54cm で，規模や配置から主柱穴である。P 5 は深さ 14cm で，配置から出入り口施設に伴うピットである。P 6 は性格不明である。第 1 層は柱の抜取り痕で，第 2・3 層は埋土である。第 4 ～ 8 層はロームブロックが含まれており，柱抜き取り後の覆土である。

覆土　21 層に分層できる。第 1 ～ 6 層は堆積状況から自然堆積である。第 7 ～ 21 層はほとんどの層にロームブロックが含まれており，また不自然な堆積状況から埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 261 点（坏 22，椀 2，甕類 236，瓶 1），土製品 9 点（土玉 7，羽口 2），金属製品 2 点（釘，不明鉄製品）のほか，鉄滓 2 点が出土している。南部の覆土中層から多く出土している。2 は南東コ

ーナー部の覆土中層と下層から出土した破片が接合したものである。3は南壁際の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第97図　第42号竪穴建物跡出土遺物実測図

第42号竪穴建物跡出土遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	－	(2.3)	－	長石・石英・黒母	暗灰黄	普通	天井部回転ヘラ削り後，つまみ貼付け	覆土中	30%
2	土師器	甕	[19.4]	26.8	[9.3]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土中層下層	40% PL21
3	土師器	甕	[18.4]	(4.2)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
4	土玉	2.5	2.4	0.6	13.32	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
5	土玉	2.5	2.4	0.6	12.92	長石・石英	にぶい黄褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	
6	土玉	2.9	2.7	0.6	(20.53)	長石・石英	にぶい黄褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
7	土玉	2.8	2.6	1.1	16.94	長石・石英	にぶい黄褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	

第44号竪穴建物跡（第98～100図）

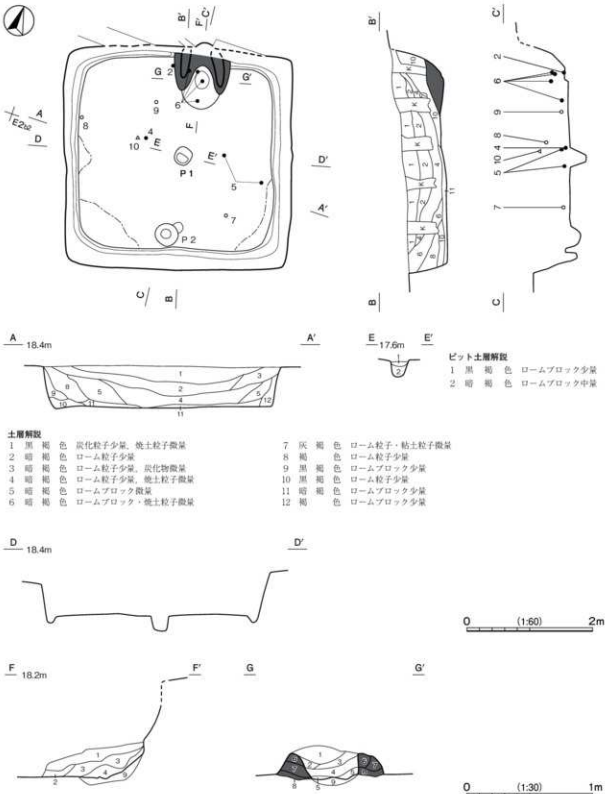
調査年度　平成30年度

位置　調査区南部のＥ2a2区，標高18ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.54ｍ，短軸3.58ｍの方形で，主軸方向はＮ－17°－Ｗである。壁は高さ52～57cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，ほぼ全面が踏み固められている。壁溝が，壁下を全周している。

竈　北壁中央部のやや東寄りに付設されている。焚口部から煙道部まで80cmで，燃焼部幅は50cmである。煙道部の壁外への掘り込みは20cmで，火床面からは直立している。火床部は床面を8cmほど掘りくぼめ，ローム粒子などを含む第9層を埋土して構築している。火床面は赤変していない。袖部は，床面とほぼ同じ高さにローム粒子や粘土粒子を含む第6～8層を積み上げて構築されている。



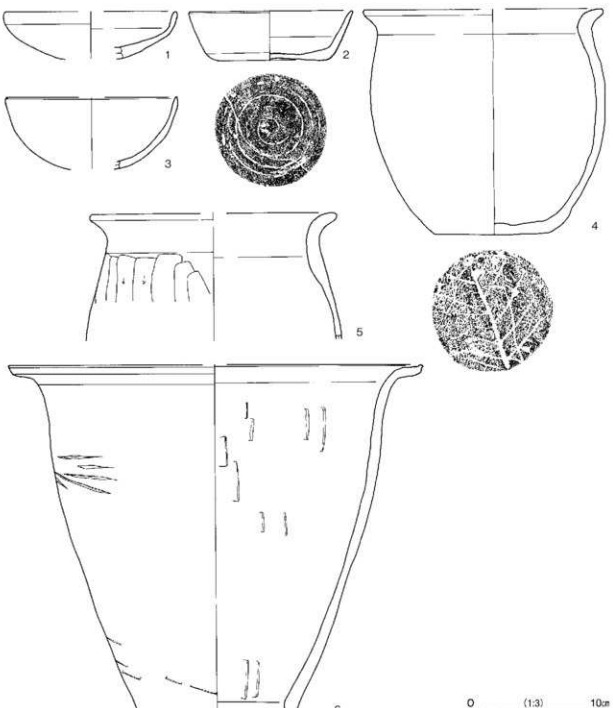
第 98 図　第 44 号竪穴建物跡実測図

ピット　2か所。P１は深さ24cmで，柱穴である。P２は深さ16cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。第１・２層はロームブロックが含まれており，柱抜き取り後の埋土である。

覆土　12層に分層できる。レンズ状に堆積をしていることから，自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片267点(坏29，椀10，甕類225，小形甕２，甑１)，土製品３点(土玉)，金属製品１点(刀子)のほか，鉄滓15点が出土している。竈周辺を中心に，覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。２は竈袖部西側の床面，４は中央部の覆土下層，10は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第99図　第44号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

第100図　第44号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第44号竪穴建物跡出土遺物観察表（第99・100図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.6]	3.8	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラ削り後ナデ　体部内面ナデ	覆土中	10%
2	須恵器	坏	13.0	3.9	8.8	長石・石英・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	床面	80% PL21
3	土師器	椀	[13.6]	(5.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ナデ　体部外・内面ナデ	覆土中	20%
4	土師器	甕	18.8	17.9	9.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ　底部木葉痕	覆土下層	95% PL21
5	土師器	甕	[19.4]	(10.1)	－	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土下層	20%
6	土師器	甑	[32.8]	27.8	11.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ナデ　体部内面ヘラナデ　体部外面上位に磨痕甑	覆土下層	60% PL21

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
7	土玉	2.9	2.6	0.8	22.04	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	
8	土玉	3.2	2.8	0.8	22.92	長石・石英	明赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	
9	土玉	3.4	2.7	0.9	29.76	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
10	刀子	(10.4)	1.3	0.3	(10.2)	鉄	両関先端部欠損　刃部断面三角形	覆土中層	PL35

第45号竪穴建物跡（第101～103図　PL13）

調査年度　平成30年度

位置　調査区南部のＥ２gl区，標高17ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸5.88ｍ，短軸5.88ｍの方形で，主軸方向はＮ－24°－Ｗである。壁は高さ42～67cmで，直立している。

床　平坦で，竈前面から出入口部にかけて，中央部分が踏み固められている。壁溝が，竈の東側の一部を除いて，壁下を巡っている。西部の床面を中心に焼土が確認された。

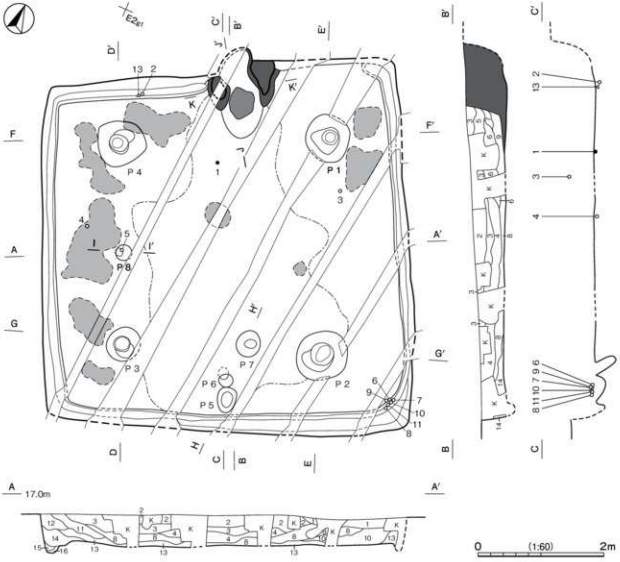
竈　北壁のほぼ中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは110cm，燃焼部幅は44cmである。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ，火床部から直立している。火床部は床面から12cmほど掘りくぼめ，第９～12層を埋土して構築されている。火床面は第９層の上面で，赤変硬化している。袖部は，床面から深さ６～12cmほど掘りくぼめた部分に第６～８層を積み上げて構築されている。

ピット　８か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ50～58cmで，規模や配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ16cm，Ｐ６は深さ52cmで配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ７は深さ42cm，Ｐ８は深さ40cmで性格は不明である。Ｐ３の第１層，Ｐ５・Ｐ６の第５層は柱抜き取り痕，これ以外は柱抜き取り後の覆土である。

覆土　16層に分層できる。床面に焼土が確認され，またロームブロックを含む不自然な堆積状況を呈していることから，埋め戻されていると考えられる。

遺物出土状況　土師器片526点（坏58，椀6，甕類460，手捏土器2），土製品24点（土玉23，管状土錘1），金属製品4点（鎌2，釘1，不明鉄製品1）のほか，鉄滓2点が出土している。西部の床面を中心に焼土のちらばりが確認できた。1は竈前面の床面から，5はP8の覆土下層から出土している。6～11は南東コーナー部の壁際覆土下層からまとまって出土している。13は北壁際の床面から出土している。

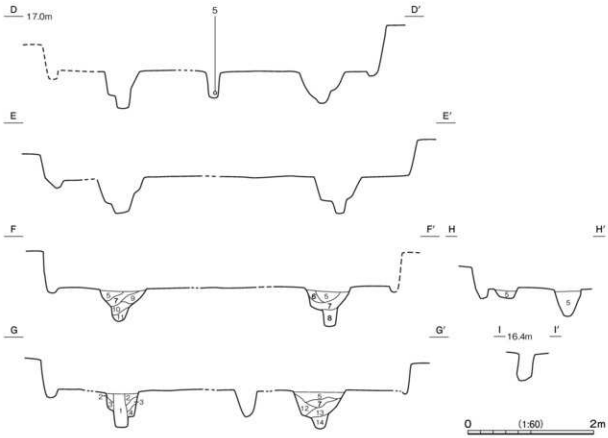
所見　床面から焼土が確認されており，焼失家屋と考えられる。時期は，出土土器から8世紀前葉と考えられる。



土層解説

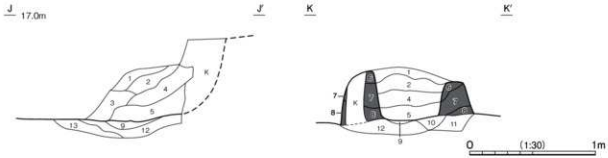
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量
5　極暗褐色　ロームブロック少量
6　灰　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック微量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量
10　暗　褐　色　ローム粒子中量
11　褐　　色　ロームブロック中量
12　褐　　色　ローム粒子中量
13　褐　　色　ロームブロック微量
14　褐　　色　ロームブロック少量
15　黒　褐　色　ローム粒子中量
16　黒　褐　色　ロームブロック中量

第101図　第45号竪穴建物跡実測図(1)



ピット土層解説（各ピット共通）

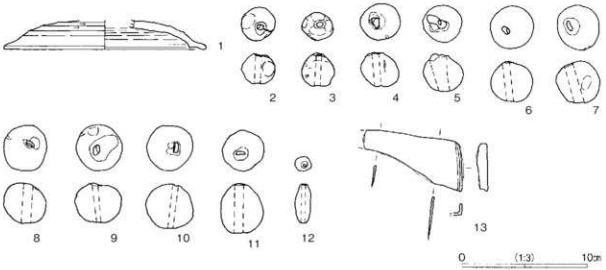
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　黒　褐　色　焼土粒子少量
7　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子微量
9　極暗褐色　ロームブロック中量
10　黒　褐　色　ロームブロック少量
11　褐　　色　ロームブロック中量
12　黒　　色　ローム粒子微量
13　暗　褐　色　ロームブロック中量
14　褐　　色　ロームブロック中量



竪土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，粘土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・粘土粒子微量
4　灰　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子中量，粘土ブロック少量
5　褐　　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子少量，炭化粒子微量
7　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
8　褐　　色　焼土ブロック中量，粘土粒子少量
9　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，粘土粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量
11　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
12　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
13　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

第 102 図　第 45 号竪穴建物跡実測図(2)



第 103 図　第 45 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 45 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 103 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	壺	[16.0]	(2.3)	－	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	床面	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	土玉	2.7	2.5	0.6	14.99	長石・石英・雲母	橙	ナデ　一方向からの穿孔	床面	PL23
3	土玉	2.6	2.6	0.6	14.02	長石・石英	明褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土上層	PL23
4	土玉	3.1	2.6	0.8	21.50	長石・石英	橙	ナデ　一方向からの穿孔	床面	PL23
5	土玉	3.2	3.0	1.8	22.85	長石・石英	明褐	ナデ　一方向からの穿孔	P 8覆土下層	PL23
6	土玉	3.4	3.2	0.7	36.14	長石・石英	黒褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL23 煤付着
7	土玉	3.5	3.3	0.9	35.54	長石・石英	黒褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL23 煤付着
8	土玉	3.5	3.2	0.8	38.24	長石・石英	黒褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	煤付着
9	土玉	3.8	3.1	0.9	39.24	長石・石英	黒	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL23 煤付着
10	土玉	3.7	3.6	0.8	44.17	長石・石英	黒褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL23 煤付着
11	土玉	3.3	3.9	0.8	40.10	長石・石英	褐灰	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	煤付着
12	管状土錘	1.3	3.2	0.3	4.41	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆覆土中	PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	鍐	(8.0)	4.9	0.2	(25.54)	鉄	刃部先端部欠損　茎部折り返し	床面	PL26

第 48 号竪穴建物跡（第 104・105 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区南部のＥ２b6 区，標高 18 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　東側が調査区域外のため，南北軸は 3.64 mで，東西軸は 3.25 mしか確認できなかったので，方形と推定され，主軸方向はＮ－ 10°－ Ｅである。壁は高さ 40 ～ 53cmで，直立している。

床　平坦であるが，踏み固められた部分は確認できなかった。

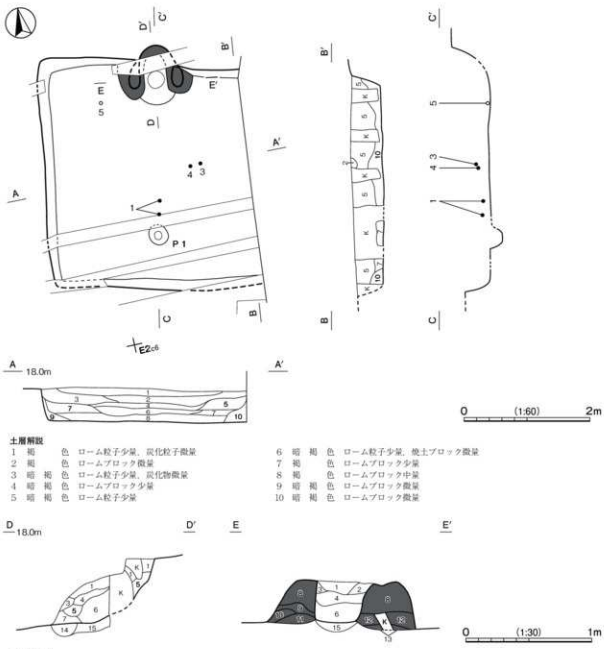
竈　北壁に付設されている。焚口部から煙道部まで 84cmで，燃焼部幅は 34cmである。煙道部は壁外に 26cmほど掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部は床面から８cmほど掘りくぼめ，ロームブロックを含む第 14・15 層を埋土して構築されている。火床面は赤変していない。袖部は，地山の上に粘土粒子などを含む第８～ 13 層を積み上げて構築されている。

ピット　Ｐ１は深さ20cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。

覆土　10層に分層できる。ロームブロックが含まれており，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片102点（坏10，甕類91，瓶１），須恵器片27点（坏21，高台付坏１，蓋４，甕類１），土製品１点（土玉）のほか，鉄滓３点が出土している。５は北西部の床面から，１・３・４は中央部の覆土下層から出土している。２は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



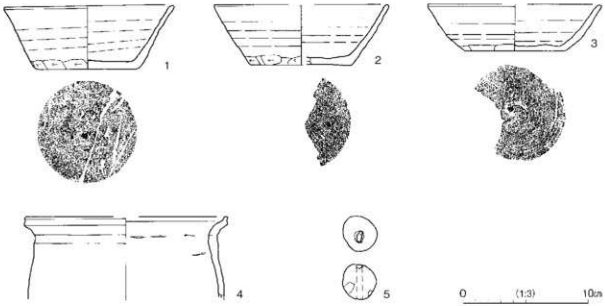
土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ロームブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子少量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
7　褐　色　ロームブロック少量
8　褐　色　ロームブロック中量
9　暗　褐　色　ロームブロック微量
10　暗　褐　色　ロームブロック微量

竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
5　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
6　褐　色　焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子微量
8　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子微量
9　灰　褐　色　粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量，粘土粒子微量
11　暗　褐　色　ローム粒子・粘土粒子微量
12　褐　色　ロームブロック少量
13　褐　色　ロームブロック微量
14　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
15　暗　褐　色　ロームブロック少量

第104図　第48号竪穴建物跡実測図



第105図　第48号竪穴建物跡出土遺物実測図

第48号竪穴建物跡出土遺物観察表（第105図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.3	5.1	8.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り	底部回転ヘラ切り後多方向のヘラ削り	覆土下層	80% PL21
2	須恵器	坏	[13.8]	4.8	[8.0]	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	底部一方向のヘラ削	覆土中	30%
3	須恵器	坏	[13.8]	3.7	8.0	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り	底部回転ヘラ削り	覆土下層	40%
4	土師器	小形甕	[16.0]	(6.6)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ナデ　体部内面横ナデ　内面に輪積み痕		覆土下層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	土玉	2.8	2.8	0.7	20.07	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	床面	

表5　奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考
1	B 2 h2	N－20°－W	隅丸方形	3.02×2.66	12～20	平坦	一部	1	－	－	－	－	自然 人為	土師器，鉄滓	8世紀代	本跡→SD 1
4	D 1 a5	N－5°－E	[長方形]	[5.76]×(3.10)	20～28	平坦	－	2	－	－	北壁	－	自然	土師器，須恵器，土製品，鉄滓	8世紀後葉	
6	D 2 e7	N－9°－W	[方形]	5.20×(5.00)	5～31	平坦	一部	4	－	4	北壁	－	自然	土師器，土製品，鉄滓	8世紀中葉	
7	B 2 j2	N－14°－W	[方形]	4.82×[4.80]	20～40	平坦	ほぼ全周	4	1	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，土製品，金属製品，鉄滓	8世紀代	SI 2→本跡→SK14
11	C 2 a1	N－17°－W	[方形]	4.25×[4.16]	20～40	平坦	－	－	－	2	－	－	不明	土師器，土製品，金属製品，鉄滓	8世紀後葉	
12	C 2 c1	N－6°－E	[方形]	[5.06]×[4.80]	14～22	平坦	－	－	－	－	北壁	－	不明	土師器，土製品，金属製品，鉄滓	8世紀前葉	
16	D 2 e1	N－6°－W	方形	5.14×4.70	6～24	平坦	一部	4	1	－	北壁	－	自然	土師器，須恵器，土製品	8世紀後葉	SI22・38→本跡→SK21
20	E 1 c5	N－33°－W	方形	4.12×3.84	18～30	平坦	ほぼ全周	4	1	－	北壁	－	自然	土師器，須恵器，土製品，金属製品，鉄滓	8世紀中葉	
21	D 1 i8	N－3°－E	長方形	2.74×2.46	8～14	平坦	－	－	1	－	－	－	自然	土師器，須恵器	8世紀代	SI30→本跡
26	E 1 a6	N－50°－W	方形	3.14×2.94	18～28	平坦	－	－	－	－	北壁	－	自然	土師器，須恵器，土製品，金属製品，鉄滓	8世紀後葉	
28	D 1 g9	N－17°－E	方形	3.64×3.50	24～36	平坦	ほぼ全周	－	－	－	北壁	－	自然	土師器，須恵器，土製品	8世紀後葉	SI29→本跡→SK24・25・36
29	D 1 h9	N－2°－W	方形	4.69×4.30	9～29	平坦	一部	4	－	－	北壁	－	自然	土師器，須恵器，土製品，金属製品	8世紀後葉	SI30→本跡→SI28,SK36
32	D 2 h6	N－2°－E	[方形]	3.76×(3.70)	9～14	平坦	－	－	－	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，鉄滓	8世紀代	
33	E 1 g5	N－8°－E	方形	3.86×(3.60)	52～68	平坦	ほぼ全周	－	1	－	北壁	－	自然	土師器，須恵器，鉄滓，土製品	8世紀後葉	SI34→本跡

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		標高 (cm)	床面	堆積	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸（m）					主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
34	E 1 f5	N－20°－W	方形	4.00×3.95	32～54	平坦	ほぼ全周		4			北壁	－	自然堆積，人為	土師器，須恵器，土製品，鉄滓	8世紀前葉	SD36→本跡→SD33
35	E 1 e5	N－16°－W	方形	4.30×4.00	18～29	平坦	ほぼ全周		4	1	1	北壁	－	自然堆積，人為	土師器，須恵器，土製品，木製品	8世紀中葉	SD36→本跡
40	E 1 a9	N－11°－W	方形	4.96×4.80	36～62	平坦	一部		4	1	2	北壁	－	人為	土師器，土製品，金属製品，鉄滓	8世紀前葉	本跡→PG 2
42	E 1 c0	N－16°－W	長方形	4.90×4.44	56～93	平坦	全周		4	1	1	北壁	－	自然堆積，人為	土師器，土製品，金属製品，鉄滓	8世紀中葉	
44	E 2 a2	N－17°－W	方形	3.54×3.58	52～75	平坦	全周		1	1	－	北壁	－	自然	土師器，土製品，金属製品，鉄滓	8世紀前葉	
45	E 2 g1	N－24°－W	方形	5.88×5.88	42～67	平坦	ほぼ全周		4	1	3	北壁	－	人為	土師器，土製品，金属製品，鉄滓	8世紀前葉	
48	E 2 b6	N－10°－E	〔方形〕	3.64×(3.25)	40～53	平坦	－		－	1	－	北壁	－	人為	土師器，須恵器，土製品，鉄滓	8世紀後葉	

（2）溝　跡

第５号溝跡（第 106・107 図　付図）

調査年度　平成 29 年度

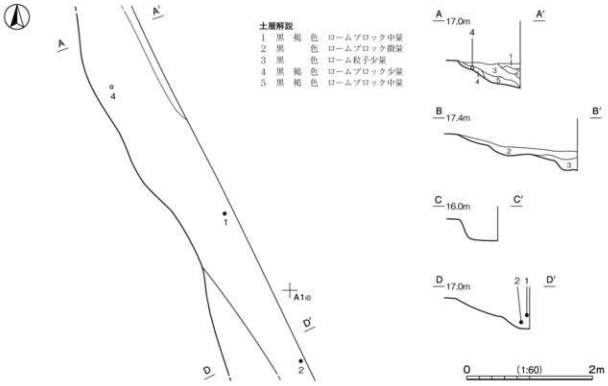
位置　調査区北部のＡ１c7～Ａ１j0 区，標高 17 ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　西部以外が調査区域外となっているため，26.5 ｍしか確認できなかった。Ａ１j0 区から北西方向（Ｎ－25°－Ｗ）のＡ１c7 区まで直線的に延びている。規模は，確認できた上幅 0.20～1.90 ｍ，下幅 0.12～0.40 ｍである。深さは 32～44cmである。底面の標高は，南東端部が 16.0 ｍ，北西端部が 15.1 ｍで，北西端部に向かって 90cmほど低くなっている。断面は北部が浅いＵ字状，南部は浅いＶ字状で，外傾している。

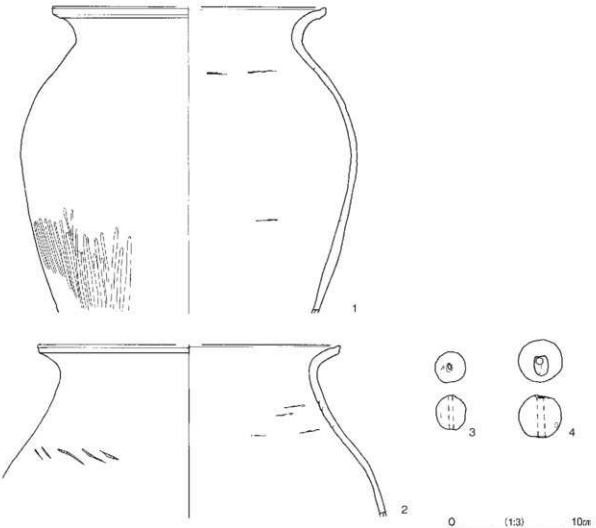
覆土　５層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示していることから，自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 130 点（坏５，椀８，甕類 115，甑１，手捏土器１），須恵器片 19 点（甕），土製品２点（土玉）が出土している。１・２は南部の覆土下層，４は南部の覆土上層から出土している。３は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀代と考えられる。大部分が調査区域外となっており，性格は不明である。



第 106 図　第５号溝跡実測図



第107図　第５号溝跡出土遺物実測図

第５号溝跡出土遺物観察表（第107図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[21.8]	(24.4)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面下端縦方向のヘラ磨き　体部内面ナデ　体部内面に輪積み痕	覆土下層	30%
2	土師器	甕	[24.0]	(13.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ナデ　体部外面にヘラ当て痕　体部内面ナデ　体部内面に輪積み痕跡	覆土下層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	土玉	2.4	2.7	0.5	(16.31)	長石・石英	赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
4	土玉	3.4	3.3	0.6	36.52	長石・石英・黒色粒子	赤褐	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	覆土上層	

4　平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡２棟，鍛冶工房跡１基，土坑１基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第 27 号竪穴建物跡（第 108・109 図　PL14）

調査年度　平成 29 年度

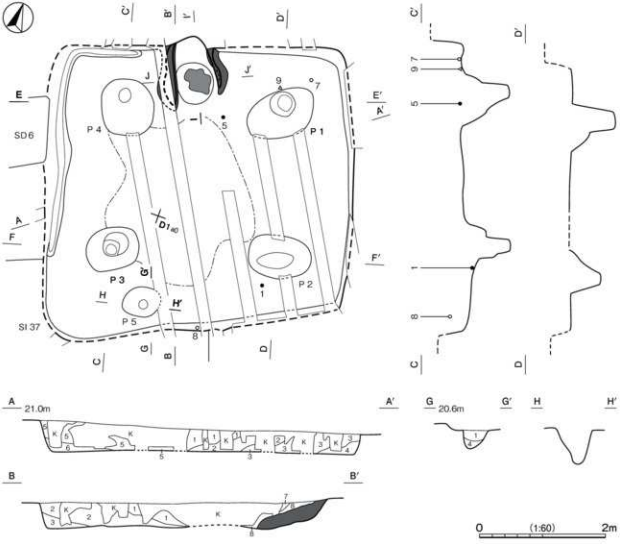
位置　調査区北部のＣ１j0 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 37 号竪穴建物跡を掘り込み，第６号溝に掘り込まれている。

規模と形状　確認できた部分で長軸 4.90 m，短軸 4.56 mの方形で，主軸方向はＮ－ 15°－Ｗである。壁は高さ 32 ～ 50cmで，直立している。

床　平坦で，中央部から西部にかけて踏み固められている。壁溝が北西コーナー部から西壁にかけて，壁下に巡っている。

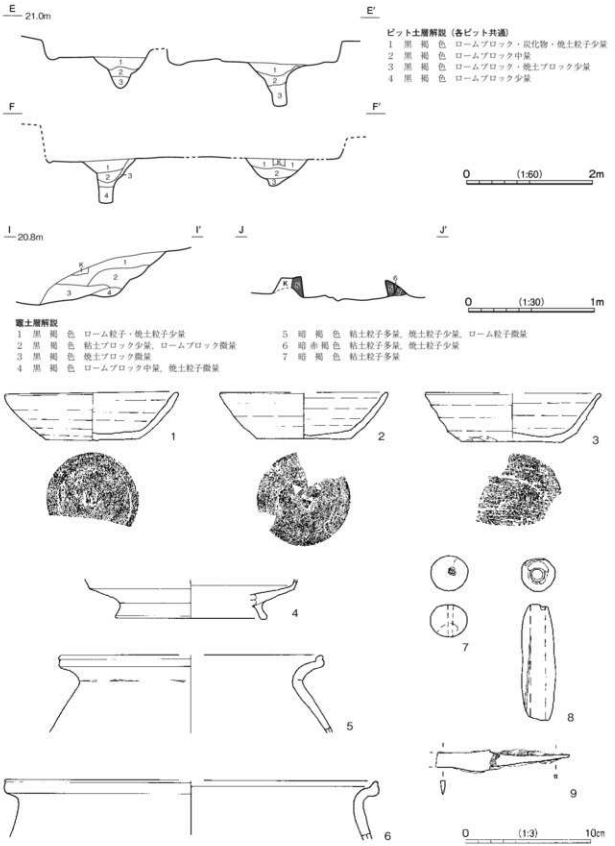
竈　北壁の中央部に付設され，焚口部から煙道部まで 134cmで，燃焼部幅は 64cmである。煙道部は壁外に 16 cmほど掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部は地山を使用し，火床面は火熱を受けて赤変硬化している。袖部は地山を掘り残して基部とし，粘土粒子などを含む第５～７層を積み上げて構築されている。



土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック少量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第 108 図　第 27 号竪穴建物跡実測図



第109図 第27号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ50～76cmで，配置から主柱穴である。P5は深さ57cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。各層ともロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

覆土　8層に分層できる。第1層は自然堆積，第2～8層はロームブロックが含まれており，また不規則な堆積状況から埋め戻されていると考えられる。

遺物出土状況　土師器片274点（坏30，椀2，甕類239，甑3），須恵器片89点（坏79，高台付坏2，蓋2，盤1，長頸瓶1，甕4），土製品23点（土玉1，管状土錘1，支脚1，羽口2，不明土製品18），金属製品1点（刀子）が出土している。1はP2の南側，7は北東コーナー部，9はP1北側の床面からそれぞれ出土している。5は竈前面の覆土下層から出土している。8は南壁際の覆土中層から出土している。2～4・6は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第27号竪穴建物跡出土遺物観察表（第109図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.7	4.0	7.4	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	床面	60% PL22
2	須恵器	坏	[13.3]	3.7	7.5	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラナデ	覆土中	50%
3	須恵器	坏	[14.0]	3.9	[8.0]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土中	30%
4	須恵器	盤	－	(3.1)	[12.0]	長石・石英・	灰	普通	底部ヘラ削り後，高台部貼付け	覆土中	20%
5	土師器	甕	[20.8]	(6.2)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　口縁部に輪積み痕　体部外・内面ナデ	覆土下層	20%
6	土師器	甕	[29.6]	(4.7)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外・内面ナデ	覆土中	20%

番号	器種	径	厚さ（長さ）	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
7	土玉	29	2.5	0.5	21.51	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	床面	
8	管状土錘	27	(9.2)	1.2	(5.68)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	PL23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	刀子	(10.8)	1.7	0.4	(18.0)	鉄	先端部欠損　刃部断面三角形　茎部に木質遺存	床面	PL35

第39号竪穴建物跡（第110・111図　PL14）

調査年度　平成29年度

位置　調査区南部のE1i6区，標高17mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第9号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸2.48m，短軸2.46mの方形で，主軸方向はN－90°－Wである。壁は高さ25～33cmで，ほぼ直立している。

床　平坦であるが，踏み固められた部分は確認できなかった。

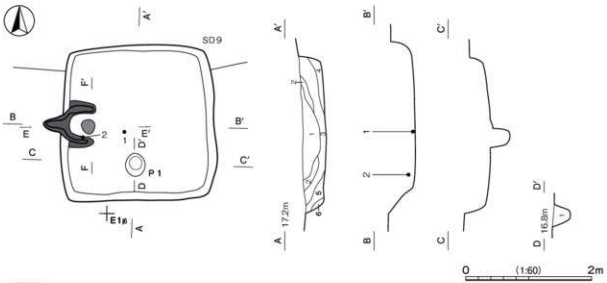
竈　西壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部まで80cm，燃焼部幅は48cmである。煙道部は壁外に32cmほど掘り込まれ，火床部から外傾している。火床部は床面を4cmほど掘りくぼめ，ロームブロックを含む第7層を埋土して構築している。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。袖部は，地山の上に粘土粒子などを含む第5・6層を積み上げて構築されている。

ピット　P1は深さ30cmで，配置から出入口施設に伴うピットであると思われる。

覆土　6層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片20点（甕類9，甑11），土製品17点（土玉）が出土している。1は中央部の床面から出土した破片が接合したものである。2は竈内の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀前葉と考えられる。



土層解説

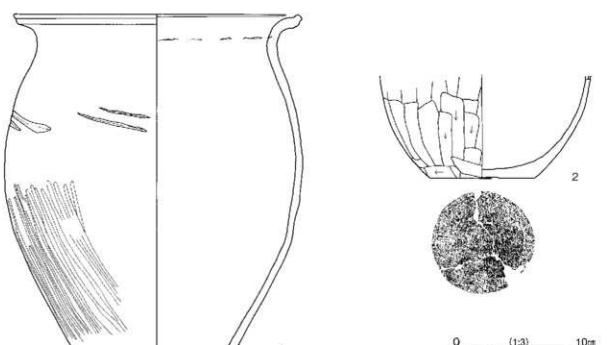
1 黒 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 暗 褐 色 ローム粒子少量
5 黒 褐 色 ロームブロック少量
6 黒 褐 色 ローム粒子少量

P1 土層解説

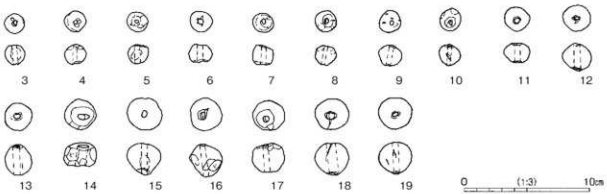
1 黒 褐 色 ロームブロック少量

竈土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量
3 にぶい黄褐色 山砂中量、焼土粒子少量
4 暗 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量
5 暗 褐 色 粘土粒子多量、ロームブロック微量
6 暗 褐 色 粘土粒子中量、ロームブロック少量
7 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量



第110図 第39号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 111 図　第 39 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 39 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 110・111 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	22.8	(27.0)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面ヘラナデ　中位以下ヘラ磨き　内面ヘラナデ　内面輪積み痕	床面	70% PL.22
2	土師器	甕	－	(8.2)	8.4	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面下位縦位・横位のヘラ削り　底部多方向のヘラ削り	覆内 覆土下層	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
3	土玉	1.6	1.5	0.4	3.32	長石・石英	橙	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	覆土中	
4	土玉	1.7	1.6	0.5	3.82	長石・雲母	明赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
5	土玉	1.7	1.6	0.4	(3.68)	長石・石英	橙	ナデ　一方向からの穿孔　指頭痕	覆土中	
6	土玉	1.7	1.9	0.6	4.10	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
7	土玉	1.7	1.6	0.5	(4.08)	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
8	土玉	1.8	1.6	0.4	4.09	長石・石英	明褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
9	土玉	1.9	1.7	0.4	4.47	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
10	土玉	1.8	1.7	0.4	4.28	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
11	土玉	2.1	1.5	0.4	5.60	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
12	土玉	2.3	2.1	0.5	9.87	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
13	土玉	2.2	2.5	0.6	10.23	長石・石英	にぶい黄橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
14	土玉	2.6	0.9	1.8	10.61	長石・石英	にぶい橙	ヘラ削り　一方向からの穿孔	覆土中	
15	土玉	2.6	2.6	0.6	14.71	長石・石英	橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
16	土玉	2.6	2.6	0.6	13.40	長石・石英	橙	ヘラ削り　一方向からの穿孔	覆土中	
17	土玉	2.5	2.3	0.6	14.61	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
18	土玉	2.7	2.5	0.8	16.16	長石・石英	にぶい褐	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	
19	土玉	2.7	2.4	0.4	16.19	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中	

表6　平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸（m）	壁高 （cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口	ピット	竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考
27	C 1 j0	N－15°－W	［方形］	［4.90］×［4.56］	32 ～ 50	平坦	一部	4	1	－	北壁	－	自然 人為	土師器・須恵器・土製品	9 世紀前葉	SD27 →本跡 → SD 6
39	E 1 i6	N－90°－W	方形	2.48 × 2.46	25 ～ 33	平坦	－	－	1	－	西壁	－	自然	土師器・土製品	9 世紀前葉	SD 9 →本跡

(2) 鍛冶工房跡

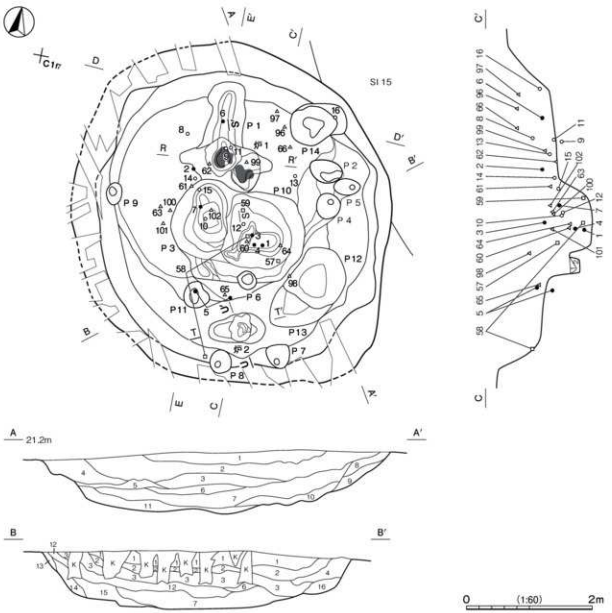
第２号鍛冶工房跡（第 112 ～ 122 図　PL14）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区北部のＣ１f7 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 15 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

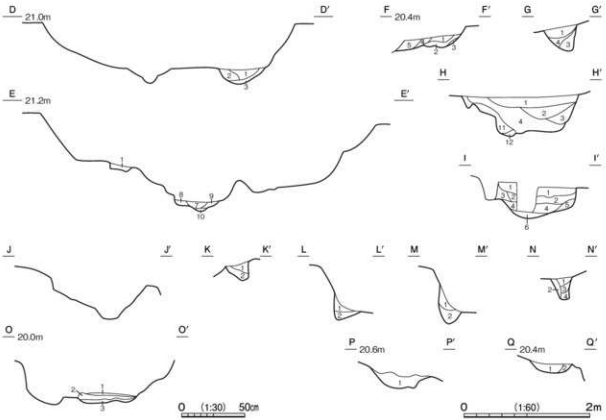
規模と形状　長径 5.86 m，短径 5.06 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 41 °－ Ｗである。壁は高さ 53 ～ 94cmで，外傾している。



土層解説

1　黒　色　炭化粒子少量，ローム粒子微量
2　黒　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量
3　黒　色　炭化物・ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化物微量
7　暗　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子中量
8　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
9　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量
10　暗　褐　色　ロームブロック中量
11　黒　褐　色　ロームブロック中量
12　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
13　暗　褐　色　ロームブロック中量
14　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
15　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
16　暗　褐　色　炭化物・ローム粒子少量，焼土粒子微量

第 112 図　第２号鍛冶工房跡実測図(1)



P 1 土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量
4 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量

P 2 土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量
3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子中量

P 3 土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
3 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子少量
4 黒 褐 色 ローム粒子微量
5 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子少量，焼土ブロック微量
6 黒 褐 色 ローム粒子少量
7 黒 色 ローム粒子・炭化粒子少量
8 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
9 黒 色 炭化粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量
10 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量
11 暗 褐 色 ロームブロック中量
12 暗 褐 色 ロームブロック多量

P 4 土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量

P 6 土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量

P 7 土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 黒 褐 色 炭化粒子中量，ロームブロック少量

P 8 土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量
2 黒 褐 色 炭化粒子中量，ロームブロック少量

P 9 土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量
3 黒 褐 色 ローム粒子少量
4 黒 褐 色 ロームブロック中量

P10 土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック微量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量

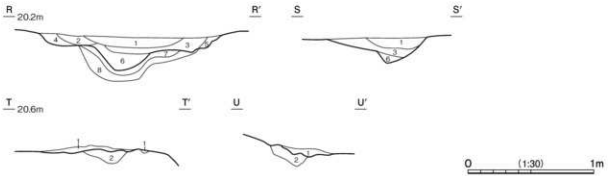
P11 土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量

P12 土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量

P13 土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック中量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子少量

P14 土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 113 図 第２号鍛冶工房跡実測図(2)

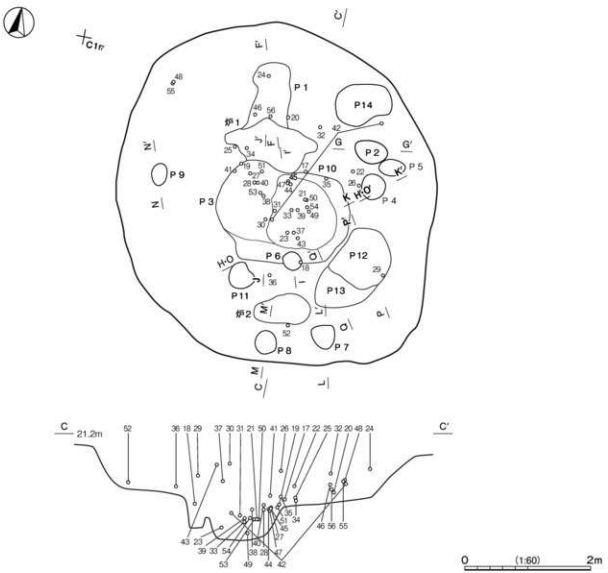


炉1土層解説

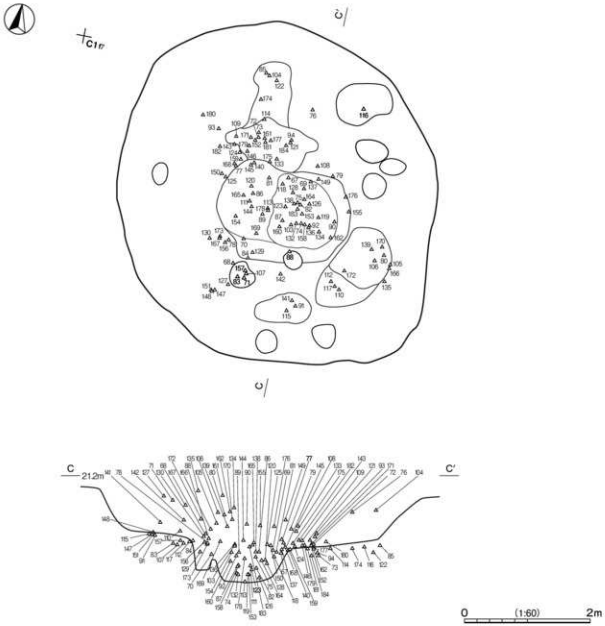
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
3　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子少量
4　暗　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック・焼土粒子少量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
6　黒　　色　焼土粒子・炭化粒子中量，ロームブロック少量
7　黄　褐　色　ロームブロック中量
8　赤　褐　色　ロームブロック中量

炉2土層解説

1　黒　褐　色　炭化物中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量



第114図　第2号鍛冶工房跡実測図(3)



第115図　第２号鍛冶工房跡実測図(4)

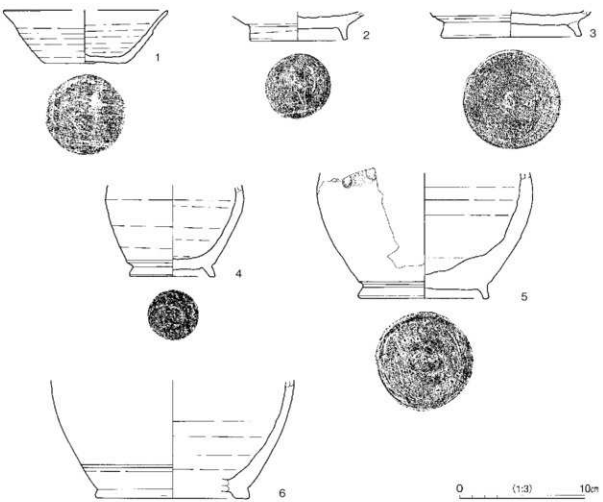
炉　２か所。炉１は北部に位置し，平面形は長径147cm，短径64cmほどの不整楕円形である。炉底は床面から深さ30cmほど掘りくぼめて構築されている。土層は８層に分層できる。第６層で焼土が確認された。青灰色に変色した部分が２か所確認でき，炉を作り替えた可能性が考えられるが，土層では確認できなかった。第７・８層は掘方の層で，埋め戻されている。炉２は南部に位置し，平面形は長径90cm，短径48cmの楕円形である。炉は床面をそのまま使用して構築されている。土層は２層に分層でき，第２層は掘方の層で，埋め戻されている。

ピット　14か所。Ｐ２・Ｐ７～Ｐ９は深さ16～45cmで，配置から柱穴と思われる。Ｐ１は深さ24cmで，炉１から出た鉄滓などの廃棄用，P13は深さ14cmで，炉２から出た鉄滓などの廃棄用のピットと思われる。Ｐ３・P10は重複しており深さ80cmで，大量の鉄滓が出土している。炉１及び炉２から出た鉄滓などの廃棄用のピットと思われる。Ｐ４～Ｐ６・P11・P12・P14は深さ10～34cmで，性格は不明である。

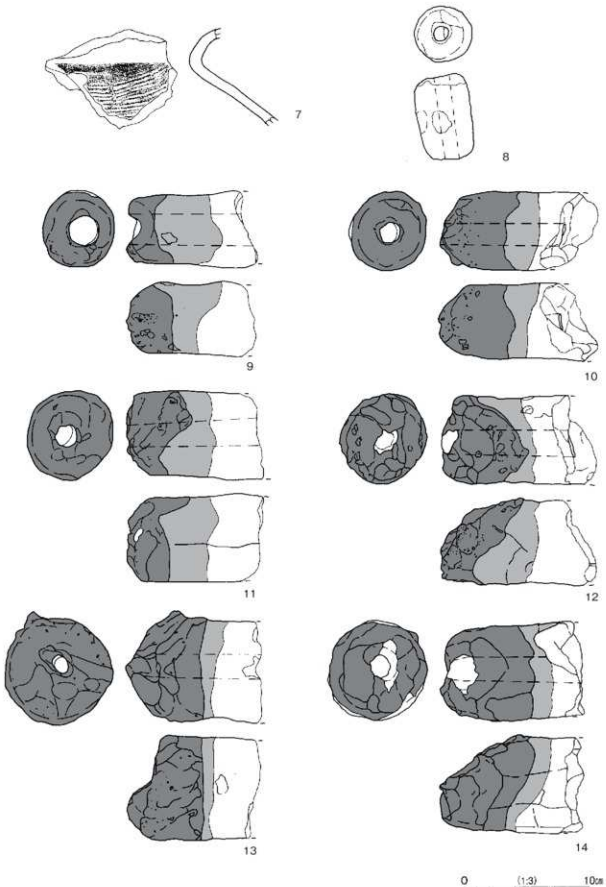
覆土　16層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれており，また遺物が大量に投棄されている。第１・２層は自然堆積，第３～16層は人為堆積と思われる。

遺物出土状況　土師器片196点（坏10，椀４，甕類181，甑１），須恵器片88点，（坏32，高台付坏４，蓋５，盤１，壺１，長頸瓶14，甕類31），土製品785点（管状土錘１，羽口784），石製品27点（金床石），金属製品７点（刀子１，釘２，不明鉄製品４）のほか，鉄滓4,631点（199.423kg）が出土している。覆土下層を中心に鉄滓や羽口が大量に出土している。１・４・59は中央部のＰ３覆土下層から，60は中央部Ｐ３内覆土上層から，58はＰ３内覆土下層と下層から出土した破片が接合したものである。７・10・12・15・57は中央部の床面から，２・６・８・９・11・14・61は北部の覆土下層から，３・５・57・60は中央部の覆土下層から出土している。13・16は北東部の覆土下層から出土している。

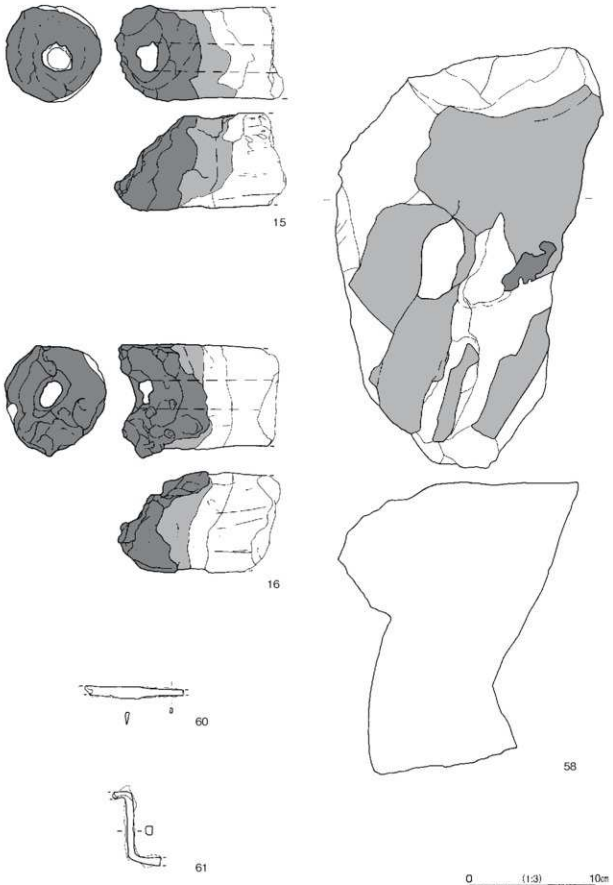
所見　出土した椀形滓及び鉄滓５点（95・121・122・131・184）について，化学分析を行った結果，これらはいずれも精錬鍛冶滓に分類されることが判明した。これにより，遺跡内に鉄の原料が搬入され，不純物の除去（精錬鍛冶）が行われたことが判明した。また，出土した粒状滓と鍛造剥片を遺構内付属施設の各層ごとに重量を計量した結果，これらの微細遺物が多量に出土する層は限定されており，本跡が埋没する過程で投棄されたことが分かった。本跡の時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。



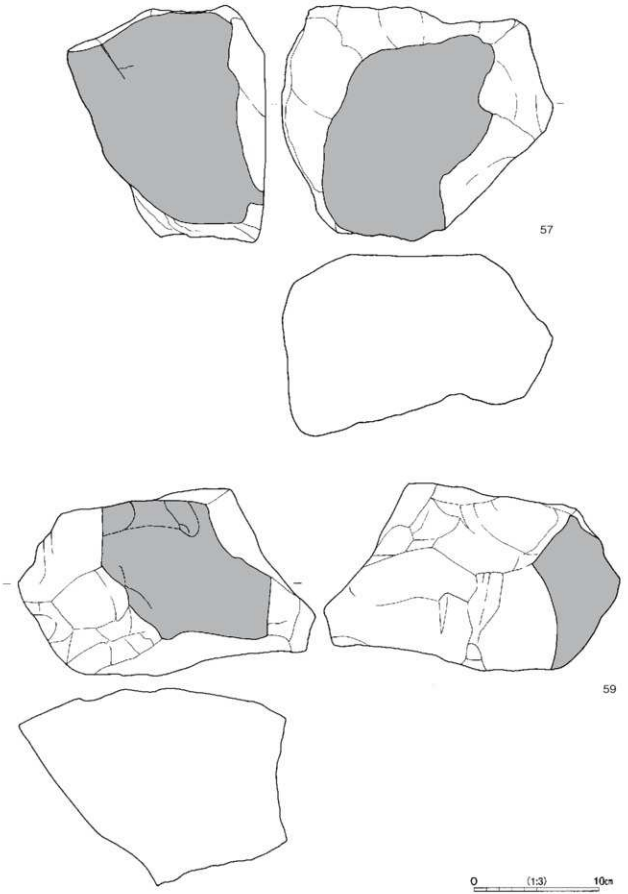
第116図　第２号鍛冶工房跡出土遺物実測図(1)



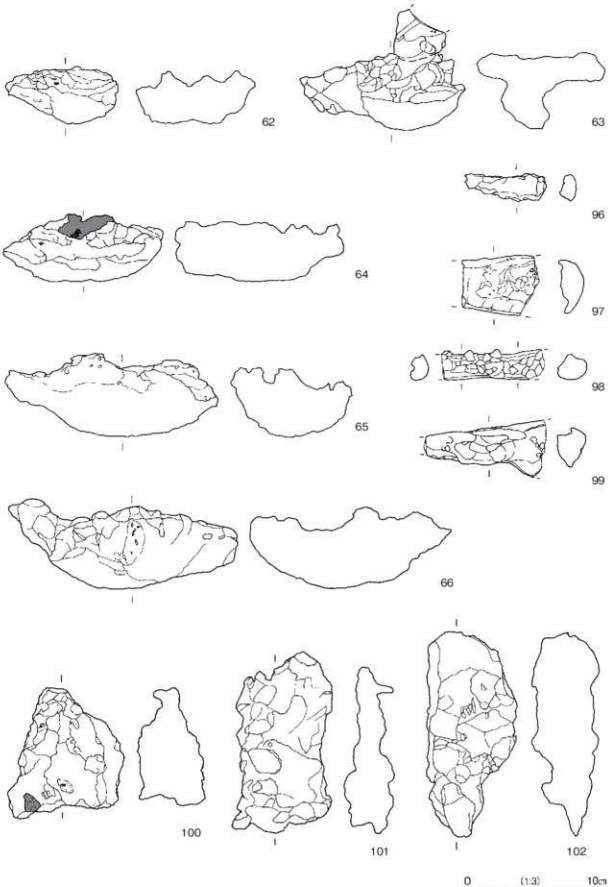
第117図　第２号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)



第118図　第２号鍛冶工房跡出土遺物実測図(3)



第119図　第２号鍛冶工房跡出土遺物実測図(4)



第120図　第２号鍛冶工房跡出土遺物実測図(5)

第２号鍛冶工房跡出土遺物観察表（第 116 ～ 120 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[13.0]	4.2	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部回転ヘラ切り後、一方向のヘラ削り	覆土下層	70%　PL.22
2	須恵器	高台付坏	－	(2.3)	7.4	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼付け　底部にヘラ記号	覆土下層	20%　PL.22
3	須恵器	甕	－	(2.1)	[11.0]	長石・石英	褐灰	普通	底部回転ヘラ削り後、高台貼付け	覆土下層	30%
4	須恵器	長頸瓶	－	(7.2)	6.6	長石・石英	褐灰	普通	体部外面下位ヘラナデ　底部回転ヘラ削り後、高台貼付け	覆土下層	40%　PL.22
5	須恵器	長頸瓶	－	(10.0)	10.2	長石・石英・黒色粒子	灰黄	普通	体部外面下位ヘラナデ　底部回転ヘラ削り後、高台貼付け　体部外面に自然釉及び鉄錆	覆土下層	30%　PL.22
6	須恵器	長頸瓶	－	(9.4)	[12.2]	長石・石英	黄灰	普通	体部外面下位ヘラナデ	覆土下層	10%
7	須恵器	甕	－	(7.9)	－	長石・石英・雲母	黄褐	普通	体部外面横位の平行叩き	覆土下層	5％　PL.22

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
8	管状土錘	4.4	4.7	1.3	145.09	長石・石英	にぶい橙	ナデ　一方向からの穿孔	覆土下層	PL.23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・材質	特徴	出土位置	備考
9	羽口	(10.5)	6.2	5.7	(300.0)	長石・石英	孔径 20cm　先端部溶化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土下層	PL.24
10	羽口	(12.6)	6.3	6.2	(405.0)	長石・石英・赤色粒子	孔径 1.8cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　断面にスサの練り込み痕　外面ナデ	覆土下層	PL.24
11	羽口	(11.0)	7.1	6.9	(501.0)	長石・石英・赤色粒子	孔径 2.1cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土下層	PL.24
12	羽口	(12.5)	7.2	8.0	(533.0)	長石・石英	孔径 1.8cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土下層	PL.24
13	羽口	(10.8)	9.0	8.8	(698.0)	長石・石英	孔径 2.0cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土下層	PL.24
14	羽口	(16.5)	8.0	7.9	(590.0)	長石・石英	孔径 1.8cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	床面	PL.24
15	羽口	(13.5)	7.6	7.6	(615.0)	長石・石英	孔径 2.5cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土下層	PL.24
16	羽口	(12.9)	8.1	8.1	(780.0)	長石・石英	孔径 2.3cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土下層	PL.24
17	羽口	(4.8)	5.5	5.5	(113.0)	長石・石英	孔径 2.7cm　先端部溶化	覆土下層	計測のみ
18	羽口	(4.5)	6.1	6.5	(125.0)	長石・石英	孔径 2.3cm　先端部溶化一部ガラス化	床面	計測のみ
19	羽口	(4.6)	6.5	6.1	(175.0)	長石・石英	孔径 2.0cm　先端部溶化	床面	計測のみ
20	羽口	(5.3)	6.8	7.0	(225.0)	長石・石英	孔径 2.1cm　先端部溶化	覆土下層	計測のみ
21	羽口	(4.7)	7.0	7.3	(234.0)	長石・石英	孔径 1.7cm　先端部溶化	P３覆土上層	計測のみ
22	羽口	(6.2)	6.8	6.8	(257.0)	長石・石英	孔径 2.5cm　先端部溶化一部ガラス化	覆土下層	計測のみ
23	羽口	(6.7)	7.0	7.0	(323.0)	長石・石英	孔径 2.0cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	P３覆土中層	計測のみ
24	羽口	(6.7)	8.4	8.2	(371.0)	長石・石英	孔径 2.1cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化	覆土上層	計測のみ
25	羽口	(6.2)	6.7	6.9	(280.0)	長石・石英	孔径 2.3cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化	覆土下層	計測のみ
26	羽口	(7.4)	6.6	6.6	(322.0)	長石・石英	孔径 2.3cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土上層	計測のみ
27	羽口	(9.5)	6.3	6.6	(306.0)	長石・石英	孔径 2.4cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	床面	計測のみ
28	羽口	(6.8)	7.1	6.9	(337.0)	長石・石英	孔径 2.0cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	床面	計測のみ
29	羽口	(7.2)	6.7	7.0	(370.0)	長石・石英	孔径 2.2cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土中層	計測のみ
30	羽口	(9.5)	6.0	5.4	(278.0)	長石・石英・赤色粒子	孔径 2.5cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土上層	計測のみ
31	羽口	(8.1)	(6.9)	6.7	(319.0)	長石・石英	孔径 1.7cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	P３覆土上層	計測のみ
32	羽口	(9.7)	(5.6)	6.3	(297.0)	長石・石英	孔径 2.1cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化	覆土中層	計測のみ
33	羽口	(10.2)	6.3	6.8	(335.0)	長石・石英	孔径 1.5cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	P３覆土上層	計測のみ
34	羽口	(6.0)	8.4	8.1	(389.0)	長石・石英	孔径 2.1cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土下層	計測のみ
35	羽口	(9.1)	6.4	6.5	(374.0)	長石・石英・黒色粒子	孔径 2.1cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ　外面に鉄錆付着	覆土下層	計測のみ
36	羽口	(10.3)	7.0	6.7	(482.0)	長石・石英	孔径 2.3cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土下層	計測のみ
37	羽口	(9.1)	7.2	6.7	(531.0)	長石・石英	孔径 2.3cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土中層	計測のみ
38	羽口	(10.4)	6.8	6.3	(459.0)	長石・石英	孔径 2.0cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	床面	計測のみ
39	羽口	(9.9)	7.7	8.1	(515.0)	長石・石英	孔径 2.3cm　先端部溶化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	P３覆土上層	計測のみ
40	羽口	(10.0)	7.5	6.4	(514.0)	長石・石英・雲母	孔径 2.0cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ　外面に鉄錆付着	床面	計測のみ
41	羽口	(11.4)	6.3	6.4	(542.0)	長石・石英	孔径 2.2cm　先端部溶化一部ガラス化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土下層	計測のみ
42	羽口	(12.2)	7.5	7.2	(657.0)	長石・石英	孔径 2.3cm　先端部溶化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	P３覆土上層　覆土中層	計測のみ
43	羽口	(13.3)	8.1	8.2	(720.0)	長石・石英	孔径 2.2cm　先端部溶化　一部凝元により青灰色化　外面ナデ	覆土上層	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土・材質	特徴	出土位置	備考
44	羽口	(6.2)	(4.9)	(2.4)	(64.0)	長石・石英	推定孔径2.3cm　先端部淳化	床面	計測のみ
45	羽口	(6.3)	(5.9)	(2.8)	(89.0)	長石・石英	孔径2.0cm　先端部淳化	床面	計測のみ
46	羽口	(3.4)	(6.4)	(3.4)	(83.0)	長石・石英	孔径2.5cm　先端部淳化	覆土下層	計測のみ
47	羽口	(5.9)	(5.5)	(2.8)	(70.0)	長石・石英	孔径1.8cm　先端部淳化	P 3 覆土上層	計測のみ
48	羽口	(7.9)	(4.0)	(2.9)	(90.0)	長石・石英	孔径2.2cm　先端部淳化一部ガラス化　一部還元により青灰色化	覆土中層	計測のみ
49	羽口	(5.6)	(6.7)	(2.5)	(196.0)	長石・石英	孔径1.8cm　先端部淳化　一部還元により青灰色化　鉄滓付着	P 3 覆土中層	計測のみ
50	羽口	(7.9)	(5.9)	(2.6)	(142.0)	長石・石英・岩母	孔径2.5cm　先端部淳化　一部還元により青灰色化	P 3 覆土上層	計測のみ
51	羽口	(6.8)	(5.9)	(3.6)	(231.0)	長石・石英	孔径2.0cm　先端部淳化　一部還元により青灰色化	床面	計測のみ
52	羽口	(9.1)	(7.7)	(3.9)	(236.0)	長石・石英	孔径2.3cm　先端部淳化　一部還元により青灰色化	覆土中層	計測のみ
53	羽口	(9.9)	7.0	(4.5)	(244.0)	長石・石英	孔径2.0cm　先端部淳化　一部還元により青灰色化	P 3 覆土上層	計測のみ
54	羽口	(7.8)	(7.2)	(4.5)	(313.0)	長石・石英	孔径1.7cm　先端部淳化　一部還元により青灰色化　鉄滓付着　外面削り	P 3 覆土上層	計測のみ
55	羽口	(12.1)	(6.6)	(2.9)	(232.0)	長石・石英・黒色粒子	孔径2.5cm　先端部淳化　一部還元により青灰色化　外面ナデ	覆土中層	計測のみ
56	羽口	(10.2)	7.8	(3.7)	(342.0)	長石・石英・岩母・黒色粒子	孔径2.0cm先端部淳化　一部還元により青灰色化　外面ナデ	覆土下層	計測のみ
57	金床石	(18.9)	(21.6)	(14.5)	(7295.0)	砂岩	火熱を受け一部赤褐色を呈す	覆土下層	PL25
58	金床石	(33.6)	(21.2)	(23.3)	(15300)	砂岩	火熱を受け一部赤褐色を呈す	覆土下層	
59	金床石	(15.0)	(23.7)	(15.8)	(6540.0)	砂岩	火熱を受け一部赤褐色を呈す	覆土下層	PL25
60	刀子	(8.0)	1.0	0.3	(6.25)	鉄	先端部欠損　断面三角形	覆土下層	PL26
61	不明鉄製品	(5.9)	(4.0)	0.6	(13.24)	鉄	一部欠損　断面四角形	覆土下層	
62	椀形滓	9.7	8.9	4.3	369.5	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁付着	床面	PL27
63	椀形滓	10.2	13.1	6.1	571.1	鉄	全面銹化　羽口の一部付着	覆土下層	PL27
64	椀形滓	13.4	12.8	4.8	719.0	鉄	一部発泡　全面銹化	P 3 覆土上層	PL27
65	椀形滓	9.6	17.0	6.7	699.5	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に木質付着	床面	PL27
66	椀形滓	16.0	18.3	7.1	1,375.2	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に木質付着	覆土上層	PL27
67	椀形滓	4.6	7.7	1.2	37.9	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に砂粒付着	P 3 覆土上層	計測のみ
68	椀形滓	5.6	8.0	3.4	178.1	鉄	全面銹化	覆土上層	計測のみ
69	椀形滓	5.7	7.4	3.6	182.0	鉄	全面銹化　底部に砂粒付着	床面	計測のみ
70	椀形滓	6.4	8.3	3.9	232.3	鉄	全面銹化	P 3 覆土上層	計測のみ
71	椀形滓	6.8	8.2	4.9	243.5	鉄	全面銹化	覆土上層	計測のみ
72	椀形滓	8.1	7.9	3.4	247.1	鉄	全面銹化	覆土下層	計測のみ
73	椀形滓	7.0	9.3	4.0	256.4	鉄	全面銹化　底部に炉壁付着	炉1 覆土上層	計測のみ
74	椀形滓	6.5	10.0	3.7	296.9	鉄	全面銹化　底部に砂粒付着	P 3 覆土中層	計測のみ
75	椀形滓	7.8	6.7	4.8	495.4	鉄	一部発泡　全面銹化	P 3 覆土上層	計測のみ
76	椀形滓	8.0	8.4	3.9	415.9	鉄	全面銹化	覆土上層	計測のみ
77	椀形滓	7.9	10.0	5.1	391.9	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
78	椀形滓	6.9	8.8	7.8	478.2	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁付着	覆土下層	計測のみ
79	椀形滓	6.0	8.5	4.4	333.8	鉄	全面銹化　底部に砂粒付着	覆土下層	計測のみ
80	椀形滓	7.1	10.6	3.7	267.9	鉄	全面銹化	覆土中層	計測のみ
81	椀形滓	8.3	8.1	4.5	463.7	鉄	全面銹化　底部に炉壁・砂粒・スサ付着	P 3 覆土上層	計測のみ
82	椀形滓	6.5	9.7	5.0	472.2	鉄	一部発泡　全面銹化	P 3 覆土中層	計測のみ
83	椀形滓	8.1	10.3	4.8	450.8	鉄	一部発泡　全面銹化	P11 覆土下層	計測のみ
84	椀形滓	7.8	11.7	3.5	323.8	鉄	全面銹化　底部に炉壁付着	覆土下層	計測のみ
85	椀形滓	9.6	14.2	3.1	440.4	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
86	椀形滓	7.8	9.6	6.2	694.3	鉄	全面銹化	P 3 覆土上層	計測のみ
87	椀形滓	7.4	13.3	3.3	448.9	鉄	全面銹化　底部に炉壁付着	P 3 覆土中層	計測のみ
88	椀形滓	8.7	11.7	5.6	778.5	鉄	全面銹化　底部に炉壁付着	覆土下層	計測のみ
89	椀形滓	9.3	12.5	5.2	770.1	鉄	一部発泡　全面銹化	P 3 覆土上層	計測のみ
90	椀形滓	10.2	12.1	5.1	626.1	鉄	全面銹化	覆土中層	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質・材質	特徴	出土位置	備考
91	輪形滓	11.3	13.0	4.0	794.0	鉄	全面鍛化　底部に砂粒付着	覆土下層	計測のみ
92	輪形滓	9.8	14.9	4.1	536.4	鉄	全面鍛化　底部に砂粒付着	P 3 覆土上層	計測のみ
93	輪形滓	8.6	17.0	5.6	763.1	鉄	全面鍛化　底部に炉壁付着	覆土下層	計測のみ
94	輪形滓	7.5	19.1	3.9	828.8	鉄	一部発泡　全面鍛化　底部に炉壁付着	覆土下層	計測のみ
95	輪形滓	13.0	19.0	8.0	1,714.0	鉄	一部発泡　全面鍛化　着磁性あり　底部に炉壁付着	覆土中	計測のみ
96	鉄滓	6.6	2.3	1.3	33.0	鉄	全面鍛化　底部に砂粒付着	覆土上層	PL.25
97	鉄滓	6.2	4.9	2.0	63.3	鉄	全面鍛化　底部に砂粒付着	覆土上層	PL.24
98	鉄滓	8.4	2.5	2.3	58.6	鉄	一部は発泡　全面鍛化	覆土中層	PL.24
99	鉄滓	9.3	4.6	2.3	85.1	鉄	全面鍛化　底部に砂粒付着	覆土下層	PL.24
100	鉄滓	10.5	9.9	5.5	567.9	鉄	全面発泡　全面鍛化	覆土下層	PL.24
101	鉄滓	14.5	8.0	4.0	551.8	鉄	全面発泡　全面鍛化	覆土下層	PL.24
102	鉄滓	16.2	7.3	5.4	729.7	鉄	一部発泡　全面鍛化	覆土下層	PL.24
103	鉄滓	4.3	1.5	1.5	21.1	鉄	全面鍛化　薄く粘土付着	床面	計測のみ
104	鉄滓	3.8	1.6	1.9	10.1	鉄	全面鍛化	覆土上層	計測のみ
105	鉄滓	4.7	2.9	1.0	18.1	鉄	全面鍛化	覆土中層	計測のみ
106	鉄滓	3.0	2.3	1.5	18.3	鉄	全面鍛化　底部に砂粒付着	覆土上層	計測のみ
107	鉄滓	4.7	2.6	2.0	20.3	鉄	一部発泡　全面鍛化	P11 覆土下層	計測のみ
108	鉄滓	4.8	4.6	1.3	34.5	鉄	全面鍛化　上部及び底部に砂粒付着	覆土下層	計測のみ
109	鉄滓	4.0	2.4	2.0	45.2	鉄	全面鍛化	覆土下層	計測のみ
110	鉄滓	6.4	2.0	1.5	24.7	鉄	全面鍛化　上部に砂粒付着	覆土下層	計測のみ
111	鉄滓	5.9	2.6	1.3	33.9	鉄	全面鍛化　底部に砂粒付着	P 3 覆土中層	計測のみ
112	鉄滓	4.2	3.8	1.7	29.4	鉄	全面鍛化	P13 覆土下層	計測のみ
113	鉄滓	3.7	3.3	2.8	60.8	鉄	全面鍛化　上部に粘土付着	P 3 覆土下層	計測のみ
114	鉄滓	6.0	3.1	1.5	39.4	鉄	一部発泡　全面鍛化	床面	計測のみ
115	鉄滓	6.5	3.9	2.8	70.8	鉄	全面鍛化　上部に粘土付着	炉 2 底面	計測のみ
116	鉄滓	5.6	3.6	2.6	52.3	鉄	全面鍛化　底部に砂粒付着	床面	計測のみ
117	鉄滓	5.8	3.8	2.8	76.1	鉄	一部発泡　全面鍛化	覆土下層	計測のみ
118	鉄滓	5.9	4.8	2.8	50.9	鉄	全面鍛化	P 3 覆土上層	計測のみ
119	鉄滓	6.0	4.0	4.1	106.2	鉄	一部発泡　全面鍛化	P 3 覆土中層	計測のみ
120	鉄滓	6.5	4.0	3.4	68.6	鉄	全面鍛化	P 3 覆土上層	計測のみ
121	鉄滓	8.1	4.4	3.2	126.8	鉄	一部発泡　全面鍛化　着磁性あり　木炭痕	P 1 覆土下層	計測のみ
122	鉄滓	6.3	5.0	3.9	107.7	鉄	一部発泡　全面鍛化　着磁性あり　木炭痕	P 1 覆土上層	計測のみ
123	鉄滓	8.2	4.0	1.9	102.5	鉄	一部発泡　全面鍛化	P 3 覆土中層	計測のみ
124	鉄滓	7.3	4.8	3.1	99.0	鉄	一部発泡　全面鍛化	床面	計測のみ
125	鉄滓	8.5	5.0	3.2	99.3	鉄	一部発泡　全面鍛化	覆土下層	計測のみ
126	鉄滓	8.3	4.7	3.7	124.2	鉄	一部発泡　全面鍛化	P 3 覆土下層	計測のみ
127	鉄滓	7.5	7.0	3.3	218.8	鉄	一部発泡　全面鍛化	覆土上層	計測のみ
128	鉄滓	6.6	5.6	3.8	137.2	鉄	一部発泡　全面鍛化	P 3 覆土中層	計測のみ
129	鉄滓	7.8	6.1	3.9	103.8	鉄	一部発泡　全面鍛化	床面	計測のみ
130	鉄滓	8.4	6.2	2.9	109.1	鉄	一部発泡　全面鍛化	覆土下層	計測のみ
131	輪形滓	7.0	8.0	2.5	129.1	鉄	一部発泡　全面鍛化	覆土中	計測のみ
132	鉄滓	7.2	5.8	2.4	132.1	鉄	一部発泡　全面鍛化	P 3 覆土中層	計測のみ
133	鉄滓	9.0	6.2	1.9	94.8	鉄	一部発泡　全面鍛化	覆土下層	計測のみ
134	鉄滓	9.9	4.3	4.1	164.3	鉄	一部発泡　全面鍛化	覆土上層	計測のみ
135	鉄滓	7.7	5.5	4.6	200.1	鉄	一部発泡　全面鍛化	覆土上層	計測のみ
136	鉄滓	9.2	6.5	3.1	153.9	鉄	一部発泡　全面鍛化	床面	計測のみ

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
137	鉄滓	10.3	6.0	2.9	154.1	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に砂粒付着	床面	計測のみ
138	鉄滓	8.5	6.1	4.2	194.3	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
139	鉄滓	7.4	7.2	4.1	212.4	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
140	鉄滓	8.6	5.7	4.9	245.2	鉄	全面銹化	床面	計測のみ
141	鉄滓	8.4	6.0	4.5	286.1	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
142	鉄滓	8.7	5.1	4.1	170.5	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土中層	計測のみ
143	鉄滓	7.7	5.7	5.1	243.2	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
144	鉄滓	8.3	7.0	4.6	198.7	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
145	鉄滓	9.0	6.6	3.2	213.9	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
146	鉄滓	8.3	5.3	3.5	307.3	鉄	全面銹化	覆土下層	計測のみ
147	鉄滓	10.4	5.8	3.1	192.0	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
148	鉄滓	10.0	5.9	2.7	143.5	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
149	鉄滓	10.8	6.3	3.1	174.5	鉄	一部発泡　全面銹化　羽口付着	覆土中層	計測のみ
150	鉄滓	8.2	6.5	2.9	178.6	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
151	鉄滓	12.5	6.9	2.6	158.9	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
152	鉄滓	7.2	6.7	4.2	213.2	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
153	鉄滓	9.3	7.4	3.3	214.0	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁付着	覆土下層	計測のみ
154	鉄滓	9.6	7.1	4.4	272.9	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁付着	床面	計測のみ
155	鉄滓	8.4	7.0	4.5	285.3	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に砂粒付着	覆土下層	計測のみ
156	鉄滓	7.8	7.3	4.7	320.6	鉄	全面銹化	覆土下層	計測のみ
157	鉄滓	9.5	7.6	2.6	245.7	鉄	全面銹化　底部に砂粒付着	P11覆土上層	計測のみ
158	鉄滓	9.0	7.0	4.9	292.4	鉄	一部発泡　全面銹化	P3覆土中層	計測のみ
159	鉄滓	9.4	6.6	4.9	315.4	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
160	鉄滓	9.7	7.8	4.7	370.4	鉄	全面銹化　底部に砂粒・粘土付着	P3覆土上層	計測のみ
161	鉄滓	10.0	6.0	6.2	349.4	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
162	鉄滓	8.9	6.7	4.6	405.6	鉄	一部発泡　全面銹化	P3覆土中層	計測のみ
163	鉄滓	10.5	6.1	6.2	439.5	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土上層	計測のみ
164	鉄滓	9.0	7.2	5.3	210.9	鉄	一部発泡　全面銹化	P3覆土上層	計測のみ
165	鉄滓	9.3	6.8	5.3	284.7	鉄	全面銹化　底部に砂粒付着	床面	計測のみ
166	鉄滓	9.0	7.1	5.8	377.6	鉄	全面銹化　底部に砂粒付着	覆土下層	計測のみ
167	鉄滓	9.1	7.0	7.1	325.6	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
168	鉄滓	11.9	7.4	5.2	316.8	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
169	鉄滓	11.3	8.0	5.4	291.4	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
170	鉄滓	12.6	8.5	4.5	331.6	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁付着	覆土中層	計測のみ
171	鉄滓	11.8	8.1	5.6	319.6	鉄	全面銹化　底部に炉壁付着	床面	計測のみ
172	鉄滓	10.5	7.5	3.5	307.9	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土中層	計測のみ
173	鉄滓	9.4	6.2	5.2	516.8	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
174	鉄滓	10.8	8.0	4.6	405.8	鉄	一部発泡　全面銹化	P1覆土上層	計測のみ
175	鉄滓	11.7	8.3	4.8	396.7	鉄	全面銹化　底部に砂粒付着	覆土下層	計測のみ
176	鉄滓	11.9	7.2	5.4	528.4	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
177	鉄滓	11.4	7.4	6.3	437.7	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に炉壁付着	床面	計測のみ
178	鉄滓	10.1	6.5	6.3	721.9	鉄	全面銹化　底部に炉壁付着	P3覆土上層	計測のみ
179	鉄滓	12.1	7.6	5.7	606.0	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
180	鉄滓	17.7	9.2	2.6	343.3	鉄	一部発泡　全面銹化　底部に砂粒付着	覆土下層	計測のみ
181	鉄滓	17.9	9.1	4.2	623.4	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
182	鉄滓	12.0	9.7	7.2	684.2	鉄	一部発泡　全面銹化	覆土下層	計測のみ
183	鉄滓	11.7	10.2	5.9	743.1	鉄	一部発泡　全面銹化	床面	計測のみ
184	椀形滓	13.5	11.0	9.1	1,386.7	鉄	一部発泡　全面銹化　着磁性あり　木炭痕	炉1覆土上層	計測のみ

(3) 化学分析

鉄滓の化学分析　　パリノ・サーヴェイ株式会社

ア　試料

試料は第２号鍛冶工房跡から出土した鉄滓５点である（表７）。

表７　試料一覧と調査項目

番号	遺構	遺物番号	遺物名称	推定年代	計測値	金属探知機反応	調査項目	
					大きさ（mm）		顕微鏡組織	化学分析
1	第２号鍛冶工房跡	122	鍛冶滓	平安時代	120 × 60 × 30	×	○	○
2	第２号鍛冶工房跡	184	椀形鍛冶滓	平安時代	200 × 120 × 75	×	○	○
3	第２号鍛冶工房跡	95	椀形鍛冶滓（含鉄）	平安時代	190 × 130 × 80	○	○	○
4	第２号鍛冶工房跡	121	鍛冶滓	平安時代	98 × 61 × 40	×	○	○
5	第２号鍛冶工房跡	131	椀形鍛冶滓	平安時代	80 × 70 × 25	×	○	○

イ　分析方法

(ア)　肉眼観察

遺物の外観の特徴など，調査前の所見を記載した。

(イ)　顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属部の組織観察を目的とする。外観の特徴から断面観察位置を決めて，試料を切り出し，エメリー研磨紙の #150，#240，#320，#600，#1000，及びダイヤモンド粒子の３μm と１μm で順を追って研磨した。その後金属反射顕微鏡を用い，特徴的・代表的な視野を選択して写真を撮影した。また金属鉄部の組織観察には３％ナイタル（硝酸アルコール）液を腐食に用いた。

(ウ)　化学組成分析

鉄滓の定量分析を実施した。全鉄分（Total Fe），金属鉄（Metallic Fe），酸化第一鉄（FeO）：容量法。二酸化珪素（SiO_2），酸化アルミニウム（Al_2O_3），酸化カルシウム（CaO），酸化マグネシウム（MgO），二酸化チタン（TiO_2），酸化バナジウム（V_2O_5）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）：誘導結合プラズマ発光分光分析法。

ウ　結果

(ア)　肉眼観察

・鍛冶滓（試料番号１）

細長い楕状の鍛冶滓である。短軸両端は破面で，中小の気孔が散在するが緻密である。滓の地の色調は暗灰色で着磁性は弱い。部分的に茶褐色の鉄銹が付着するが，金属探知器反応はなく，まとまった鉄部はみられない。上下面とも表面は弱い流動状で，上面は細かい木炭痕による凹凸もみられる。

・椀形鍛冶滓（試料番号２）

大形でほぼ完形の椀形鍛冶滓と推測される。表面全体が黄褐色の土砂や茶褐色の鉄銹で覆われている。着磁性もあるが金属探知器反応はなく，まとまった鉄部を含む可能性は低い。滓の地の色調は暗灰色で，上下面とも細かい木炭痕による凹凸が著しい。気孔は少なく緻密で重量感のある滓である。

・椀形鍛冶滓（含鉄）（試料番号３）

大形で厚手の椀形鍛冶滓の破片である。表面には広い範囲で茶褐色の鉄銹が付着する。着磁性があり，金属探知器反応もあるため，内部には金属鉄が残存すると考えられる。側面２面は破面で中小の気孔が

多数散在するが，緻密で重量感のある滓である。下面には部分的に砂質の鍛冶炉床土が付着している。

・椀形鍛冶滓（試料番号４）

細長い形状の鍛冶滓である。側面１面は破面と推測される。気孔は少なく，重量感のある滓である。また表面全体が薄く茶褐色の鉄銹で覆われる。着磁性はあるが金属探知機反応はなく，まとまった鉄部はみられない。上下面とも細かい木炭痕による凹凸が著しく，側面の一部では木炭組織が残存している。

・椀形鍛冶滓（試料番号５）

やや小形の椀形鍛冶滓である。表面は茶褐色の鉄銹や黄褐色の土砂で覆われている。着磁性はあるが金属探知器反応はなく，まとまった鉄部はみられない。滓の地の色調は暗灰色で，細かい木炭痕による凹凸が著しい。

(ｲ) 顕微鏡組織

・鍛冶滓（試料番号１）

図版１④⑤に示す。淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル，白色粒状結晶ウスタイト，淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出している。精錬鍛冶滓の晶癖である。また滓中の微細な明白色粒は金属鉄である。

・椀形鍛冶滓（試料番号２）

図版４④～⑥に示す。素地部分は鍛冶滓で，淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル，白色粒状結晶ウスタイト，淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。砂鉄を始発原料とした精錬鍛冶滓の晶癖である。また滓中の微細な青灰色部は銹化鉄である。金属組織の痕跡は残存せず，鉄中の炭素含有率等を推定することは困難であった。

・椀形鍛冶滓（含鉄）（試料番号３）

図版２①～③に示す。滓中には淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル，白色粒状結晶ウスタイト，淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出している。精錬鍛冶滓の晶癖といえる。一方明白色部は金属鉄である。素地はほとんど炭素を含まないフェライト（Ferrite：α鉄）で，部分的に少量黒色層状のパーライト（Pearlite）が析出する。この金属組織から，炭素含有量が0.1%未満の軟鉄と推定される。

・鍛冶滓（試料番号４）

図版５①～③に示す。①の上側の青灰色部は，鉄滓表面に付着した銹化鉄である。②はその拡大で，微細な木炭破片（左上）や鍛造剥片（右下）が確認された。一方素地部分は鍛冶滓で，③には滓中において淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル（Ulvöspinel：$2FeO \cdot TiO_2$），白色粒状結晶ウスタイト（Wustite：FeO），淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）が晶出している。砂鉄を始発原料とした精錬鍛冶滓の晶癖といえる。

・椀形鍛冶滓（試料番号５）

図版３⑥⑦に示す。淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル，白色粒状結晶ウスタイト，淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出している。また滓中の微細な明白色粒は金属鉄，不定形青灰色部は銹化鉄である。

(ｳ) 化学組成分析

・鍛冶滓（試料番号１）

表８に示す。全鉄分（Total Fe）は52.20%と高い割合であった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は0.13%で，酸化第１鉄（FeO）が31.76%，酸化第２鉄（Fe_2O_3）は39.15%であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO）の割合は19.69%とやや低めで，このうち塩基性成分（CaO + MgO）は2.18%である。また砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は1.91%，酸化バナジウム（V_2O_5）は0.14%

と低値であった。当鉄滓中にも製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の脈石成分（TiO_2，V）の影響が残る。以上の特徴から精錬鍛冶滓と推定される。

・椀形鍛冶滓（試料番号２）

表８に示す。全鉄分（Total Fe）は 47.71% と高めであった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は 0.05%，酸化第１鉄（FeO）が 28.58%，酸化第２鉄（Fe_2O_3）は 36.38% であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO）の割合は 24.75% で，このうち塩基性成分（CaO + MgO）は 2.03% であった。また砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は 2.68%，酸化バナジウム（V_2O_5）は 0.11% であった。当鉄滓中にも製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の脈石成分（TiO_2，V）の影響が残る。以上の特徴から精錬鍛冶滓と推定される。

・椀形鍛冶滓（含鉄）（試料番号３）

表８に示す。全鉄分（Total Fe）は 48.75% と高めであった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は 0.77% で，酸化第１鉄（FeO）が 48.88%，酸化第２鉄（Fe_2O_3）は 14.28% であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO）の割合は 25.34% で，このうち塩基性成分（CaO + MgO）は 3.76% であった。また砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は 5.17%，酸化バナジウム（V_2O_5）は 0.27% であった。当鉄滓中にも製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の脈石成分（TiO_2，V）の影響が残る。以上の特徴から精錬鍛冶滓と推定される。また滓中には最大で７㎜前後の小形の金属鉄（炭素量の低い軟鉄）が確認された。鍛冶原料鉄の不純物除去（精錬鍛冶）作業の際，滓中に取り残されたものと考えられる。

・鍛冶滓（試料番号４）

表８に示す。全鉄分（Total Fe）は 52.63% と高い割合であった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は 0.13% で，酸化第１鉄（FeO）が 48.16%，酸化第２鉄（Fe_2O_3）は 21.54% であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO）の割合は 14.86% と低めで，このうち塩基性成分（CaO + MgO）は 4.07% であった。また砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は 11.41%，酸化バナジウム（V_2O_5）は 0.59% と高値であった。当鉄滓は砂鉄を始発原料とした精錬鍛冶滓と推定される。製鉄原料の砂鉄[23]（含チタン鉄鉱）起源の脈石成分（TiO_2，V）の割合が非常に高く，未加工の鍛冶原料（製錬鉄塊系遺物）の不純物除去作業に伴う反応副生物と判断される。

・椀形鍛冶滓（試料番号５）

表８に示す。全鉄分（Total Fe）は 53.84% と高い割合であった。このうち金属鉄（Metallic Fe）は 0.18% で，酸化第１鉄（FeO）が 56.69%，酸化第２鉄（Fe_2O_3）は 13.72% であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO）の割合は 21.33% で，このうち塩基性成分（CaO + MgO）は 2.92% であった。また，砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は 5.43%，酸化バナジウム（V_2O_5）は 0.23% であった。当鉄滓中にも製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の脈石成分（TiO_2，V）の影響が残る。以上の特徴から精錬鍛冶滓と推定される。

表８　化学組成分析結果

(%)

番号	遺構	遺物番号	遺物名称	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第１鉄 (FeO)	酸化第２鉄 (Fe_2O_3)	二酸化珪素 (SiO_2)	酸化アルミニウム (Al_2O_3)	酸化カルシウム (CaO)	酸化マグネシウム (MgO)	二酸化チタン (TiO_2)	酸化バナジウム (V_2O_5)
1	第２号鍛冶工房跡	122	鍛冶滓	52.20	0.13	31.76	39.15	13.86	3.65	1.37	0.81	1.91	0.14
2	第２号鍛冶工房跡	184	椀形鍛冶滓	47.71	0.05	28.58	36.38	18.83	3.89	1.16	0.87	2.68	0.11
3	第２号鍛冶工房跡	95	椀形鍛冶滓(含鉄)	48.75	0.77	48.88	14.28	17.87	3.71	2.21	1.55	5.17	0.27
4	第２号鍛冶工房跡	121	鍛冶滓	52.63	0.13	48.16	21.54	7.24	3.55	2.16	1.91	11.41	0.59
5	第２号鍛冶工房跡	131	椀形鍛冶滓	53.84	0.18	56.69	13.72	14.58	3.83	1.52	1.40	5.43	0.23

エ　考察

須賀下東遺跡から出土した鉄滓５点は，いずれも精錬鍛冶滓に分類される。遺跡内に未加工の鍛冶原料(製錬鉄塊系遺物）が搬入されて，不純物（金属鉄と分離不十分な砂鉄製錬滓）の除去（精錬鍛冶）が行われたことを示す遺物である。また鍛冶滓（試料番号１）の表面には鍛造剥片が確認された。これは熱間での鍛打加工に伴う微細遺物であり，鍛錬鍛冶も連続して行われていたことが明らかとなった。

註

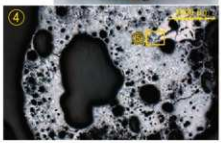
1）鍛造剥片は，熱間で鍛打したときに剥離・飛散した，鉄素材の表面の鉄酸化膜を指す。俗に鉄肌（金肌）やスケールとも呼ばれる。鍛造剥片の酸化膜相は，外層は微厚のヘマタイト（Hematite：Fe_2O_3），中間層マグネタイト（Magnetite：Fe_3O_4），大部分は内層ウスタイト（Wustite：FeO）の３層から構成される。

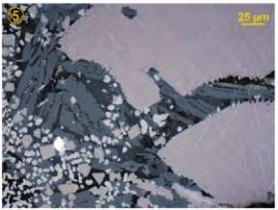
鍛造剥片３層分離模式図

2）チタン鉄鉱は赤鉄鉱とあらゆる割合に混じりあった固溶体をつくる。（中略）チタン鉄鉱と赤鉄鉱の固溶体には，チタン鉄鉱あるいは赤鉄鉱の結晶をなし，全体が完全に均質なものと，チタン鉄鉱と赤鉄鉱が平行にならんで規則正しい縞状構造を示すものとがある。チタン鉄鉱は磁鉄鉱とも固溶体をつくり，これにも均質なものと，縞状のものとがある。（中略）このようなチタン鉄鉱と赤鉄鉱，または磁鉄鉱との固溶体を含チタン鉄鉱 Titaniferous iron ore という。（木下亀城・小川留太郎，1995，岩石鉱物，保育社，より引用）

1　鍛冶滓

④⑤滓部：ウルボスピネル・ウスタイト・ファヤライト

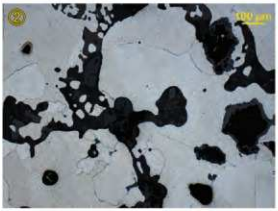


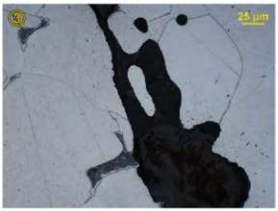


図版１　試料番号１

3　椀形鍛冶滓（含鉄）

①～③滓部：ウルボスピネル・ウスタイト・ファヤライト，金属鉄部：フェライト単相～亜共析組織

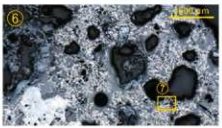


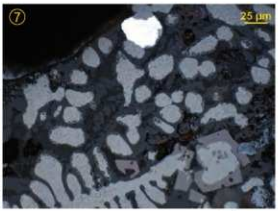


図版２　試料番号３

5　椀形鍛冶滓

⑥⑦滓部：ウルボスピネル・ウスタイト・ファヤライト

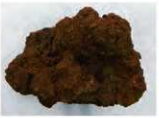


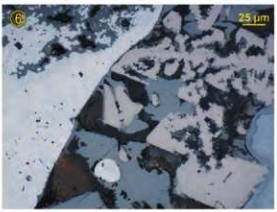


図版３　試料番号５

2　椀形鍛冶滓

④～⑥滓部：ウルボスピネル・ウスタイト・ファヤライト，青灰色部：銹化鉄

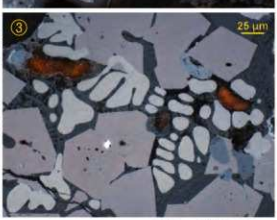




図版４　試料番号２

4　鍛冶滓

①滓部：ウルボスピネル・ウスタイト・ファヤライト，青灰色部：銹化鉄，②表層木炭破片，鍛造剥片付着，③滓部拡大



図版５　試料番号４

鉄関連微細遺物の分類・集計

パリノ・サーヴェイ株式会社

ア　はじめに

発掘調査では平安時代に帰属する第２号鍛冶工房跡と第 86 号土坑の覆土について，洗浄・篩分が実施され，微細な粒状滓，鍛造剥片が多数確認されている。本分析調査では，確認された微細遺物について分類を実施し，遺構および層別の量比を示す。

イ　試料

試料は第２号鍛冶工房跡と第 86 号土坑から採取されている。第２号鍛冶工房跡には，付属する炉跡，ピットが確認されており，これらの覆土各層から採取された土壌を洗浄・篩分することで得られた微細遺物を対象とする。第 86 号土坑は覆土を洗浄・篩分することで得られた微細遺物を対象とする。各試料の篩分は５㎜，３㎜，１㎜で実施し，それぞれについて分類・計量を実施してあるが，表 18･19 でそれらの総量を記載した。試料の分類結果の詳細を示した別添報告書に記載する。

ウ　分析方法

各試料には粒状滓，鍛造剥片，鉄滓などの製鉄に関連する微細遺物の他に，礫，土塊，炭化材等が混在する。これらはその他とし，計量を行った。製鉄に関連する微細遺物については，肉眼および顕微鏡による観察を行い，粒状滓，鍛造剥片，鉄滓に分類し，各重量を計測した。なお，５㎜，３㎜の試料から得られた粒状滓，鍛造剥片については計数も合わせて実施し，別添報告書に記載した。表９には第２号鍛冶工房跡の付属施設各層について分類結果を示し，合わせて公益財団法人茨城県教育財団より提供された第２号鍛冶工房跡の平面・断面図に，粒状滓，鍛造剥片の計量結果をトーンで表現した。（第 121・122 図）

エ　結果

第２号鍛冶工房跡の付属施設毎の結果を表９に示す。また，第 121・122 図には第２号鍛冶工房跡の付属施設について，粒状滓および鍛造剥片の重量をトーンで表現した。本分析調査で対象とした全試料の重量は，粒状滓が 1,887.04g，鍛造剥片が 3,509.28g，鉄滓が 137,100.19g，その他が 31,257.99g であった。遺構別では，第２号鍛冶工房跡は粒状滓が 1,799.94g，鍛造剥片が 3,388.19g，鉄滓が 128,722.77g，その他が 29,155.35g であり，第 86 号土坑跡は粒状滓が 87.10g，鍛造剥片が 121.09g，鉄滓が 8,377.42g，その他が 2,102.64g であった。

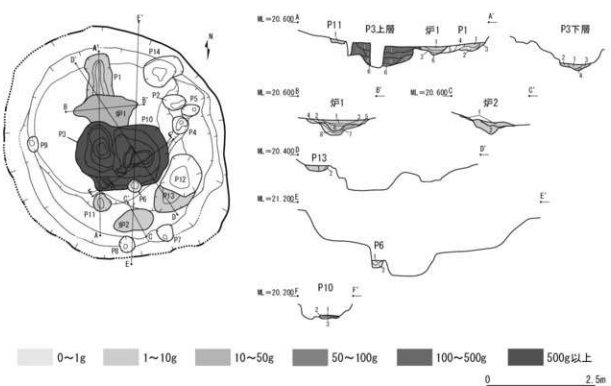
オ　考察

本遺跡における分析調査で，第２号鍛冶工房跡から出土した椀形滓を中心とした鉄滓を対象に，金属学的分析調査を実施している。これらの鉄滓には砂鉄起源の脈石成分が残ることから，精錬鍛冶滓であることが示された。同時に，分析対象とした鉄滓の表面に鍛造剥片が確認されたことから，鍛錬鍛冶も連続して行われていた可能性についても言及した。

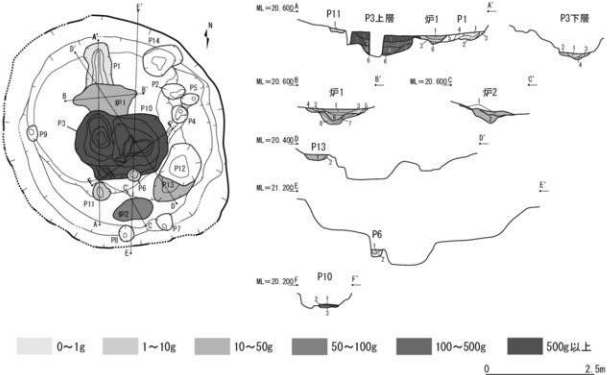
今回の微細遺物分類結果において，第２号鍛冶工房跡から多くの粒状滓，鍛造剥片が確認されたことは鍛錬鍛冶が行われていた可能性を支持するものである。第２号鍛冶工房跡の各付属施設における粒状滓と鍛造剥片の出土状況を見ると，Ｐ３が最も多いが，特に上層１層から上層４層において多く，下層では少なくなる。このことは，Ｐ３の埋没過程で，これらの微細遺物が投棄された可能性を示す。

表9　第２号鍛冶工房跡微細遺物分類結果表

遺構名	内部施設名	層位	粒状滓（g）	鍛造剥片（g）	鉄滓（g）	その他（g）
第２号鍛冶工房	P1	１層	1.08	0.88	197.33	48.76
第２号鍛冶工房	P1	２層	0.50	0.00	58.24	24.86
P1 計			1.58	0.88	255.57	73.62
第２号鍛冶工房	P3	上層１層	351.94	601.75	33,809.56	5,285.39
第２号鍛冶工房	P3	上層２層	492.02	238.57	29,949.81	4,569.56
第２号鍛冶工房	P3	上層３層	457.01	1,842.49	28,924.50	5,515.91
第２号鍛冶工房	P3	上層４層	323.54	133.22	13,569.14	1,511.51
第２号鍛冶工房	P3	上層５層	79.69	181.70	3,532.05	389.97
第２号鍛冶工房	P3	上層６層	28.36	15.71	851.85	82.92
第２号鍛冶工房	P3	下層１層	3.66	3.40	101.46	19.60
第２号鍛冶工房	P3	下層２層	1.54	1.78	68.96	15.71
第２号鍛冶工房	P3	下層３層	1.68	1.16	55.00	4045.64
第２号鍛冶工房	P3	下層４層	7.29	3.26	392.64	83.70
P3 計			1,746.73	3,023.04	111,254.97	21,519.91
第２号鍛冶工房	P6	１層	0.51	1.24	155.38	11.36
第２号鍛冶工房	P6	２層	0.07	0.47	18.10	6.94
P6 計			0.58	1.71	173.48	18.30
第２号鍛冶工房	P10	１層	3.13	5.27	4,488.72	144.72
第２号鍛冶工房	P10	２層	24.58	202.13	4,117.54	285.26
P10 計			27.71	207.40	8,606.26	429.98
第２号鍛冶工房	P11	１層	1.23	1.64	85.60	7.37
P11 計			1.23	1.64	85.60	7.37
第２号鍛冶工房	P13	１層	5.10	36.12	1,298.93	194.97
P13 計			5.10	36.12	1,298.93	194.97
第２号鍛冶工房	炉１	１層	6.12	16.27	690.37	792.02
第２号鍛冶工房	炉１	２層	3.14	10.54	855.74	703.30
第２号鍛冶工房	炉１	３層	2.60	5.60	521.20	293.90
第２号鍛冶工房	炉１	４層	0.70	1.10	19.20	21.10
第２号鍛冶工房	炉１	５層	0.04	0.13	41.67	810.09
第２号鍛冶工房	炉１	６層	1.10	10.02	648.69	394.67
第２号鍛冶工房	炉１	７・８層	0.31	1.84	75.99	3,424.83
炉１計			14.01	45.50	2,852.86	6,439.91
第２号鍛冶工房	炉２	１層	1.60	27.24	1,084.68	127.50
第２号鍛冶工房	炉２	２層	1.40	44.66	3,110.42	343.79
炉２計			3.00	71.90	4,195.10	471.29



第121図　第２号鍛冶工房跡粒状滓出土状況



第 122 図　第２号鍛冶工房跡鍛造剥片出土状況

(4) 土　坑

第 86 号土坑（第 123・124 図）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区北部のＣ１h8 区，標高 21 mほどの台地平坦部に位置している。

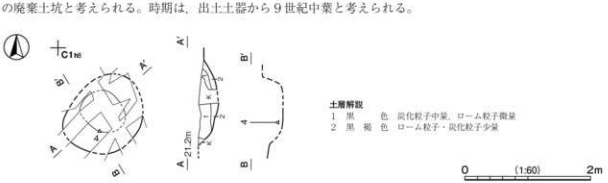
重複関係　第 24 号竪穴建物跡及び第 48 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.34 m，短径 1.12 mの楕円形と推定され，長径方向はＮ－ 45°－Ｅである。深さは 32cmで，壁は外傾している。

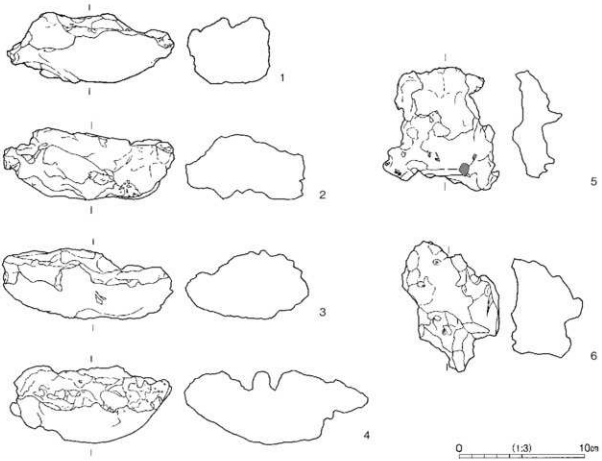
覆土　２層に分層できる。東側から流れ込んだ堆積状況を示しており，自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 45 点（坏２，甕類 43），須恵器片５点（坏），土製品 92 点（羽口），石製品 39 点（金床石）のほか，鉄滓 663 点（18.91kg）が出土している。鉄滓のうち椀形滓は 38 点（15.24kg）である。４は中央部の覆土下層から，１～３・５・６は覆土中から出土している。

所見　羽口や鉄滓が多量に出土しており，隣接する第２号鍛冶工房跡から廃棄された可能性が高く，鉄滓などの廃棄土坑と考えられる。時期は，出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第 123 図　第 86 号土坑実測図



第 124 図　第 86 号土坑出土遺物実測図

第 86 号土坑出土遺物観察表（第 124 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	椀形滓	6.7	13.3	7.1	575.0	鉄	一部発泡　全面錆化　底部に炉壁付着	覆土中	PL27
2	椀形滓	9.5	13.6	7.5	800.0	鉄	一部発泡　全面錆化　底部に炉壁付着	覆土中	PL27
3	椀形滓	9.7	13.6	7.0	935.0	鉄	一部発泡　底部に炉壁付着	覆土中	PL27
4	椀形滓	14.7	12.9	6.2	965.0	鉄	一部発泡　全面錆化	覆土下層	PL27
5	鉄滓	9.8	9.4	3.9	275.0	鉄	一部発泡　全面錆化	覆土中	
6	鉄滓	10.4	7.8	5.7	505.0	鉄	一部発泡　全面錆化	覆土中	

5　中・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は，道路跡 1 条，溝跡 1 条を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　道路跡

第 1 号道路跡（第 125 図・付図）

調査年度　平成 30 年度

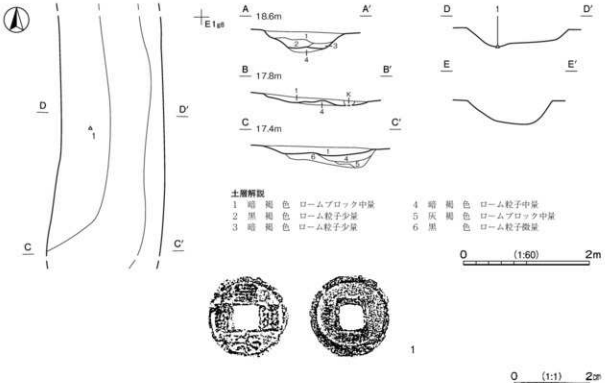
位置　調査区南部の D 1j7 ～ E 1j7 区，標高 17 ～ 18 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　確認できた長さは 39.10 m で，上幅 0.62 ～ 1.82 m，下幅 0.30 ～ 1.02 m である。D 1j7 区から南（N － 180゜－ E）へ直線状に延びている。路面はほぼ平坦で，南に向かって緩やかに傾斜している。

覆土　6 層に分層できる。第 4 層上面が踏み固められ，路面と考えられる。路面は 1 面しか確認できなかった。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　土師器片 57 点（坏 2，椀 1，甕類 53，甑 1），須恵器片 10 点（坏 5，甕類 5），土製品 1 点（管状土錘），銭貨 1 点（皇宋通寶）のほか，鉄滓 4 点が出土している。1 は中央部の路面から出土している。

所見　時期は，中世末から江戸時代初めと考えられる。



第 125 図　第 1 号道路跡・出土遺物実測図

第 1 号道路跡出土遺物観察表（第 125 図）

番号	銭 名	径	孔幅	重量	初鋳年	材 質	特 徴	出土位置	備 考
1	皇宋通寶	2.18	0.60	(1.77)	1,039	銅	厚さ 0.1cm　無背銭　北宋銭	底面	PL.26

（2）溝　跡

第 2 号溝跡（第 126・127 図・付図）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区中央部の C 2g8 ～ D 1d5 区，標高 21 m ほどの台地平坦部に位置している。

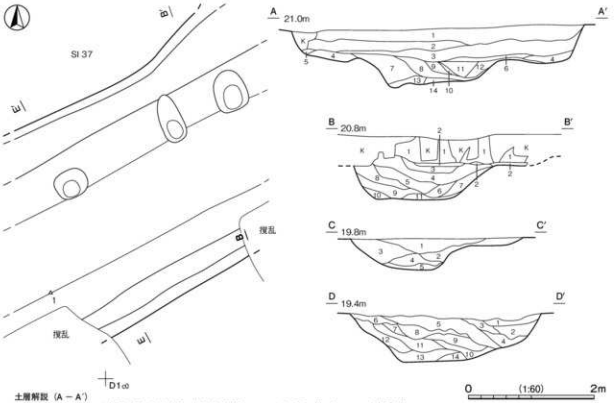
重複関係　第 37 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　東部および西部が調査区域外に延びており，長さは 61.80 m しか確認できなかった。D 1 d5 区から北東方向（N － 64゜－ E）へ直線状に延びている。上幅 2.54 ～ 4.54 m，下幅 0.64 ～ 1.50 m，深さ 78 ～ 88cm で，断面形は U 字状である。壁は外傾し，底面は北東部へ向かって緩やかに低くなっている。

覆土　4か所で観察した。土層Aは第1～3層は自然堆積，第4～14層は不規則な堆積状況を示しており，埋め戻されている。土層B・C・Dは各層ともロームブロックを含んでおり，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片249点（坏18，椀4，高坏3，甕類224.），須恵器片46点（坏31，高台付坏5，蓋1，甕類9），陶器片1点（擂鉢），土製品5点（羽口），銭貨1点（寛永通寶）のほか，鉄滓3点が出土している。銭貨以外は覆土中から出土しており，後世の混入と考えられる。1は中央部やや西寄りの覆土下層から出土している。

所見　時期は，銭貨から判断して江戸時代と考えられる。



土層解説（A－A'）

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　灰　褐　色　ローム粒子少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量
6　にぶい褐色　ローム粒子多量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量
8　灰　褐　色　ローム粒子少量
9　暗　褐　色　ローム粒子少量
10　褐　　色　ローム粒子多量
11　灰　褐　色　ローム粒子中量
12　明　褐　色　ローム粒子多量
13　暗　褐　色　ロームブロック少量
14　暗　褐　色　ロームブロック微量

土層解説（B－B'）

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　黒　　色　ローム粒子少量
6　黒　褐　色　ロームブロック少量
7　黒　褐　色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ローム粒子中量
9　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子中量
10　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
11　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量

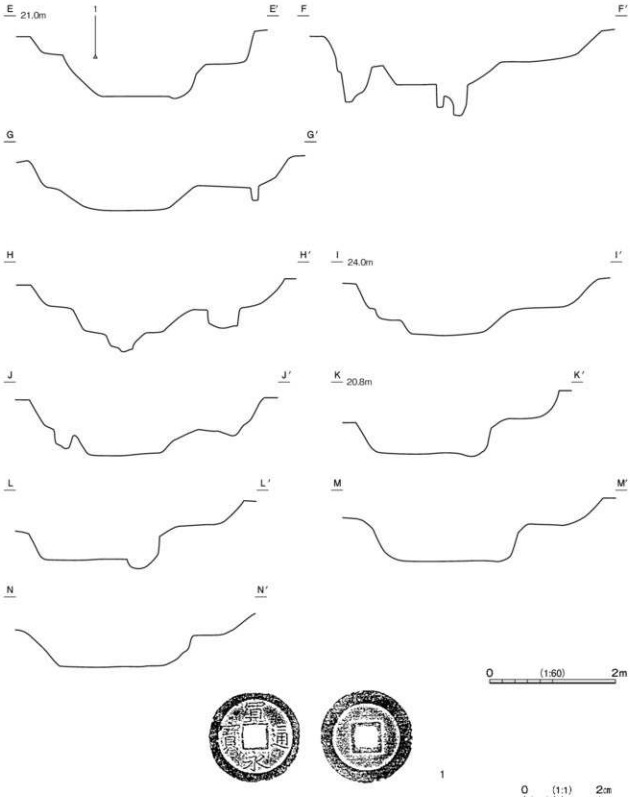
土層解説（C－C'）

1　黒　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒　　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

土層解説（D－D'）

1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子中量
7　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
9　黒　褐　色　ロームブロック少量
10　黒　褐　色　ロームブロック微量
11　黒　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック少量
12　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
13　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
14　黒　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第126図　第2号溝跡実測図



第 127 図　第２号溝跡・出土遺物実測図

第２号溝跡出土遺物観察表（第 127 図）

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
1	寛永通寶	2.48	0.57	3.25	1697	銅	厚さ 0.11cm　無背銭　新寛永	覆土中層	PL.35

6　時期不明の遺構

今回の調査で時期や性格が不明な竪穴建物跡２棟，土坑 74 基，溝跡 11 条，炉跡３基，ピット群３か所を確認した。以下，遺構について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第 36 号竪穴建物跡（第 128 図）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区南部の Ｅ１e4 区，標高 18 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 34・35 号竪穴建物に掘り込まれている。

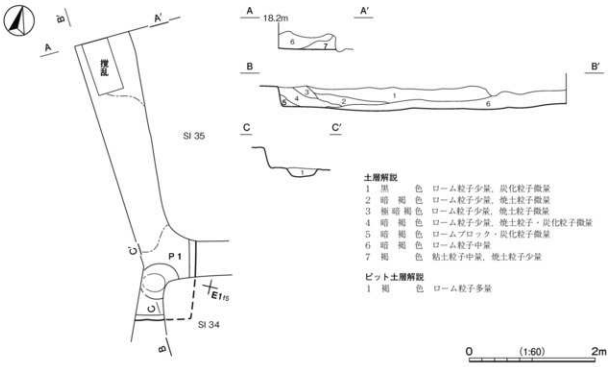
規模と形状　東部が第 34・35 号竪穴建物に掘り込まれ，西部及び北部が調査区域外のため，南北軸 4.60 m，東西軸 0.86 mしか確認できなかった。平面形は不明である。南北軸方向はＮ－12°－Ｗである。壁は高さ 30～36cmで，外傾している。

床　平坦で，踏み固められた部分は確認できたが，範囲は不明である。

ピット　Ｐ１は深さ 14cmで，位置から柱穴と考えられる。

覆土　７層に分層できる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積である。

所見　遺物は出土していない。奈良時代の第 34・35 号竪穴建物に掘り込まれていることから，時期は奈良時代以前と思われる。



第 128 図　第 36 号竪穴建物跡実測図

第 50 号竪穴建物跡（第 129 図）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区北部の Ｂ１d9 区，標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 13 号溝跡を掘り込んでいる。

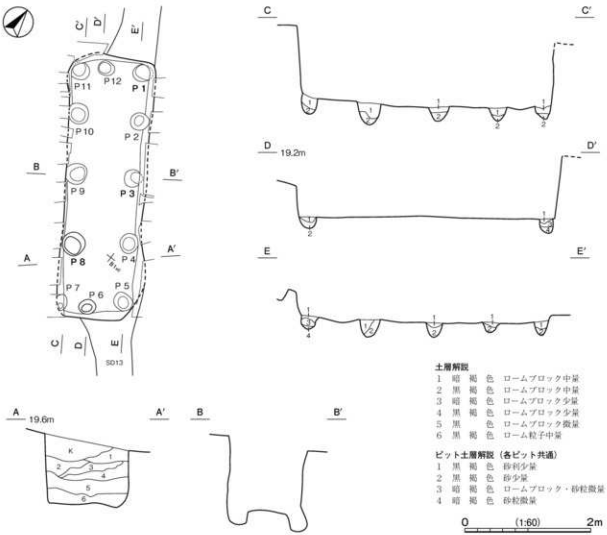
規模と形状　長軸4.18 m，短軸1.24 mの隅丸長方形である。長軸方向はN－34°－Wである。深さは106cmで，壁はほぼ直立している。

床　平坦で，踏み固められた部分は確認できなかった。

ピット　12か所。P 1～P12は深さ15～35cmで，性格は不明である。

覆土　6層に分層できる。各層ともローム ブロックが含まれており，埋め戻されている。

所見　半地下式の室の可能性も考えられる。遺物がないため，時期及び性格は不明である。



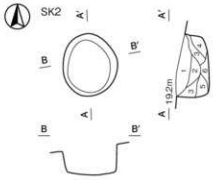
第129図　第50号竪穴建物跡実測図

表10　時期不明竪穴建物跡一覧表

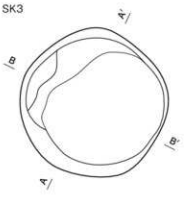
番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	炉	入口	ピット	竈	貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考
36	E 1 e4	N－12°－W	－	(4.60)×(0.86)	30～36	平坦	－	－	－	－	1	－	－	自然		不明	
50	B 1 d9	N－34°－W	長方形	4.18×1.24	101～106	平坦	－	－	－	－	12	－	－	人為		不明	SD13→本跡

(2)　土　坑

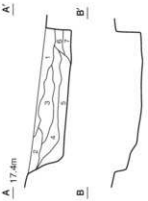
土坑74基については，実測図（第130～137図）及び一覧表を掲載する。



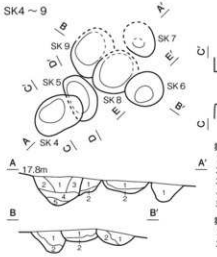
1 黒 褐 色 ローム粒子多量
2 褐 色 ロームブロック中量
3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量
5 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ロームブロック中量



1 暗 褐 色 ロームブロック中量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量
3 黒 色 ローム粒子中量
4 黒 色 ロームブロック少量

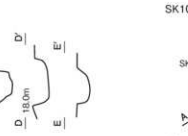


5 黒 褐 色 ロームブロック少量
6 暗 褐 色 ロームブロック少量
7 暗 褐 色 ロームブロック微量



第6号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 褐 色 ロームブロック少量

第7号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

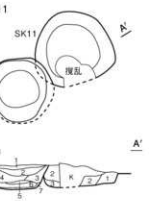


第4号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック中量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量
4 暗 褐 色 ロームブロック中量
5 暗 褐 色 ロームブロック微量

第5号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック中量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，
焼土粒子微量

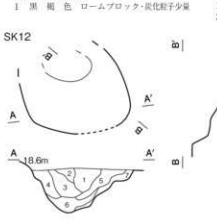
第8号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第9号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック中量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量



第10号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量，粘土ブロック微量
4 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
5 暗 褐 色 ロームブロック中量，粘土ブロック少量
6 暗 褐 色 粘土ブロック中量，炭化粒子微量
7 黒 褐 色 ロームブロック少量

第11号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子少量，粘土ブロック微量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量，粘土ブロック微量



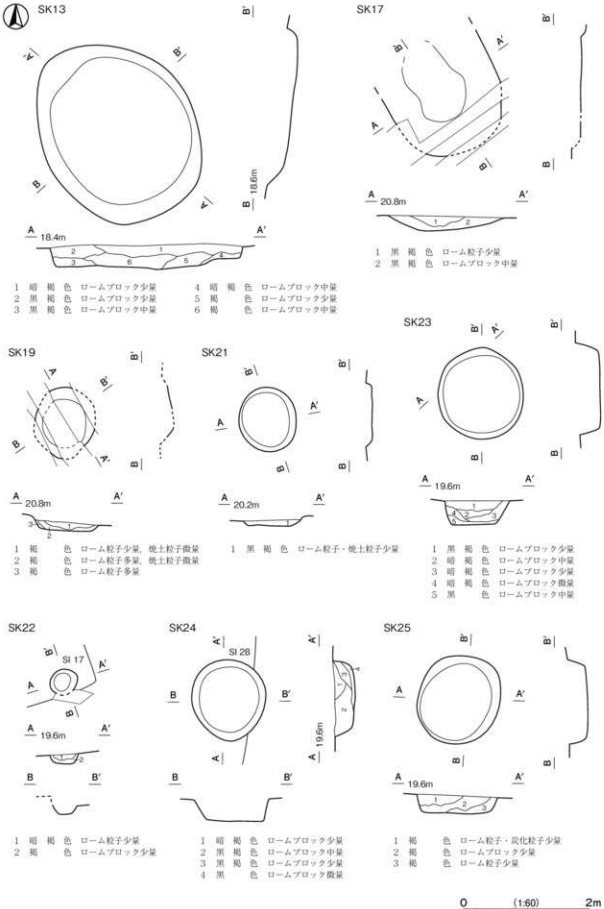
1 黒 褐 色 焼土粒子中量，ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量
4 暗 褐 色 ロームブロック中量
5 黒 褐 色 ローム粒子中量
6 黒 褐 色 ロームブロック中量
7 暗 褐 色 ロームブロック少量

1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量

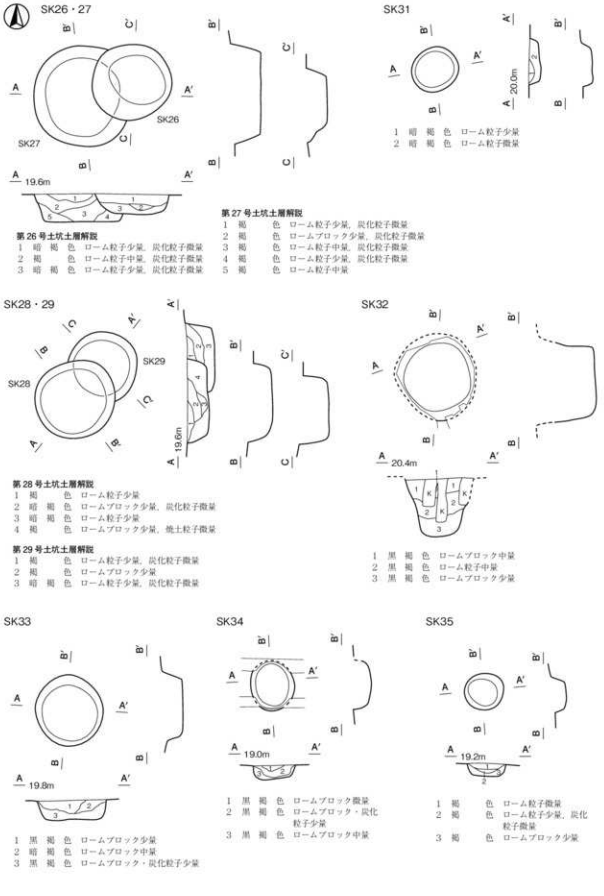
1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 褐 色 ローム粒子少量

0 (1:60) 2m

第130図 時期不明の土坑実測図(1)



第 131 図 時期不明の土坑実測図(2)



第26号土坑土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第27号土坑土層解説

1 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
4 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 褐 色 ローム粒子中量

1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量

第28号土坑土層解説

1 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量
4 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

第29号土坑土層解説

1 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 褐 色 ロームブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

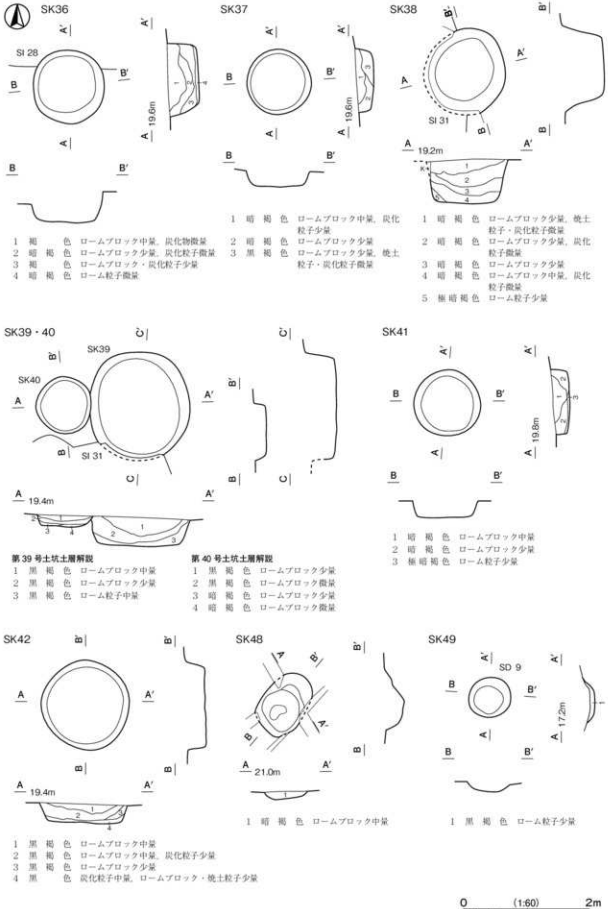
1 黒 褐 色 ロームブロック中量
2 黒 褐 色 ローム粒子中量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量

1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量

1 黒 褐 色 ロームブロック微量
2 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ロームブロック中量

1 褐 色 ローム粒子微量
2 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 褐 色 ロームブロック少量

第132図 時期不明の土坑実測図(3)



1 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

1 褐 色 ロームブロック中量、炭化物微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ローム粒子微量

1 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

1 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量
4 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 極暗褐色 ローム粒子少量

第39号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック中量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量
3 黒 褐 色 ローム粒子中量

第40号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 褐 色 ロームブロック微量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量
4 暗 褐 色 ロームブロック微量

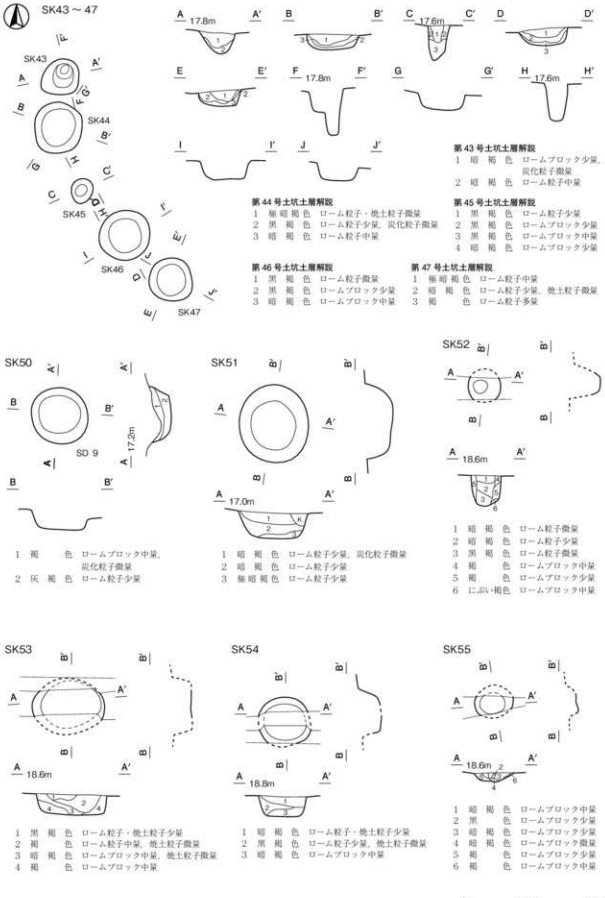
1 暗 褐 色 ロームブロック中量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量
3 極暗褐色 ローム粒子少量

1 黒 褐 色 ロームブロック中量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量
4 黒 色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量

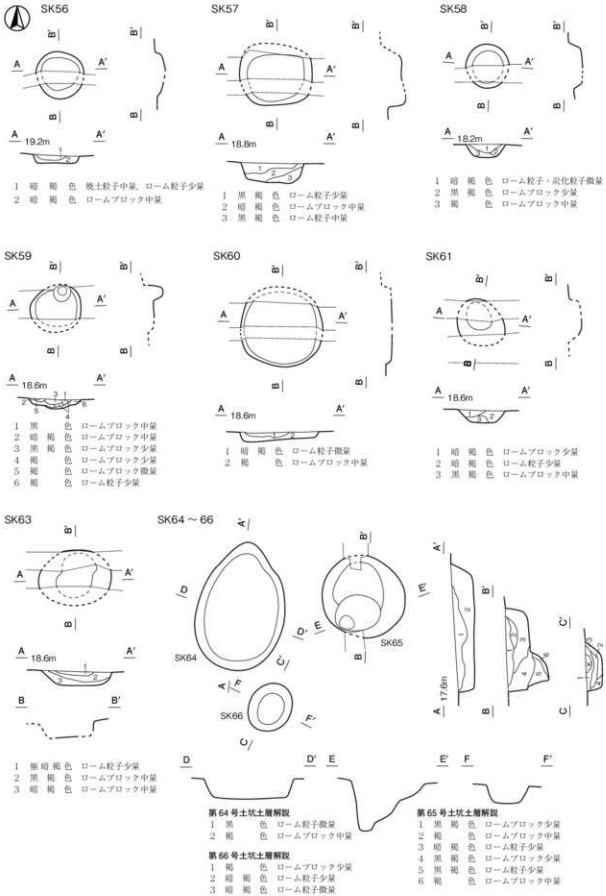
1 暗 褐 色 ロームブロック中量

1 黒 褐 色 ローム粒子少量

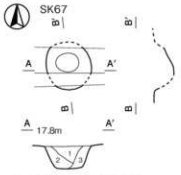
第133図 時期不明の土坑実測図(4)



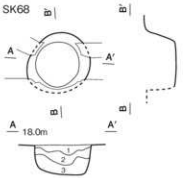
第134図 時期不明の土坑実測図(5)



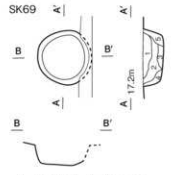
第135図 時期不明の土坑実測図(6)



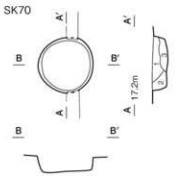
1 黒 褐 色 ローム粒子少量
2 灰 褐 色 ローム粒子微量
3 灰 褐 色 ロームブロック微量



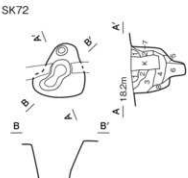
1 暗 褐 色 ローム粒子少量，炭化物微量
2 褐 色 ローム粒子微量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量



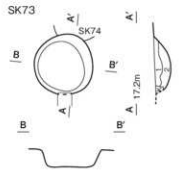
1 黒 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック微量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量
4 褐 色 ロームブロック微量
5 暗 褐 色 ロームブロック少量



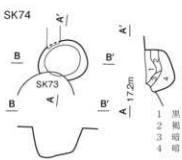
1 黒 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量



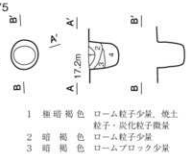
1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量
4 暗 褐 色 ロームブロック微量
5 暗 褐 色 ロームブロック少量
6 褐 色 ロームブロック微量
7 褐 色 ロームブロック少量
8 褐 色 ロームブロック中量



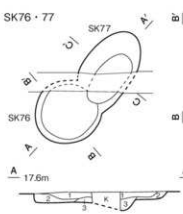
1 黒 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック微量



1 黒 褐 色 ローム粒子多量
2 褐 色 ロームブロック中量
3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
4 暗 褐 色 ロームブロック少量

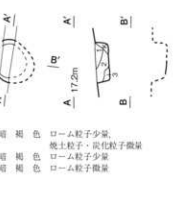


1 極暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量
4 褐 色 ローム粒子少量



第 76 号土坑土層解説
1 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2 極暗褐色 ロームブロック微量
3 暗 褐 色 ローム粒子少量

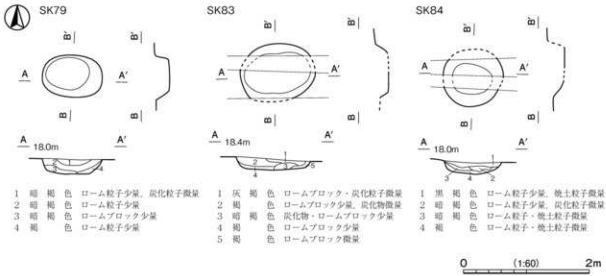
第 77 号土坑土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子多量
2 褐 色 ロームブロック中量
3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量



1 暗 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子微量

0 (1:60) 2m

第 136 図 時期不明の土坑実測図(7)



第 137 図　時期不明の土坑実測図(8)

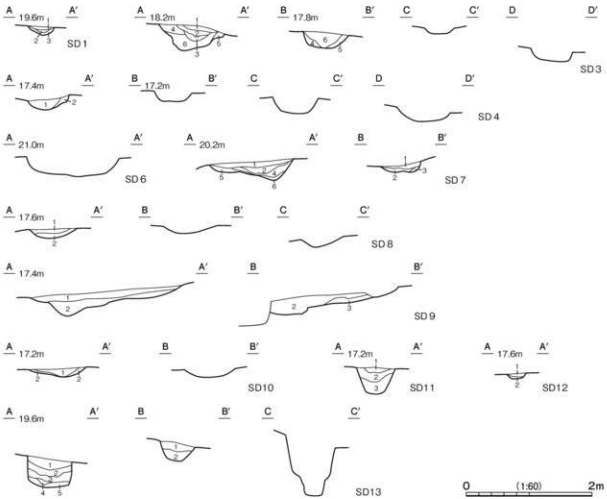
表 11　時期不明の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
2	B 2 g3	N－3°－W	楕円形	1.00×0.86	46	平坦	直立	人為	土師器	
3	A 1 i9	－	円形	2.36×2.36	42	平坦	直立	人為	土師器	
4	A 1 j9	N－60°－E	楕円形	0.82×0.56	46	凱状	直立	人為	－	SK5→本跡
5	A 1 j9	N－28°－W	［楕円形］	0.76×［0.46］	26	平坦	ほぼ直立	人為	－	本跡→SK4
6	A 1 j9	N－66°－E	楕円形	0.60×0.52	20	凱状	ほぼ直立 緩斜	人為	－	SK8→本跡
7	A 1 j9	N－38°－W	［楕円形］	［0.60］×0.46	21	凱状	ほぼ直立	人為	－	
8	A 1 j9	N－46°－E	［楕円形］	［0.76］×［0.64］	20	平坦	緩斜	人為	－	SK9→本跡 →SK6
9	A 1 j9	N－33°－W	［楕円形］	［0.86］×［0.62］	34	凱状	外傾	人為	－	本跡→SK8
10	B 1 c0	－	円形	1.02×1.02	38	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	SK11→本跡
11	B 1 b0	－	円形	1.22×1.98	26	平坦	ほぼ直立	人為	土師器，土製品	本跡→SK10
12	B 1 c0	N－28°－W	［円形・楕円形］	1.60×（1.22）	60	凱状	緩斜	人為	土師器	
13	B 2 d1	N－42°－W	楕円形	3.07×2.44	24	平坦	外傾	人為	土師器	
14	B 2 j2	－	［円形］	［0.76］×［0.76］	34	平坦	外傾	人為	土師器，須恵器	SI7→本跡
16	C 2 h2	－	円形	0.34×0.32	34	凱状	直立	自然	土師器，鉄滓	
17	C 1 a8	N－35°－W	［楕円形］	1.84×（0.75）	14	平坦	緩斜	自然	土師器，須恵器，鉄滓	
19	C 1 g0	－	円形	1.03×0.96	18	平坦	外傾	自然	－	
21	D 2 e2	N－9°－W	楕円形	1.03×0.90	10	直立	平坦	自然	土師器，須恵器，鉄滓	SI16→本跡
22	D 2 f5	N－65°－E	楕円形	0.46×0.40	29	緩斜	平坦	自然	－	SI17→本跡
23	D 2 g1	－	円形	1.45×1.35	37	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	
24	D 1 g0	N－6°－W	円形	1.29×1.19	36	平坦	外傾	人為	土師器，須恵器	SI28→本跡
25	D 1 g9	N－39°－W	楕円形	1.48×1.29	28	平坦	ほぼ直立	自然	土師器，須恵器	SI28→本跡
26	D 1 g0	－	円形	1.26×1.21	34	平坦	外傾 緩斜	自然	土師器，鉄滓	SK27→本跡
27	D 1 g0	－	円形	1.63×1.56	47	平坦	外傾	自然	土師器，須恵器，鉄滓	本跡→SK26
28	D 1 h0	－	円形	1.32×1.25	39	凱状	外傾	人為	土師器，須恵器	SK29→本跡
29	D 1 h0	－	［円形］	［1.12］×1.10	48	平坦	ほぼ直立	自然	土師器，鉄滓	本跡→SK28
31	D 2 f2	－	円形	0.76×0.70	17	平坦	外傾 ほぼ直立	自然	－	
32	D 2 d3	N－0°	［楕円形］	［1.40］×［1.32］	93	平坦	直立	人為	－	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
33	D 1 g8	－	円形	1.12×1.09	30	平坦	外傾	人為	土師器，土製品	
34	D 1 i 0	N－0°	楕円形	[0.80]×0.67	27	平坦	外傾	人為	－	SI18→本跡
35	D 2 g3	－	円形	0.65×0.58	23	平坦	外傾	自然	土師器，鉄滓	
36	D 1 h9	N－2°－E	円形	1.16×1.13	49	平坦	ほぼ直立 ほぼ直立 外傾	人為	土師器	SI28,29→本跡
37	D 1 g9	N－7°－E	円形	1.02×1.01	27	平坦	ほぼ直立	人為	－	
38	D 2 h2	N－21°－E	楕円形	[1.30]×[1.40]	68	平坦	外傾 ほぼ直立	人為	土師器，鉄滓	
39	D 2 g2	N－10°－W	楕円形	[1.73]×1.58	45	平坦	ほぼ直立	人為	土師器，須恵器	SI31→本跡 →SK40
40	D 2 g2	－	円形	0.91×0.88	10	平坦	ほぼ直立	人為	－	SK39→本跡
41	D 1 g8	－	円形	1.06×1.04	26	平坦	ほぼ直立	人為	土師器，鉄滓	
42	D 2 g1	－	円形	1.41×1.40	30	平坦	ほぼ直立	人為	－	
43	E 1 f6	－	円形	0.58×0.58	72	有段	ほぼ直立	自然	－	
44	E 1 f6	N－15°－E	楕円形	0.83×0.75	24	平坦	ほぼ直立	自然	土師器	
45	E 1 g6	N－27°－E	楕円形	0.40×0.34	60	凱状	直立	人為	－	
46	E 1 g6	－	円形	0.80×0.78	30	平坦	ほぼ直立	自然	土師器，須恵器	
47	E 1 g6	－	円形	0.70×0.68	26	平坦	ほぼ直立	自然	－	
48	C 1 h8	N－41°－E	楕円形	1.04×0.80	12～33	凱状	緩斜	自然	土師器	本跡→SK86
49	E 1 i 6	－	円形	0.68×0.63	16	平坦	外傾 緩斜	自然	－	本跡→SD9
50	E 1 i 5	－	円形	0.92×0.90	33	平坦	外傾	人為	－	
51	E 1 j 5	N－10°－W	楕円形	1.24×1.10	44	凱状	外傾	人為	土師器	
52	D 2 j 2	－	［円形］	[0.54]×0.50	48	平坦	ほぼ直立 外傾	人為	土師器	
53	E 2 a 2	N－89°－E	［楕円形］	1.16×[0.90]	32	平坦	直立 外傾	人為	－	
54	E 1 a 0	－	［円形］	[0.82]×[0.80]	30	平坦	外傾	人為	土師器，須恵器，鉄滓	
55	E 2 a 1	N－76°－E	［楕円形］	0.62×[0.52]	16	凱状	緩斜	人為	土師器，鉄滓	
56	D 1 j 8	－	円形	0.76×0.74	14	平坦	緩斜	人為	－	
57	E 1 a 8	N－90°－E	楕円形	1.16×[0.98]	30	平坦	外傾	人為	－	
58	E 1 b 0	－	［円形］	0.70×[0.68]	18	平坦	外傾	人為	土師器	
59	E 1 a 1	－	［円形］	0.80×[0.76]	28	有段	緩斜	人為	－	
60	E 1 b 8	－	［円形］	1.30×[1.24]	14	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	
61	D 1 j 2	N－28°－W	［楕円形］	[0.82]×[0.80]	19	平坦	緩斜	人為	土師器	
63	E 1 a 0	N－87°－E	［楕円形］	1.16×0.88	24	平坦	外傾	自然	土師器，須恵器，金属製品，鉄滓	
64	E 1 e 8	N－7°－E	楕円形	2.06×1.30	34	平坦	ほぼ直立 外傾	人為	土師器，須恵器	
65	E 1 e 8	－	円形	1.30×1.30	78	有段	外傾	人為	－	
66	E 1 f 8	N－23°－E	楕円形	0.80×0.68	28	平坦	外傾	自然	－	
67	E 1 c 1	－	［円形］	[0.74]×0.72	30	傾斜	外傾	人為	－	
68	E 2 b 1	－	［円形］	0.98×[0.94]	46	平坦	ほぼ直立	人為	土師器	
69	E 1 f 0	－	［円形］	0.86×(0.82)	33	凱状	外傾	人為	土師器，須恵器，土製品	
70	E 1 h8	－	円形	0.88×0.86	26	凱状	ほぼ直立	人為	土師器	
72	E 1 a 3	N－36°－E	不定形	0.94×0.70	86	凹凸	ほぼ直立	人為	土師器	
73	E 1 f 1	－	円形	0.95×0.90	39	凱状	直立	人為	－	SK74と重複
74	E 1 f 1	N－63°－E	楕円形	0.81×0.13	48	平坦	ほぼ直立	人為	－	SK73と重複
75	E 1 f 0	－	円形	0.45×0.44	44	凱状	直立	自然	－	
76	E 1 e 9	－	［円形］	1.06×[0.96]	18	平坦	外傾	人為	－	SK77→本跡
77	E 1 e 9	N－37°－E	［楕円形］	(1.24)×[0.82]	30	平坦	緩斜	人為	－	本跡→SK76
78	E 2 f 2	N－52°－W	［楕円形］	[0.72]×[0.62]	22	平坦	直立	自然	－	
79	E 1 c 0	N－81°－W	楕円形	0.94×0.68	22	平坦	ほぼ直立 外傾	自然	土師器	
83	E 2 a 1	N－73°－E	［楕円形］	[1.18]×[0.94]	16	平坦	外傾	人為	－	
84	E 1 c 9	－	［円形］	[0.94]×[0.92]	22	凱状	外傾 緩斜	自然	土製品，金属製品	

(3) 溝　跡

今回の調査で，時期や性格が不明な溝跡 11 条を確認した。平面形は全体図（付図）に掲載し，以下，実測図及び一覧表を記載する。



第 1 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック少量

第 3 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量
2　黒　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
6　暗　褐　色　ロームブロック中量

第 4 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 7 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子多量

第 8 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　　色　ローム粒子・炭化粒子微量

第 9 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子多量

第 10 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　ロームブロック中量

第 11 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 12 号溝跡土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 13 号溝跡土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量

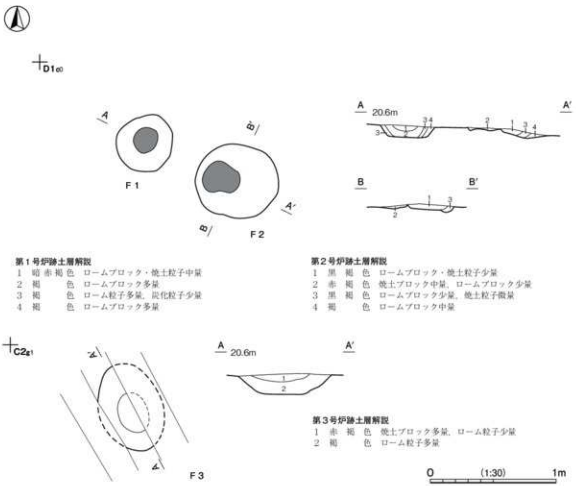
第 138 図　時期不明の溝跡実測図

表12　溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)				
1	B 2g1 ～ B 2h2	N ～ 34° ～ W	直線状	4.54	0.31 ～ 0.41	0.23 ～ 0.26	7 ～ 16	浅い U字状	外傾	人為	－	SI 1→本跡
3	A 1i9 ～ A 1j8	N ～ 49° ～ E	直線状	(7.42)	0.42 ～ 0.74	0.19 ～ 0.48	13 ～ 26	逆台形	外傾 緩斜	人為	土師器、須恵器	
4	A 1h9 ～ A 1i8	N ～ 56° ～ E	直線状	(4.68)	0.50 ～ 0.86	0.18 ～ 0.46	22 ～ 25	逆台形	外傾 緩斜	人為	土師器	
6	C 1j0 ～ D 1e4	N ～ 62° ～ E	直線状	(28.1)	0.94 ～ 1.62	0.68 ～ 1.28	9 ～ 31	浅い U字状	緩斜	人為	土師器、須恵器、土製品 鉄滓	SI27→本跡
7	D 2f2 ～ D 1g6	N ～ 79° ～ E	L字状	27.30	0.52 ～ 1.31	0.20 ～ 0.58	13 ～ 30	浅い U字状	緩斜	人為	土師器、須恵器、鉄滓	
8	E 1b4 ～ E 1h6	N ～ 85° ～ E	直線状	(8.90)	0.58 ～ 0.86	0.29 ～ 0.49	10 ～ 16	浅い U字状	緩斜	人為	－	
9	E 1b4 ～ E 1i6	N ～ 89° ～ W	直線状	(8.60)	2.02 ～ 2.60	1.40 ～ 1.96	17 ～ 30	浅い U字状	緩斜	人為	土師器、須恵器	SK49・50→本跡→SI39
10	E 1j4 ～ E 1j5	N ～ 84° ～ W	直線状	(4.58)	0.66 ～ 0.96	0.35 ～ 0.56	11 ～ 18	逆台形	緩斜	人為	土師器	
11	E 1g9 ～ E 1h8	N ～ 45° ～ E	直線状	5.40	0.48 ～ 0.69	0.23 ～ 0.32	41	U字状	外傾	人為	土師器、土製品	
12	E 2d1 ～ E 1e9	N ～ 62° ～ E	直線状	7.50	2.20 ～ 3.60	0.60 ～ 1.60	8	浅い U字状	緩斜	人為	土師器	
13	B 1e9 ～ B 1e0	N ～ 32° ～ W	直線状	9.65	0.57 ～ 0.63	0.38 ～ 0.50	30 ～ 45	U字状	直立 外傾	人為	土師器、鉄滓	本跡→SI50

(4)　炉　跡

今回の調査で時期や性格が不明な炉跡３基を確認した。以下，実測図(第139図)及び一覧表を掲載する。



第139図　第１～３号炉跡実測図

表13　炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
1	D 1 c0	－	円形	0.90×0.90	18	平坦	外傾	人為	羽口　鉄滓	
2	D 1 c0	N－70°－W	楕円形	1.32×1.14	8	平坦	外傾	人為	－	
3	C 2 g1	N－24°－W	楕円形	1.44×［1.04］	30	平坦	緩斜	人為	－	

(5)　ピット群

今回の調査で，時期や性格が不明なピット群３か所を確認した。平面図は全体図（付図）に掲載し，規模を計測表にて記載する。

表14　第１号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模（cm） 長径	規模（cm） 短径	規模（cm） 深さ
1	D 1 f8	円形	36	34	24
2	D 1 f9	円形	32	31	25
3	D 1 f8	楕円形	30	26	22

表15　第２号ピット群ピット計測表

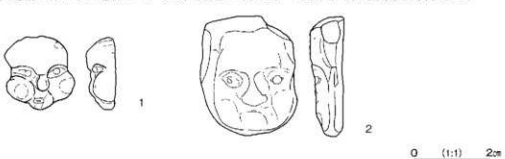
番号	位置	形状	規模（cm） 長径	規模（cm） 短径	規模（cm） 深さ
1	E 1 b9	［楕円形］	(26)	(18)	(49)
2	E 1 b0	［楕円形］	(18)	(14)	(12)
3	E 1 b0	［円形］	28	[27]	48
4	E 1 b9	［円形］	[29]	[27]	29
5	E 1 c9	円形	27	27	48
6	E 1 c8	円形	28	26	53
7	E 1 d6	円形	36	35	53
8	E 1 d6	円形	36	34	38

表16　第３号ピット群ピット計測表

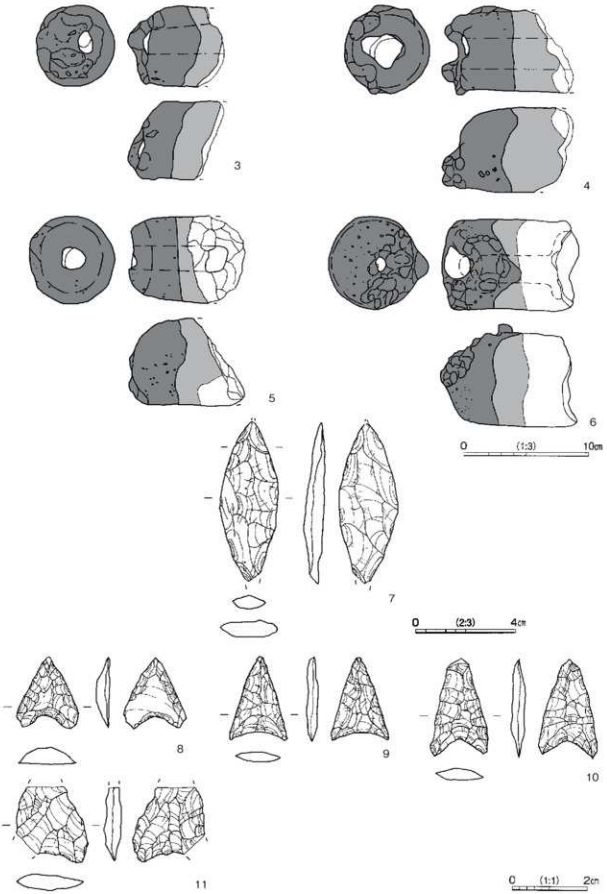
番号	位置	形状	規模（cm） 長径	規模（cm） 短径	規模（cm） 深さ
1	E 2 a3	円形	25	25	22
2	E 2 a3	楕円形	65	36	56
3	E 2 a3	楕円形	60	46	42
4	E 2 e3	［楕円形］	88	(43)	63
5	E 2 h3	［楕円形］	32	(19)	14
6	E 2 h3	楕円形	32	29	22
7	E 2 b3	［楕円形］	31	(16)	62
8	E 2 c3	［楕円形］	29	(19)	26
9	E 2 d4	楕円形	37	32	44
10	E 2 d4	円形	40	37	51
11	E 2 d5	円形	43	42	33
12	E 2 d5	楕円形	40	32	22

7　遺構外出土遺物

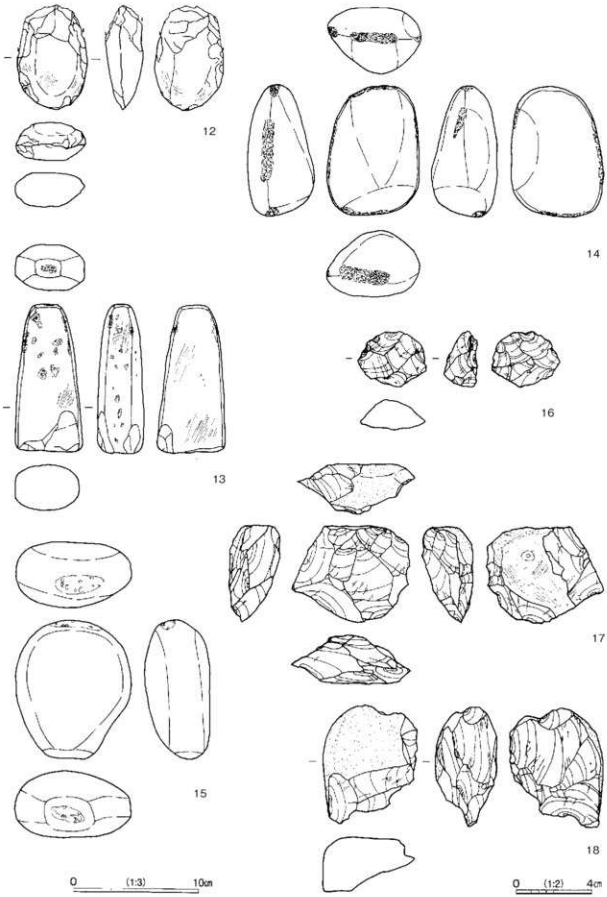
今回の調査で，遺構に伴わない遺物については，実測図（第140～143図）及び観察表を掲載する。



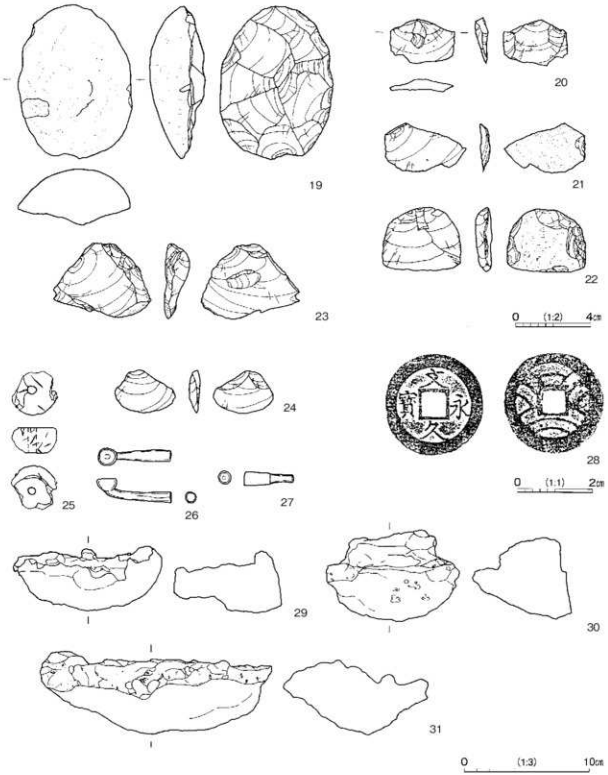
第140図　遺構外出土遺物実測図(1)



第141図　遺構外出土遺物実測図(2)



第142図　遺構外出土遺物実測図(3)



第143図 遺構外出土遺物実測図(4)

遺構外出土遺物観察表（第140～143図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
1	泥面子	1.9	1.9	0.8	1.81	長石・石英	型押し　人面　橙色	表土	PL.23
2	泥面子	3.2	2.6	0.9	6.74	長石・石英	型押し　人面　表面摩耗　橙色	表土	PL.23

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
3	羽口	7.7	6.5	6.4	249.2	長石・石英	孔径1.9～2.3cm　先端部溶化一部ガラス化　一部還元により青灰色化　外面ナデ	表土	
4	羽口	(10.5)	7.0	6.8	(339.7)	長石・石英・黒母	孔径2.5cm　先端部溶化一部発泡　一部還元により青灰色化　外面ナデ	表土	
5	羽口	(9.3)	7.0	6.9	(365.6)	長石・石英・黒色粒子	孔径20cm　先端部溶化一部ガラス化　一部還元により青灰色化　外面ナデ	表土	
6	羽口	11.1	7.3	7.3	523.8	長石・石英	孔径22cm　先端部溶化一部ガラス化　一部還元により青灰色化　外面ナデ	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
7	矢頭器	6.4	2.3	0.8	10.95	デイサイト	両面調整　先端部欠損　木葉形	表土	PL.25
8	鏃	1.9	1.7	0.4	0.69	チャート	凹基無茎鏃　両面調整	表土	PL.25
9	鏃	2.2	1.5	0.3	0.78	チャート	凹基無茎鏃　両面調整	表土	PL.25
10	鏃	2.6	1.6	0.3	1.01	黒曜石	凹基無茎鏃　先端部欠損　両面調整	表土	PL.25
11	鏃	(2.0)	(1.9)	(0.4)	(1.69)	チャート	凹基無茎鏃　先端部・左基部一部欠損　両面調整	表土	PL.25
12	磨製石斧	(8.4)	5.5	(3.3)	(161.22)	デイサイト	表裏面研磨痕　両側縁に潰離　基部欠損	表土	PL.25
13	磨製石斧	11.8	5.5	3.7	393.88	硬砂岩	刃部欠損　表裏面研磨痕　製作時敲打痕	表土	PL.25
14	敲石	10.4	7.5	5.3	566.5	硬砂岩	敲打痕5か所	表土	PL.25
15	敲石	11.0	9.3	5.2	750.7	花崗岩	敲打痕上下2か所	表土	PL.25
16	石核	3.0	3.6	1.8	14.88	黒曜石	多方向からの潰離	表土	
17	石核	5.1	6.3	2.6	81.02	デイサイト	裏面に自然面を残す　ガジリ痕	表土	
18	石核	6.3	5.0	2.7	102.47	デイサイト	自然面を残す　ガジリ痕	表土	
19	石核	(8.1)	(6.1)	(3.0)	(132.22)	石英	自然面を残す　多方向からの潰離	表土	
20	剥片	2.4	4.2	0.7	3.43	黒曜石	横長剥片	表土	
21	剥片	2.6	4.3	0.6	3.96	デイサイト	自然面を残す	表土	
22	剥片	3.4	4.2	0.9	12.63	デイサイト	裏面に2次加工　原礫面を残す	表土	
23	剥片	4.0	5.2	1.4	18.44	鬼瑞	原礫面を一部残す　側縁部微細剥離痕	表土	
24	剥片	(3.4)	4.8	0.9	(11.27)	珍質ホルンフェルス	横長剥片	表土	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
25	紡錘車	[4.1]	0.7	2.0	(27.95)	デイサイト	一部欠損　全面研磨加工　穿孔部付近に割痕	表土	PL.26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
26	煙管	(5.9)	0.8	0.8	(5.28)	銅	雁首部　火皿径1.4cm	表土	PL.26
27	煙管	(4.0)	1.1	1.0	(4.49)	銅	吸口部　吸口円形　口元円形	表土	PL.26

番号	銭名	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
28	文久永寶	2.48	0.57	3.25	1863	銅	厚さ0.11cm　裏面11波　四文銭	表土	PL.26

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
29	椀形滓	8.5	11.8	5.2	539.6	鉄	一部発泡　一部銹化　着磁性なし	表土	
30	椀形滓	(8.0)	10.6	(7.3)	(615.6)	鉄	一部発泡　銹化　着磁性弱い	表土	
31	椀形滓	11.5	18.5	6.6	1416.5	鉄	一部発泡　一部銹化　木質付着　着磁性弱い	表土	

第4節　総　括

1　はじめに

須賀下東遺跡は平成29・30年に調査を行い，確認した遺構は竪穴建物跡49棟，鍛冶工房跡2基，土坑78基，溝跡13条，道路跡1条，炉跡3基，ピット群3か所あるる。ここでは集落の変遷を概観し，また鍛冶工房跡について若干の考察を述べ，総括としたい。時代区分については，攪乱が激しかったため，縄文時代，古墳時代（前期・中期・後期），奈良時代，平安時代，中・近世とした。調査区域内の遺構の位置については，便宜上中央部の第2号溝跡を境に北側を北部，南側を南部とした。また，竪穴建物跡の規模については，大型竪穴建物跡は面積が36㎡を超えるもの，中型は16～36㎡のもの，小型は16㎡以下のものとした。

2　各時代の様相

(1)　縄文時代

この時代の遺構は，土坑3基を確認した。時期は第1号土坑が中期，第71号土坑が後期前半，第85号土坑が前期後半で，時期差がある。第1号土坑は北部，第71・85号土坑は南部に位置している。第1号土坑は断面形が袋状を呈する。遺物は出土していない。第71号土坑からは浮島式期の縄文土器片が出土している。竪穴建物跡などは確認できなかった。

(2)　古墳時代

本期に当遺跡の集落が成立したものと思われる。竪穴建物跡24棟のほか，鍛冶工房跡1基が確認できた。竪穴建物跡は，前期3棟，中期1棟，後期20棟である。鍛冶工房跡は7世紀代と思われる。それぞれの時期について概観する。

古墳時代前期

この時期に当遺跡の集落が成立したものと思われる。第5・19・25号竪穴建物跡が該当し，いずれも4世紀中葉と考えられる。中央部の平坦部に位置している。規模は第19号竪穴建物跡は大型で面積が54㎡以上，第5・25号竪穴建物跡は中型である。平面形は第5号竪穴建物跡が長方形，第19号竪穴建物跡が方形，第25号竪穴建物跡が隅丸長方形とさまざまである。主軸方向は，いずれも真北から西へ振れている。炉は3棟とも建物跡の中央部のやや北寄りで確認できた。柱穴は掘り込みが深く，40～58㎝でしっかりとした印象を受ける。

主な出土遺物は土師器（坏，椀，坩，器台，炉器台，高坏，甕，小形甕，甑，手捏土器），土製品（土玉，管状土錘），金属製品（刀子，鏃，鎌）のほか，鉄滓が出土している。第19号竪穴建物跡から，須恵器の坏と蓋が多数出土したが，この時期に当遺跡周辺では須恵器は生産されておらず，後世の混入と判断した。これらは胎土などから東海地方で作られた可能性が高い。当時の地域間の交流の様子をうかがい知ることができる。また，鉄滓も後世の混入と考えられる。

古墳時代中期

この時期には，第15号竪穴建物跡が該当し，5世紀中葉と考えられる。第41号竪穴建物跡は5世紀末葉から6世紀始めと考えられ，後期として扱う。第15号竪穴建物跡は北部に位置する。規模は大型で，平面形は方形である。主軸方向はN－39°－Wと西に振れている。内部施設としては，攪乱を受けている

が，北西部で炉を確認した。主な出土遺物は土師器（坏，高坏，甕類，小形甕，甑），土製品（土玉，羽口），金属製品（釘）のほか，鉄滓が多数出土している。出土した鉄滓は，隣接する第２号鍛冶工房跡からの混入と考えられる。

古墳時代後期

この時期に集落は拡大し，竪穴建物跡20棟，鍛冶工房跡１基が確認できた。第２・３・８～10・13・14・17・18・22～24・30・31・37・38・41・46・47・49号竪穴建物跡が該当する。竪穴建物跡は遺跡中央部から北部にかけて広がり，南部は少ない。規模は大型が４棟，中型が７棟，小型が８棟で様々である。第49号竪穴建物跡の面積は不明である。第24号竪穴建物跡は面積が51㎡以上と特に大きい。平面形は方形が13棟，長方形が７棟である。第49号竪穴建物跡は長方形と推定される。主軸方向は，真北から西に振れているものが16棟，東に振れているものが３棟で，真北を指すものが１棟である。竪穴建物跡はほとんどが撹乱を受けており，遺存状態は良くないが，確認できた竪穴建物跡はほとんどが北壁か北西壁に竈が付設されている。第22号竪穴建物跡は，竈が北西壁と北東壁の２か所付設されており，作り替えの可能性が高いが，新旧関係は不明である。第41号竪穴建物跡は南部に位置し，南壁の南東コーナー寄りに付設されている初期竈を確認した。また，貯蔵穴は竈の西側に付設され，壁外へ張り出した構造で，長径98cm，短径94cm，深さ60cmと大きい。竈・貯蔵穴とも当遺跡では特異な構造だが，千葉県内の中・後期の竪穴建物跡でみられ，張り出し部が出入口になる場合もある。

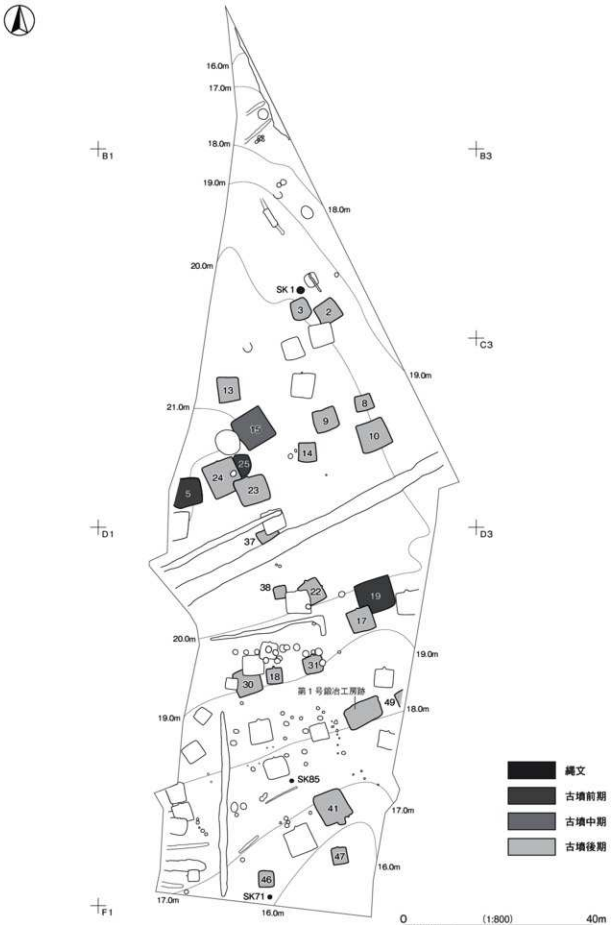
主な出土遺物は土師器（坏，椀，高坏，甕，小形甕，甑，手捏土器），須恵器（脚付椀，蓋），土製品（土玉，管状土錘，支脚，羽口），石器（砥石），金属製品（刀子，小札，鎌，鏃，釘，）で，ほかに鉄滓が出土している。第24号竪穴建物跡の床面から鉄製の小札が出土しているが，形状から後世の混入の可能性が高い。第41号竪穴建物跡では，竈及び貯蔵穴から，完形を含む多くの土器が出土している。また，北部床面から多量の炭化材を確認した。

古墳時代の鍛冶工房跡の調査例は少ないが，第１号鍛冶工房跡からは７世紀代と考えられる土器が出土した。また，第１号鍛冶工房跡では炉を３基確認したが，羽口を付設した痕跡から製鉄関係の炉は２基で，残り１基は煮炊きのための炉と考えられる。出土遺物は，土師器の坏や甕のほか，羽口や金床石，刀子や鉄斧・釘など，鉄生産に関連するものが多い。鍛造剥片や粒状滓など，鍛錬鍛冶に関連する遺物も出土している。

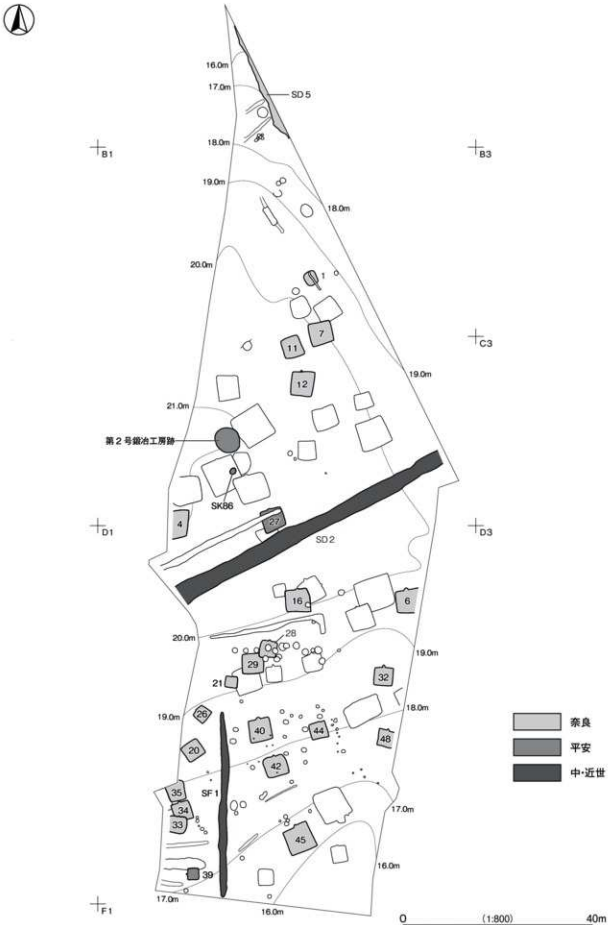
(3) 奈良時代

本期も集落は継続し，竪穴建物跡21棟が確認できた。第１・４・６・７・11・12・16・20・21・26・28・29・32～35・40・42・44・45・48号竪穴建物跡が該当する。集落は北部に位置する第１・７・11・12号竪穴建物跡の４棟のグループと南部のグループとに分けられる。規模は大型はなく，中型が11棟，小型が10棟である。第１・21・26号竪穴建物跡は面積が10㎡以下で，その中でも第21号竪穴建物跡は面積が6.7㎡と，特に小さい。平面形は方形が17棟で，長方形及び隅丸長方形が４棟である。主軸方向は，真北から西に振れるものが14棟，東に振れるものが７棟と東に振れるものの割合が以前よりやや多くなる。竈は全て北壁に付設されている。北部の４棟のうち，竈をもつ２棟と竈をもたない２棟がほぼ同時期に隣接していたとすれば，住居とそれに付属する倉庫的建物の可能性が考えられる。

主な出土遺物は土師器（坏，椀，高台付坏，鉢，甕，小形甕，甑，手捏土器），須恵器（坏，蓋），土製品（土玉，管状土錘，羽口），金属製品（刀子，鎌），木製品（巻斗ヵ）で，ほかに鉄滓がある。巻斗と考えられる木製品は，南部に位置する第35号竪穴建物跡の床面から炭化した状態で出土した。巻斗とは社



第144図　須賀下東遺跡集落変遷図(1)



第 145 図　須賀下東遺跡集落変遷図(2)

寺を建築する際，柱の上で屋根の桁や梁などの横材を受ける正方形の部材で，一番下で支える大形のものを大斗，大斗以外の小形のものを巻斗という。材質はケヤキで，ケヤキは広く日本全国に分布し，耐湿・耐久性に優れており，古くから建築材，家具材として用いられている。茨城県内でも，弥生時代から平安時代にわたって，竪穴建物跡からの出土例がある。

(4) 平安時代

本期の9世紀代の集落は極端に縮小し，竪穴建物跡2棟と鍛冶工房跡1基，土坑1基が確認できただけである。出土遺物から第27・39号竪穴建物跡は9世紀前葉，第2号鍛冶工房跡及び第86号土坑は9世紀中葉と考えられる。第27号竪穴建物跡は中型で北部，第39号竪穴建物跡は小型で南部に位置する。第39号は面積が6.1㎡と特に小さい。平面形は，両方とも方形である。主軸方向は両方とも西に振れており，第39号竪穴建物跡は真西を指している。また，両方とも竈は付設されているが，第27号竪穴建物跡は北壁，第39号竪穴建物跡は西壁である。第27号竪穴建物跡の柱穴の掘り込みは50～76cmと深く，しっかりとした印象を受ける。第39号竪穴建物跡では，南壁際から出入口施設に伴うと考えられるピット1か所しか確認できなかった。

主な出土遺物は，土師器（坏，椀，甕，甑），須恵器（坏，高台付坏，蓋，長頸瓶，甕，盤），土製品（土玉，管状土錘，支脚，羽口，不明土製品），金属製品（刀子）である。第39号竪穴建物跡からは，土玉が17点出土している。

第2号鍛冶工房跡及び第86号土坑からは，羽口，鉄滓，粒状滓，鍛造剥片など，製鉄に関連する遺物が大量に出土しており，長期間操業していたことが分かる。また，第86号土坑からは第2号鍛冶工房跡と同様の遺物が出土しており，関連が考えられる。第2号鍛冶工房跡が存在した本期には，竪穴建物跡は2棟と少なく，集落の中心は調査区域外に存在した可能性が高い。

(5) 中・近世

この時期に該当するのは，第1号道路跡と第2号溝跡である。第1号道路跡は南部に位置し，ほぼ南北に直線的に延びている。土師器や須恵器の破片のほか，銭貨「皇宋通寶」が出土している。皇宋通寶は，中世から江戸時代初めまで多く流通していた北宋銭である。第2号溝跡は遺跡北東部の台地縁辺部遺跡内を横断するように南西方向へ直線的に延びている。地境に伴う溝の可能性が考えられる。本跡からは，銭貨「寛永通寶」が出土している。

3 鍛冶工房跡について

当遺跡からは鍛冶工房跡2基を確認し，土師器や須恵器のほか，製鉄関係の遺物が大量に出土している。時期は，出土土器から第1号鍛冶工房跡は7世紀代，第2号鍛冶工房跡は9世紀中葉と考えられる。また，第2号鍛冶工房跡に伴うと考えられる第86号土坑からも同様の遺物が出土している。

第1号鍛冶工房跡は南部に位置し，長軸約8m，短軸約5mで，長方形を呈する。主軸方向はN－60°－Eである。内部から東西に並ぶように炉3基が確認でき，そのうち東西の端の2基で羽口を据え付けた痕跡を確認した。これら2基は製鉄に関連する炉と考えられ，中央部の炉からは同様の痕跡は確認されず，煮炊きのための炉と判断した。鉾田市に隣接する行方市の木工台遺跡では，鍛冶炉とともに竈が付設された鍛冶工房跡が確認されている。建物内に製鉄関係の炉と生活のための炉や竈が確認された例である[1)]。

主な出土遺物は土師器の坏や甕のほか，羽口や金床石，砥石，刀子，鉄斧，釘など，製鉄に関連する遺物が多数出土している。

第２号鍛冶工房跡は，遺跡内の北部に位置し，長径約６m，短径約５mの楕円形を呈する。炉はほぼ南北に並んで２基確認した。また中央部で２基の炉に挟まれるようにＰ３及びP10を確認した。P10はＰ３の下部にある。Ｐ３は長径が約２m，短径が1.5 m，深さ約80cmである。Ｐ３及びP10からは，鉄滓などが多量に出土しており，鍛冶炉から出た鉄滓などが廃棄されたものと考えられる。

表17　第１号鍛冶工房跡微細遺物出土状況

施設	粒状滓[g]	鍛造剥片[g]	鉄滓[g]	計[g]	その他
炉1	4.99	4.31	99.09	108.39	
炉2	2.76	3.57	198.52	204.85	羽口
炉3	1.76	1.89	10.95	14.60	羽口
Ｐ１	6.10	45.23	437.08	488.41	不明鉄製品
Ｐ６	7.36	51.37	696.77	755.50	羽口 粘土塊
計[g]	22.97	106.37	1442.41	1571.75	

主な出土遺物は，土師器（坏，椀，甕，甑），須恵器（坏，高台付坏，蓋，盤，壺，長頸瓶，甕），土製品（羽口），石製品（金床石），金属製品（刀子，釘）で，ほかに鉄滓が大量に出土している。鉄滓は椀形滓や流動滓を含め，遺構全体から4,631点（約199.423kg），羽口は784点（53.75kg）出土している。

鍛冶工房跡から採取した土壌は施設別，各層別に洗浄・篩分し，得られた微細遺物を粒状滓，鍛造剥片，鉄滓に分類し，計量した。ここでは，施設別の微細遺物の総量を表17･18に示した。第２号鍛冶工房跡では，採取した微細遺物の分類・計量の結果，これらは中央部のＰ３からの出土が最も多く，その中でも上層～中層が多く，下層では少なくなることから，これら微細遺物がＰ３が埋没する過程で大量に投棄されたことが分かった。

また，第２号鍛冶工房跡から採取した鉄滓５点は化学分析の結果，いずれも精錬鍛冶滓ということが分かった。精錬鍛冶滓とは，鉄生産の工程の中で未加工の鍛冶原料を精錬する際に出る鉄滓である。さらに，鉄滓の表面から鍛造剥片も検出されており，精錬鍛冶に続いて鍛錬鍛冶も行われていたことが分かった[2]。

第２号鍛冶工房跡は長期にわたって精錬鍛冶，そして鍛錬鍛冶の工房として使用され，廃棄されるまでに，鉄滓や鍛造剥片，粒状滓などが何回か大量に投棄されたと考えられる。

表18　第２号鍛冶工房跡微細遺物出土状況

施設	粒状滓[g]	鍛造剥片[g]	鉄滓[g]	計[g]	その他
炉1	14.01	45.50	2,852.86	2,912.37	
炉2	3.00	71.90	4,195.10	4,270.00	
Ｐ１	1.58	0.88	255.57	258.03	
Ｐ３	1,746.73	3,023.04	111,254.97	116,024.74	羽口 金床石
Ｐ６	0.58	1.71	173.48	175.77	
P10	27.71	207.40	8,606.26	8,841.37	
P11	1.23	1.64	85.60	88.47	
P13	5.10	36.12	1,298.93	1,340.15	
計[g]	1,799.94	3,388.19	128,722.77	133,910.90	

第86号土坑は遺跡内の北部に位置し，長径1.3 m，短径1.1 mほどの楕円形を呈し，深さは32cmほどである。第２号鍛冶工房跡からは，南に４mほどの距離にある。羽口や金床石などの破片や椀形滓を含む鉄滓が大量に出土したため，第１・２号鍛冶工房跡と同様に土壌を採取し，微細遺物を洗浄・篩分し，計量した。結果は表19のとおりである。第２号鍛冶工房跡との位置関係及び出土遺物などから，本跡は第２号鍛冶工房跡から出た鉄滓などの廃棄土坑の可能性が高い。

表19　第86号土坑微細遺物出土状況

遺構	粒状滓[g]	鍛造剥片[g]	鉄滓[g]	計[g]	その他
第86 号土坑	87.10	121.09	8377.42	8,585.61	金床石 羽口

4　おわりに

各時代の様相と遺跡内で確認された鍛冶工房跡について，若干の考察を述べてきた。当遺跡は調査以前畑

地で，耕作による攪乱が激しかったが，遺構・遺物とも可能なかぎり調査した。

各時代を概観すると，遺構は確認されなかったが，縄文土器片が出土しており，縄文時代の人々の生活の痕跡を確認した。集落としては，古墳時代前期に成立し，竪穴建物跡の棟数は少ないが中期へと継続していく。そして，後期に集落は拡大し，そのまま奈良時代へと継続し，平安時代には縮小している。平安時代に集落が縮小する理由は定かではないが，調査区域が限定的であり，平安時代の集落の中心が調査区域外であった可能性もある。また，大化の改新（645年）から，大宝元年（701年）の律令制度の完成，それに続く行政組織の変遷などと関係があったとも考えられる[3]。

また，製鉄関係の遺構3基が確認され，関連する遺物も大量に出土している。2つの鍛冶工房跡からは，それぞれ炉が2基確認されており，遺存状態は良くないが，これらの炉は規模や形状から，当時東日本で広くみられる竪型炉の可能性が高い。出土した鉄滓などは全体でコンテナ42箱，羽口はコンテナ6箱にのぼる。鍛冶工房跡から出土した鉄滓などについては，外部委託も含めて可能な限り，分類・集計，分析を行ったが，まだ不明な点も多い。例えば，鍛造剥片は大小様々なものが出土しており，鍛錬鍛冶も何段階かに分けて行われた可能性があるが，これについてはさらに分析が必要である。この他にも，鍛冶工房跡と集落との関連や鍛冶工房内の構造などは，今後の課題といえる。鉾田市の鎌田遺跡や行方市の木工台遺跡など当遺跡周辺からも鍛冶工房跡が確認されているが，まだ調査例が少なく，今後資料の蓄積が期待される。

註

1）茂木悦男『北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　木工台遺跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第140集　1998年3月

2）栃木県立なす風土記の丘資料館　第2回企画展　古代東国の産業　－那須地方の窯業と製鉄業－　1994年10月

3）鉾田町史編纂委員会　図説『ほこたの歴史』　1995年12月

写　真　図　版

第２号鍛冶工房跡出土　羽口

平成29・30年度調査区全景（南から）合成

第２号竪穴建物跡

第５号竪穴建物跡

第８号竪穴建物跡

第10号竪穴建物跡

第17号竪穴建物跡
遺物出土状況

第17号竪穴建物跡

第18号竪穴建物跡

第19号竪穴建物跡
遺物出土状況

第19号竪穴建物跡

第22号竪穴建物跡

第23号竪穴建物跡

第30号竪穴建物跡

第24号竪穴建物跡
遺物出土状況

第24号竪穴建物跡

第37号竪穴建物跡

第41号竪穴建物跡
遺物出土状況

第41号竪穴建物跡
竈遺物出土状況

第41号竪穴建物跡

第１号鍛冶工房跡

第１号鍛冶工房跡
炉１

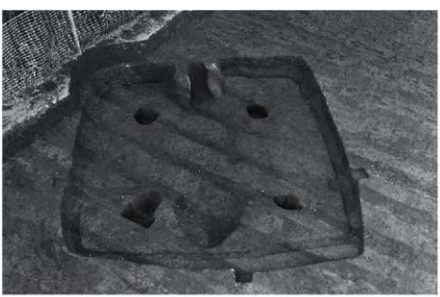
第４号竪穴建物跡

第６号竪穴建物跡

第７号竪穴建物跡

第11号竪穴建物跡

第16号竪穴建物跡



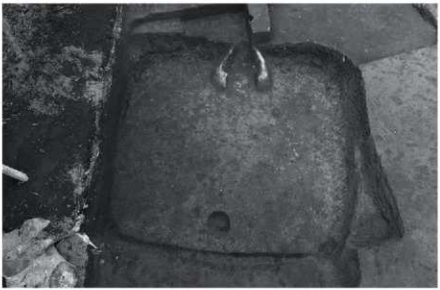
第20号竪穴建物跡

第26号竪穴建物跡

第28号竪穴建物跡

第29号竪穴建物跡

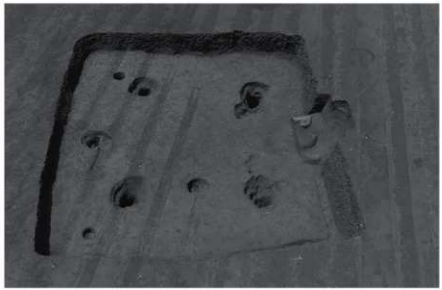
第32号竪穴建物跡



第33号竪穴建物跡

第34号竪穴建物跡

第35号竪穴建物跡



第40号竪穴建物跡

第42号竪穴建物跡

第45号竪穴建物跡

第27号竪穴建物跡

第39号竪穴建物跡
遺物出土状況

第２号鍛冶工房跡

第71・85号土坑，第５・13・15号竪穴建物跡出土土器

第15・17・18・19号竪穴建物跡出土土器

第19号竪穴建物跡出土土器

第19・24・41号竪穴建物跡出土土器

第25・41・47号竪穴建物跡，第１号鍛冶工房跡出土土器

第４・６・20・26・33・34・35号竪穴建物跡出土土器

第40・42・44・48号竪穴建物跡出土土器

SI 27 - 1

第２号鍛冶工房跡 - 1

第２号鍛冶工房跡 - 7

SI 39 - 1

第２号鍛冶工房跡 - 2

第２号鍛冶工房跡 - 4

第２号鍛冶工房跡 - 5

第27・39号竪穴建物跡，第２号鍛冶工房跡出土土器

第５・27・29・31・40・41・45号竪穴建物跡，第２号鍛冶工房跡，遺構外出土土製品

第１号鍛冶工房跡 - 3

第１号鍛冶工房跡 - 4

第２号鍛冶工房跡 - 9

第２号鍛冶工房跡 - 10

第２号鍛冶工房跡 - 11

第２号鍛冶工房跡 - 12

第２号鍛冶工房跡 - 13

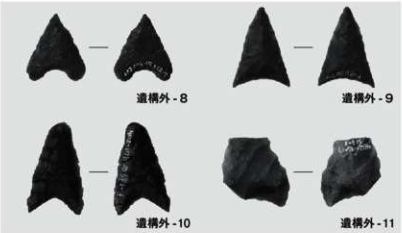
第２号鍛冶工房跡 - 14

第２号鍛冶工房跡 - 15

第２号鍛冶工房跡 - 16

第１・２号鍛冶工房跡出土土製品

遺構外 - 7


遺構外 - 8
遺構外 - 9
遺構外 - 10
遺構外 - 11

遺構外 - 12

遺構外 - 13

遺構外 - 14

遺構外 - 15

SI 47 - 8

SI 41 - 37

SI 41 - 38

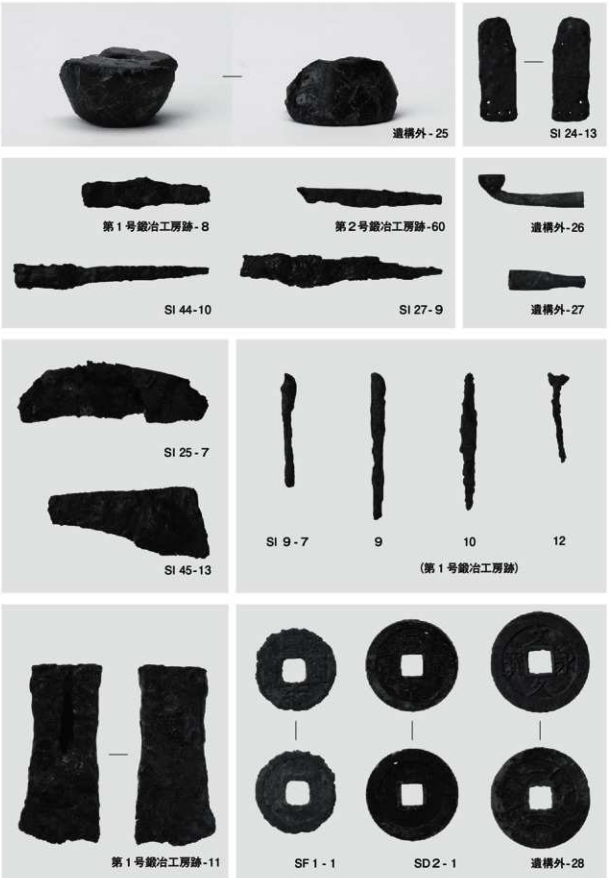
SI 24 - 12

第１号鍛冶工房跡 - 6

第２号鍛冶工房跡 - 57

第２号鍛冶工房跡 - 59

第24・41・47号竪穴建物跡，第１・２号鍛冶工房跡，遺構外出土石器



遺構外出土石器，第９・24・25・27・44・45号竪穴建物跡，第１・２号鍛冶工房跡，第１号道路跡，第２号溝跡，遺構外出土金属製品

SI 19-23

第１号鍛冶工房跡-13

第１号鍛冶工房跡-14

第２号鍛冶工房跡-62

第２号鍛冶工房跡-63

第２号鍛冶工房跡-64

第２号鍛冶工房跡-65

第２号鍛冶工房跡-66

SK86 - 1

SK86 - 2

SK86 - 3

SK86 - 4

SI 35 - 8

第19号竪穴建物跡，第86号土坑，第１・２号鍛冶工房跡出土椀形滓，第35号竪穴建物跡出土木製品

第２号鍛冶工房跡出土粒状滓・鍛造剥片

抄　　録

ふりがな	すがしたひがしいせき
書名	須賀下東遺跡
副書名	東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）建設事業地内埋蔵文化財調査報告書
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第440集
著者名	茂木悦男　パリノ・サーヴェイ株式会社
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団
所在地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL 029－225－6587
発行日	2020（令和2）年3月16日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
須賀下東遺跡	茨城県鉾田市野友須賀下859番地1ほか	08402－176	36度8分49秒	140度29分29秒	20 m	20170403～20170831 20180401～20180531	5,517 ㎡ 1,710 ㎡	東関東自動車道水戸線（潮来～鉾田）建設事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
須賀下東遺跡	生活跡	縄文	土坑　3基	縄文土器	
	集落跡	古墳	竪穴建物跡　24棟 鍛冶工房跡　1基	土師器（坏・椀・器台・炉器台・高坏・壺・甕・小形甕・甑・手捏土器），須恵器（坏・蓋）土製品（土玉・管状土錘・支脚・羽口），石器（砥石），石製品（金床石），金属製品（刀子・鎹・鎌・釘・鉄斧），椀形滓，鉄滓	
		奈良	竪穴建物跡　21棟 溝跡　1条	土師器（坏・高台付坏・椀・鉢・甕・小形甕），須恵器（坏・高台付坏・蓋），土製品（土玉・管状土錘），金属製品（刀子・鎌），木製品（巻斗カ），鉄滓	
		平安	竪穴建物跡　2棟 鍛冶工房跡　1基 土坑　1基	土師器（坏・甕），須恵器（坏・高台付坏・盤・長頸瓶・甕），土製品（土玉・管状土錘・羽口），石製品（金床石），金属製品（刀子），椀形滓，鉄滓	
	生活跡	中・近世	道路跡　1条 溝跡　1条	銭貨	
	その他	不明	竪穴建物跡　2棟 土坑　74基 溝跡　11条 炉跡　3基 ピット群　3か所	土師器（坏・甕），土製品（泥面子・羽口），石器（尖頭器・鎹・磨製石斧・敲石・紡錘車・石核・剥片），金属製品（煙管・銭貨），椀形滓，鉄滓	

要約　当遺跡は，平成29・30年度に調査され，竪穴建物跡が49棟（古墳時代24，奈良時代21，平安時代2，時期不明2）のほか，鍛冶工房跡2基などを確認した。調査の結果から，当遺跡の集落は，古墳時代前期に成立し，古墳後期から奈良時代にかけて拡大し，平安時代には縮小することが分かった。また，鍛冶工房跡からは羽口や椀形滓，鉄滓など多くの遺物が出土し，長く鉄生産が行われていたことが分かった。

印 刷 仕 様

編　集	ＯＳ	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC 2020
	図版作成	Adobe Illustrator CC 2020
	写真調整	Adobe Photoshop CC 2020
	図画類	EPSON ES－G11000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL,太ゴＢ101Pro Bold
		中ゴシックBBBPro Medium
写　真	線数	モノクロ175線以上　カラー210線以上
印　刷	印刷所へは，Adobe InDesign CCでレイアウトして入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第440集

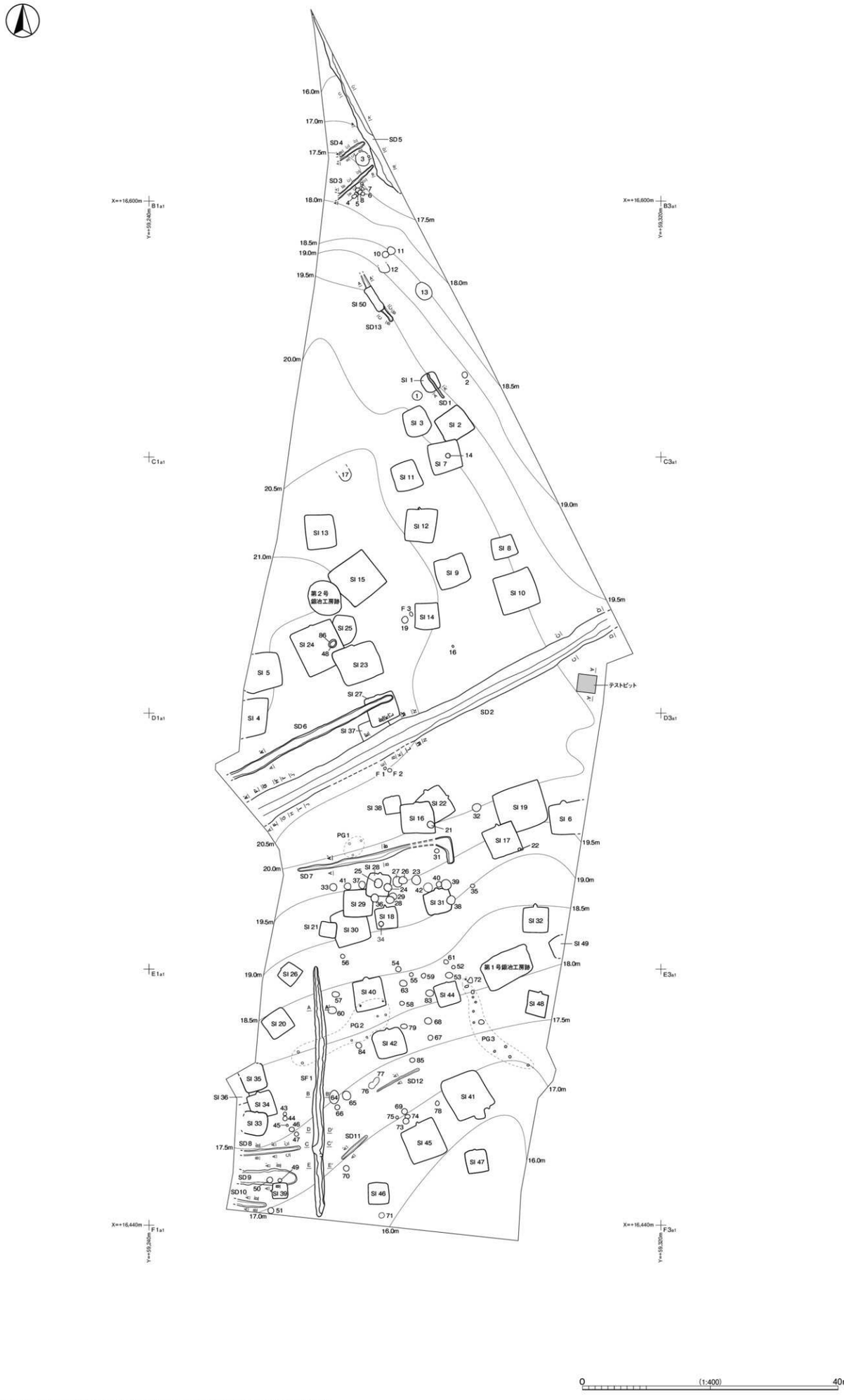
須賀下東遺跡

東関東自動車道水戸線（湖来～鉾田）
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和２（2020）年３月16日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　http：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　山三印刷株式会社
〒 311－4153　水戸市河和田町4433-33
TEL　029－252－8481



0 (1:400) 40m

付図　須賀下東遺跡遺構全体図（茨城県教育財団文化財調査報告第440集）